

元総社蒼海遺跡群（16）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008. 2

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



元總社倉海遺跡群（16）全景（南西から赤城）



元總社倉海遺跡群（16）全景（南東から櫟名）



1号畠跡全景（北西から）



A-1号道路状遺構検出状況

元総社蒼海遺跡群（16）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 8 . 2

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上野毛の国を中心として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に作られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が城をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（16）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果と言えます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成20年2月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 砂川次郎

例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所　　群馬県前橋市元総社町1718、1719番

遺　　跡　　コ　　ード　　19A130-16

発　　掘　　調　　査　　期　　間　　平成19年9月21日～平成20年1月18日

整　　理　　・　報　　告　　書　　作　　成　　期　　間　　平成19年11月26日～平成20年2月28日

発　　掘　　・　整　　理　　担　　当　　者　　櫻井和哉（技研測量設計株式会社）

4. 本書の編集は櫻井が行った。原稿執筆はIを梅沢克典（前橋市教育委員会）、他を櫻井が担当した。
5. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。
【発掘調査】青木好男・岩倉　保・梅山節子・遠藤好則・大久保正太郎・加賀美紀子・神沢昭三・小和瀬深夏・佐藤和子・白石真知江・関口弘子・関根清子・高野義孝・田島秀光・戸張泰義・西潟　登・丸山文江・森田恵子・矢内ヒロ子・吉野智貴
【整理作業】大友徳惠・桜井美佳・須田公恵・堀越晴子・山下雅江・山本洋子
6. 発掘調査で出土した遺物および、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
7. 以下の諸氏・機関に有益なご指導・御協力を頂いた。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）
元総社町自治会、須賀工業株式会社、バリノサーヴェイ株式会社

凡　　例

1. 押図中に使用した北は、座標北である。
2. 押図に建設省国土地理院発行の1：200,000、1：25,000地形図を使用した。
3. 遺構、及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　W…溝跡　I…井戸跡　D…土坑　P…ピット
O…落ち込み・風倒木痕　A…道路状道構
4. 遺構・遺物実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。
遺構　住居跡・溝跡・井戸跡・土坑…1：60、1：80　竪…1：30　全体図…1：200
遺物　土器・石製品…1／3　瓦…1／5
5. 計測値については、（ ）は現存値、〔 〕は復元値を表す。
6. セクション注記の記号は、縦り・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。
◎非常に縦まり・粘性あり　○縦まり・粘性あり　△縦まり・粘性ややあり　×縦まり、粘性なし
7. 遺構・遺物実測図の記号・網掛けは、次のとおりである。
—・床硬化範囲（遺構）・施釉範囲（遺物）　■：遺構炭・焼土・灰範囲　□：遺構石断面
■：還元焰焼成の須恵器断面　□：灰釉陶器の断面・黒色処理・付着物
8. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。
As-B（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP（榛名二ヶ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr-FA（榛名二ヶ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
As-C（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）

目 次

図版 1			
図版 2			
序	i		
例言・凡例	ii		
I 調査に至る経緯	1	V 遺構と遺物	8
II 遺跡の位置と環境	1	VI まとめ	16
III 調査の方針と経過	4	付録	17
IV 基本層序	5		

表 目 次

Tab. 1 元總社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表	3	Tab. 8 道路状遺構計測表	22
Tab. 2 壓穴住居跡一覧表	21	Tab. 9 出土土器觀察表(1)	23
Tab. 3 罫一覧表	21	Tab. 10 出土土器觀察表(2)	24
Tab. 4 溝跡計測表	21	Tab. 11 出土土器觀察表(3)	25
Tab. 5 土坑・井戸跡・風倒木痕計測表(1)	22	Tab. 12 出土瓦觀察表	26
Tab. 6 土坑・井戸跡・風倒木痕計測表(2)	22	Tab. 13 出土石器・石製品察表	26
Tab. 7 晶跡計測表	22		

挿図目次

Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図	iv	Fig. 21 土坑(2)	41
Fig. 2 周辺遺跡図	2	Fig. 22 土坑(3)	42
Fig. 3 グリッド設定図	5	Fig. 23 土坑(4)、I-1号井戸跡、O-1号風倒木痕	43
Fig. 4 基本層序	5	Fig. 24 1号晶跡	44
Fig. 5 元總社蒼海遺跡群(16)全体図	6・7	Fig. 25 A-1号道路状遺構	45・46
Fig. 6 壓穴住居跡時期別分布図	16	Fig. 26 H-1・2号住居跡出土遺物	47
Fig. 7 H-1・4・8号住居跡	27	Fig. 27 H-2・3号住居跡出土遺物	48
Fig. 8 H-2号住居跡	28	Fig. 28 H-3号住居跡出土遺物	49
Fig. 9 H-3号住居跡	29	Fig. 29 H-3・4号住居跡出土遺物	50
Fig. 10 H-5号住居跡・D-33号土坑	30	Fig. 30 H-5号住居跡出土遺物	51
Fig. 11 H-6号住居跡	31	Fig. 31 H-5・6号住居跡出土遺物	52
Fig. 12 H-7・9号住居跡	32	Fig. 32 H-7・8・10号住居跡出土遺物	53
Fig. 13 H-10号住居跡	33	Fig. 33 H-10号住居跡出土遺物	54
Fig. 14 H-11号住居跡	34	Fig. 34 H-10・11号住居跡出土遺物	55
Fig. 15 H-12号住居跡	35	Fig. 35 H-11・12号住居跡出土遺物	56
Fig. 16 H-14号住居跡	36	Fig. 36 H-12号住居跡出土遺物	57
Fig. 17 H-13・15・16号住居跡	37	Fig. 37 H-12・14・15・16号住居跡出土遺物	58
Fig. 18 W-1・2号溝跡	38	Fig. 38 H-16号住居跡・土坑出土遺物	59
Fig. 19 W-3～5号溝跡	39	Fig. 39 清跡、ビット、O-1号風倒木痕出土遺物	60
Fig. 20 土坑(1)	40		

図版目次

PL. 1 調査区全景、H-1～4・8号住居跡	PL. 5 D-4・24、1号晶跡、A-1号道路状遺構
PL. 2 H-5～7・9号住居跡	PL. 6 出土遺物
PL. 3 H-10・11・13・14号住居跡	PL. 7 出土遺物
PL. 4 H-12・15・16号住居跡、W-1～3	PL. 8 出土遺物

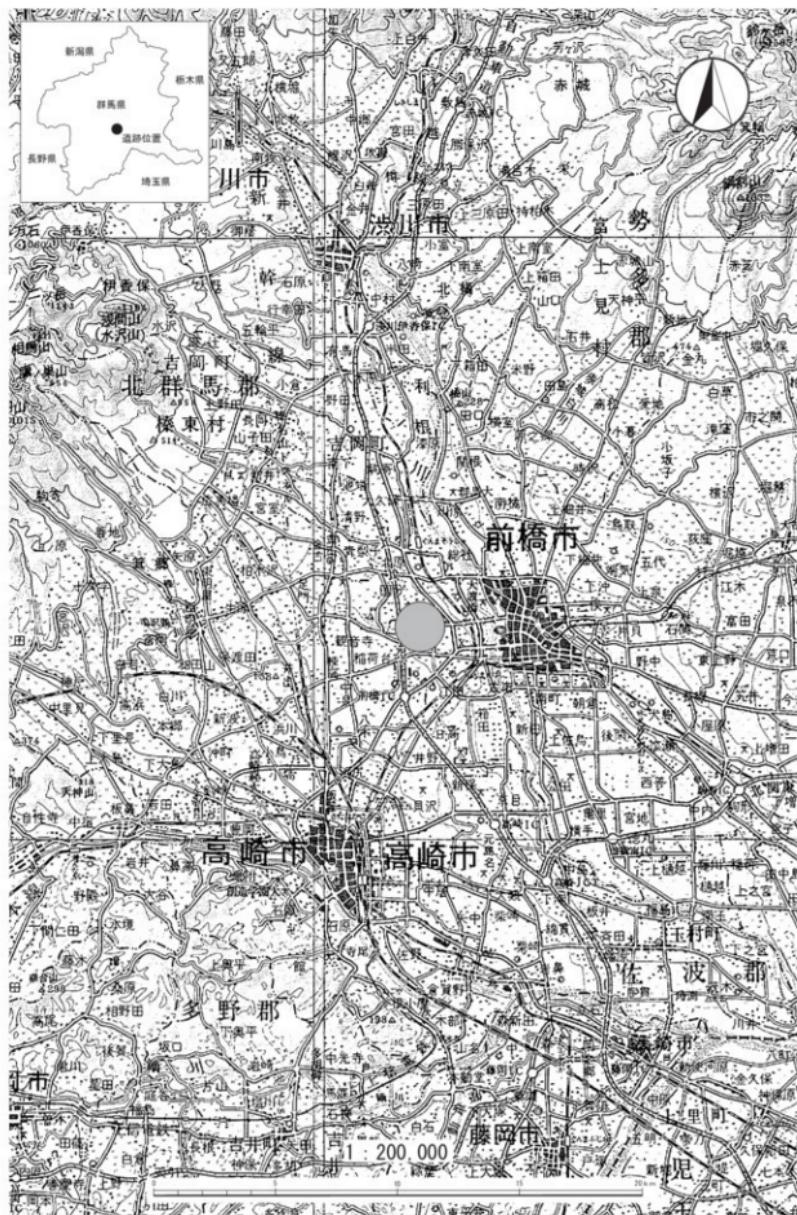


Fig. 1 元總社壹海遺跡群位置図

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、8年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから遺跡地であることが確認されている。

平成19年5月18日付けで、前橋市長 高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本発掘調査の実施が困難であるとして、民間調査機関に調査業務を委託したいと解答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成19年8月30日付けで前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。調査団は民間調査機関である技研測量設計株式会社と、9月3日付けで業務委託契約を締結し、9月21日より現地での発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（16）」（遺跡コード：19A130-16）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「（16）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置 (Fig. 1)

本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3.6kmの地点、前橋市元総社町地内に所在し、西約0.4kmには関越自動車道が南北に、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約0.5kmには市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析し形成した細長い微高地で、標高に標高は122～123mの位置にある。また、総社・元総社地区で染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測る。遺跡が立地する台地上は主として桑畠などの畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は南東に開く緩やかな谷地形を呈しており、水田として利用されていた。

2 歴史的環境 (Fig. 2) 遺跡名の後の（ ）付数字は、Fig. 2 及び Tab. 1 の遺跡番号と対応する。

本遺跡地は繩文時代以降の多くの遺跡が立地している。繩文時代の遺跡では、八幡川右岸の微高地に産業道路東（15）・産業道路西遺跡（16）、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域（20）・元総社小見三遺跡（65）などが挙げられる。弥生時代の遺跡としては日高遺跡（18）、上野国分僧寺・尼寺中間地域（20）や桜ヶ丘遺跡（33）、下東西遺跡（23）等があるがその分布は散漫である。

古墳時代、本遺跡地周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳（7）、二子山古墳（11）、愛宿山古墳（10）、宝塔山古墳（13）、蛇穴山古墳（8）等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺（2）、国分尼寺（3）の建設に示されるように、律令期における上野国の地方行政の中核として再編成される。上野国府は本遺跡の南東の区域におよそ900m四方に推定され、これに関連する遺跡として、元総社小学校校庭遺跡（14）や、元総社寺田遺跡（48）、元総社宅地遺跡（55）がある。また閑泉橋遺跡（30）では東西方向の大溝、元総社明神遺跡（27）では南北方向の溝跡が検出され、国府城の東外郭線が想定された。国分寺（2）は昭和55年以降の調査により、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺（3）は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年の前橋市埋蔵文化財発掘調査団の確認調査により、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。なお今回の調査対象区域である元総社蒼海遺跡群（16）は国分尼寺南方150mの位置に所在する。ま

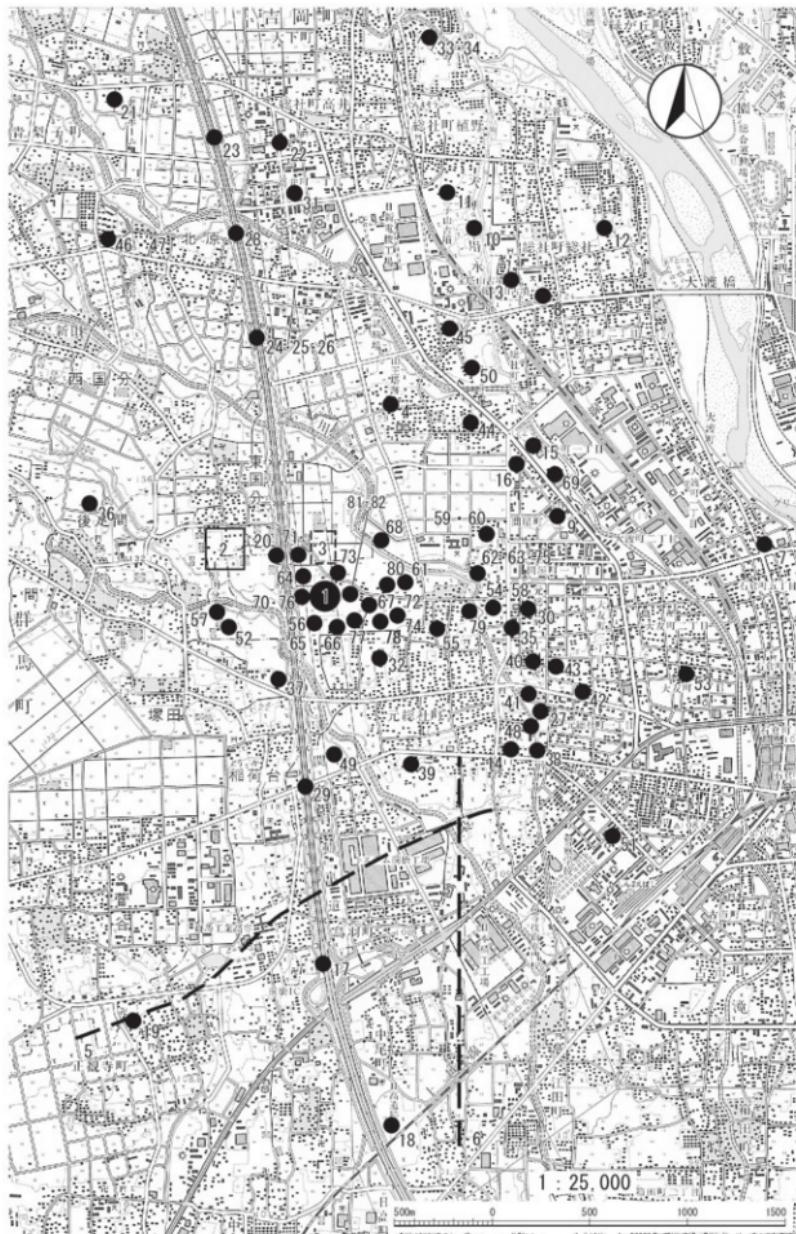


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 元総社蒼海道跡群周辺道路概要一覧表

番号	路名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海道跡群（16）	2007	本道跡
2	上野原分岐跡（那須塩原市）	1980~88	奈良1：金堂基壇・塔基壇
3	上野原分岐跡	(1999)	奈良1：西南隅・東南隅基壇
4	山王廬寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根石石
5	東山道（鶴見）		
6	日高道（鶴見）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6 C中）
8	新穴古墳	1975	古墳：方墳（8 C初）
9	棚荷山古墳	1988	古墳：方墳（6 C後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：方墳（7 C初）
11	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6 C後~7 C初）
12	浅見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5 C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7 C末）
14	元総社小学校前遺跡	1962	平安1：掘立柱建物跡・柱穴跡・周濠跡
15	慶業道路東側跡	1966	調査文：住居跡
16	慶業道路西側跡		調査文：住居跡
17	中尾道路（事業団）	1976	奈良1：平安；住居跡
18	日高道路（事業団）	1977	先史1：木田跡・方形周溝墓・住居跡・木製舟形・平安；条里制木田跡
19	正統寺遺跡（IV（高崎市）	1979~81	先史1：住居跡・古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡、中世；道路
20	正統寺遺跡（寺守中間地域（事業団）	1980~83	先史1：住居跡、古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡・掘立柱建物跡・柱列、中世；周濠跡、中上層柱建物跡・柱列・周濠・道路状遺構
21	源田南部道路群田	1980	調査文：柱跡、奈良1：平安；住居跡・周濠
22	中島通路	1980	奈良1：平安；住居跡
23	下東西道路（事業団）	1980~84	調査文：埋理跡、弥生；住居跡、古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡・掘立柱建物跡・柱列、中世；周濠
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳1：住居跡、奈良1：平安；住居跡
25	国分境II遺跡	1991	古墳1：住居跡、奈良1：平安；住居跡
26	国分境III遺跡（群馬町）	1991	古墳1：住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠、中世；土壤基
27	元総社明神道路I~IV	1982~96	古墳1：住居跡・木田跡・周濠、奈良1：平安；住居跡・周濠・大形人形、中世；住居跡・溝跡・天平系墓
28	北原道路（群馬町）	1982	調査文：土器・集石堆、古墳；木田跡、奈良1：平安；住居跡・掘立柱建物跡
29	久保通路（事業団）	1978~83	古墳1：住居跡・鍛冶場跡、奈良1：平安；住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
30	国領通路（事業団）	1983	奈良1：平安；道路（幅6.5~7 m、下輪3.24m、深さ2 m）
31	柳木通路・日道跡	1983、1988	先史1：平安；住居跡・周濠、5世紀
32	古井通路	1984	古墳1：住居跡、平安；住居跡・中世；井戸跡
33	櫛原通路		
34	箭井横桟橋通路・日道跡	1985、87	奈良1：平安；住居跡
35	国領横南通路	1985	古墳1：住居跡、奈良1：平安；周濠
36	後光間遺跡I・II（群馬町）	1985~87	古墳1：住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠；道路状遺構
37	坂井間東通路（群馬町）	1985	平安1：住居跡
38	寺田通路	1986	平安1：周濠跡・木製品
39	天神通路・日道跡	1986、88	奈良1：平安；住居跡
40	原敷通路・日道跡	1986、95	古墳1：住居跡・周濠、平安；住居跡、中世；周濠・石碑遺構
41	大友屋敷貝・日道跡	1987	古墳1：住居跡、平安；住居跡・周濠、地下式土坑
42	豐鉢通路	1987	奈良1：平安；住居跡・周濠
43	豐原日道跡	1988	平安1：住居跡
44	昌葉寺樹向道路・II道跡	1988	奈良1：平安；住居跡
45	村東道路	1988	古墳1：住居跡・周濠、奈良1：平安；住居跡、中世；周濠
46	熊野日道跡	1988	調査文：住居跡、平安；住居跡・周濠
47	熊野谷II・III道跡	1989	平安1：住居跡
48	元総社寺田通路I~III（事業団）	1988~91	古墳1：木田跡・周濠、奈良1：平安；住居跡・周濠・人形・青串・墨書き面、中世；周濠
49	弘妙通路・II道跡	1989、95	古墳1：住居跡・周濠、平安；住居跡・周濠・石碑遺構
50	大星敷遺跡I~VI	1992~2000	調査文：住居跡、古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠；地下式土坑・周濠
51	元総社栢葉通路	1993	調査文：住居跡、平安；住居跡・瓦砾
52	上野原分岐跡通道路	1996	古墳1：住居跡、平安；住居跡・周濠
53	大友半毛通路	1998	平安1：木田
54	總社開皇光明寺通路	1999	古墳1：周濠、木田跡・周濠、中世；周濠
55	元総社毛門通路I~23トレンチ	2000	古墳1：住居跡・周濠、平安；住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡、道路状遺構、中世；周濠・近世；住居跡・五輪塔・頸輪
56	元総社小見通路	2000	調査文：住居跡、古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠
57	元総社西川通路（事業団）	2000	古墳1：住居跡・周濠、奈良1：平安；住居跡・周濠
58	總社開皇光明寺北日出通路	2001	古墳1：住居跡・周濠、平安；住居跡・周濠
59	元総社甲相原大河内西通路	2001	奈良1：平安；住居跡・周濠、中世；周濠、近世；周濠
60	總社甲相原大河内西IV通路	2001	古墳1：住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠、近世；周濠
61	元総社小見内III通路	2001	古墳1：住居跡・周濠、奈良1：平安；住居跡・周濠・掘立柱建物跡・周濠、中世；掘立柱建物跡・周濠
62	元総社甲相原大河内西IV通路	2002	古墳1：住居跡・周濠、奈良1：平安；住居跡・周濠・周濠
63	總社開皇光明寺内III通路	2002	調査文：住居跡、古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡
64	元総社小見II通路	2002	古墳1：住居跡・周濠、奈良1：平安；住居跡・周濠・掘立柱建物跡、中世；周濠・道路状遺構
65	元総社小見III通路	2002	調査文：住居跡・周濠；住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠、中世；周濠・道路状遺構
66	元総社草円V通路	2002	古墳1：住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠
67	元総社小見IV通路	2002	奈良1：平安；住居跡・周濠・掘立柱建物跡・周濠、中世；土壤基
68	元総社北川通路（事業団）	2002~04	古墳1：木田跡、奈良1：平安；住居跡・周濠、中世；近世；掘立柱建物跡・木田跡・火葬瓶
69	柳原塚東通路（事業団）	2003	古墳1：住居跡、奈良1：平安；住居跡・溝跡・電槽器材探査痕・井戸跡
70	元総社小見IV通路	2003	調査文：住居跡・古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠、中世；周濠
71	元総社小見V通路	2003	調査文：住居跡・古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠、中世；周濠
72	元総社小見VI通路	2003	奈良1：平安；住居跡・周濠、中世；井戸跡
73	元総社小見VII通路	2003	調査文：住居跡・古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠、中世；周濠・溝跡
74	元総社小見VI通路	2003	奈良1：平安；住居跡・周濠・周濠・周濠、中世；周濠状遺構
75	總社甲相原大河内西IV通路	2003	古墳1：周濠、中世；周濠
76	元総社小見VII通路	2004	調査文：住居跡・古墳；住居跡、奈良1：平安；住居跡
77	元総社小見VI内X通路	2004	奈良1：平安；住居跡・中世；周濠
78	元総社小見IX-V通路	2004	古墳1：住居跡、奈良1：平安；住居跡・工房跡・粘土探査坑・金片・金粒、中世；周濠・土壤基
79	總社開皇光明寺内IV通路	2004	古墳1：木田跡、奈良1：平安；住居跡
80	元総社蒼海道跡群（5）	2005	古墳1：住居跡、奈良1：平安；住居跡・周濠、中世；周濠状遺構、土壤基
81	元総社蒼海道跡群（15）	2007	報告書作成中
82	元総社蒼海道跡群（18）	2007	報告書作成中

た、国府・国分寺に関連する主要な遺跡として、中尾遺跡(17)や工房址や神社遺構が検出された鳥羽遺跡(29)、掘立柱建物群を検出した国分僧寺・尼寺中間地域(20)などが挙げられる。

中世に至り、古代国府跡に上野国守護代長尾氏によって蒼海城が築かれ、蒼海城の縄張りは国府の地割を祖型としていると推測されている。

III 調査の方針と経過

1 調査方針 (Fig. 3)

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は約1,794m²である。グリッド座標については、2000年の上野国国分尼寺跡確認調査から用いている4mピッチのものを継続して使用した。グリッドは北西杭の名称を使い、西から東へX-59、X-60、X-61…、北から南へY-115、Y-116、Y-117…と表記した。公共座標については、以下のとおりである。

・元総社蒼海遺跡群(16) 測点 X60・Y120

　旧日本測地系 X=+43520.000 Y=-71960.000

　世界測地系 X=+43874.907 Y=-72251.754

調査は①表土掘削(バックフォー0.7m使用)、②遺構確認(主に鏝簾)、③方眼杭等設置、④遺構掘り下げ、⑤遺構精査、⑥測量、⑦全景写真撮影の手順で行った。図面作成は、トータルステーションによる測量を主に使用し、平板・造り方測量を併用した。遺構図は原則として1/20、住居跡は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録しながら収納した。

2 調査経過

本遺跡の発掘調査は、平成19年9月3日付で業務委託契約を締結し、9月21日より現地での調査を開始した。調査区の東側2/3に相当する区域は水稲の栽培が行われていたため、着手可能な西側1/3の部分から着手した。重機による表土掘削は9月21日～9月26日、C軽石・Hr-FP混黑色土であるX層を指標に掘り下げた。遺構確認は9月26日～9月28日、BM杭・グリッド杭の打設は9月27日を行い、9月27日から遺構の掘り下げを開始した。10月26日に至り、未着手であった区域の稲の刈取りに伴い再度重機を搬入、表土掘削を再開し、11月2日までに終了した。10月26日～11月1日の間に遺構確認を行い、11月6日にグリッド杭を延長・打設した。また11月2日よりこの拡張した区域の遺構の掘り下げを開始した。

検出遺構は古墳時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居跡16軒、古代・中世の溝跡5条・井戸跡1基・土坑36基・ピット260基、風倒木痕1基、畠跡1箇所、道路状遺構1条である。出土遺物は縄文時代の土器・石器・奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・金属製品・石製品、中世の陶器等で、コンテナ約15箱である。

12月7日にラジコンヘリコプターによる調査区全景の航空写真撮影を行い、その後、竪穴住居跡の掘りかた調査を実施した。調査区埋め戻し作業は12月18日～12月27日の間に、本調査区に隣接する元総社蒼海遺跡群(18)B区の埋め戻しに合わせ平成20年1月15日にブルドーザーによる整地作業を行った。また1月18日までに調査区の現況復帰と機材撤収を行い、調査を完了した。

なお本遺跡では、調査区南西部でAs-Cを含む黒色土層の堆積の厚い箇所で畠跡を検出し、栽培植物特定のための植物珪酸体分析をパリソーヴェイ株式会社に委託、その成果を付録として掲載した(14～17頁)。

整理・報告書作成作業は11月26日より開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納、報告書の図版作成・原稿執筆・編集作業を行い、平成20年2月28日までにすべての作業を終了した。

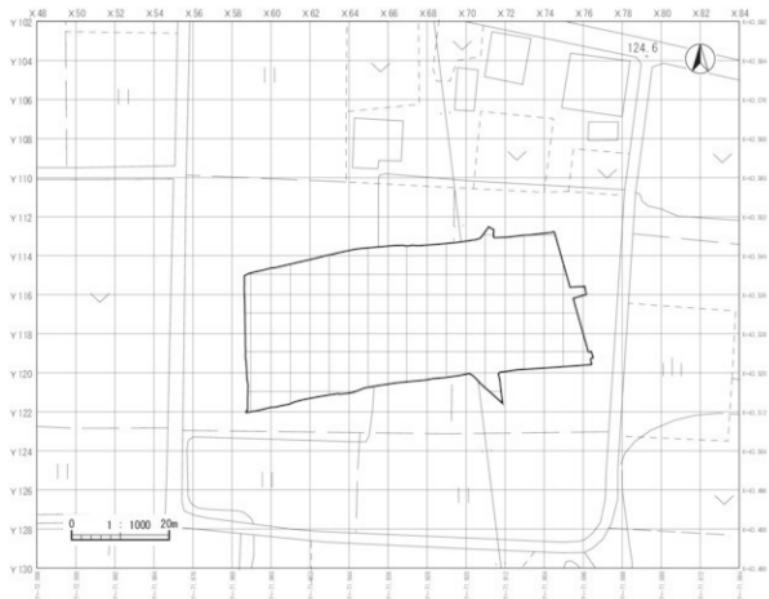


Fig. 3 グリッド設定図

IV 基本層序

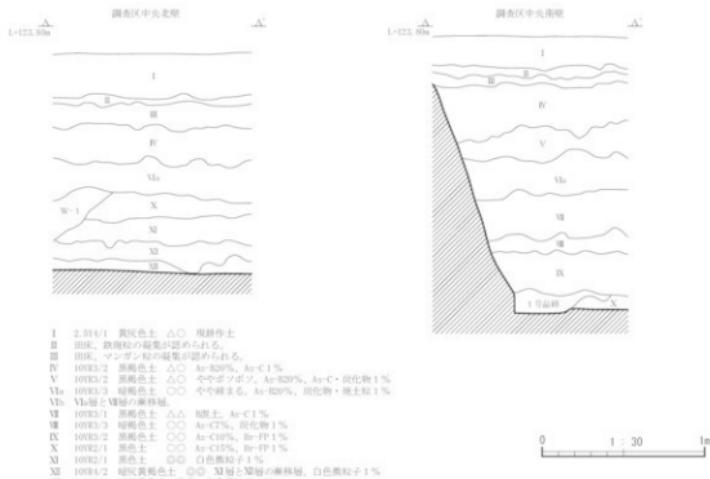


Fig. 4 基本層序



Fig. 5 元總社蒼海遺跡群（16）全体図



V 遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 7・26, PL. 1・6)

位置 X59・60、Y114グリッド 主軸方位 N-95°-E 形状等 方形。東西(2.42)m、南北(0.80)m、壁現高22cmを測る。面積 (0.96)m² 床面 平坦で、全体的によく縮まっている。竈 東壁やや南に検出し、主軸方位はN-93°-Eを示す。全長46cm、最大幅(21)cm、焚口幅(21)cmを測る。形状は「U」字状。住居壁面を大きく掘り込み構築され、地山を掘り残した短い袖が付く。燃焼部は住居跡床面とほぼ水平で、奥壁は急に立ち上がる。掘り方はほとんどない。床面には灰層が薄く形成され、壁面はあまり焼けていない。出土遺物 須恵器は羽釜1点、高台壺1点、壺1点、石器・石製品はこも石1点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀代と推定される。遺構はⅧ層下から掘り込まれる。

H-2号住居跡 (Fig. 8・26・27, PL. 1・6)

位置 X59・60、Y117・118グリッド 主軸方位 N-102°-E 形状等 方形。東西3.18m、南北[3.7]m、壁現高18cmを測る。面積 (10.09)m² 床面 平坦で全体的によく縮まっている。竈 東壁やや南に検出し、主軸方位N-105°-Eを示す。全長112cm、最大幅62cm、焚口幅38cmを測る。形状は「U」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。焚口の両脇に自然石を配し袖石としている。焚口でやや凹み、燃焼部は緩やかな傾斜を有する。奥壁は緩やかに立ち上がる。掘り方には袖石の設置孔が確認された。支脚は自然石を使用し、燃焼部左寄りに設置。また住居跡中央に、自然石の集石が確認されたが、竈の構築材として使用されたものが、その崩壊過程で流入したものと推定される。床面には灰層が厚く形成され、壁面は被熱により赤化している。貯蔵穴・柱穴等 貯蔵穴が竈右脇に住居跡南西壁に接して設置される。形状は円形、規模は長軸60cm、短軸55cm、深さ10cmを測る。その他ピット2基を検出したが何れも柱穴とは考え難い。重複 H-3に切られる。出土遺物 竈・貯蔵穴周辺、床面より若干浮いた層位に集中的に分布する。灰釉陶器は高台壺2点、須恵器は羽釜1点、高台碗1点、高台壺8点、甕1点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀前半であると推定される。

H-3号住居跡 (Fig. 9・27・28・29, PL. 1・6)

位置 X59・60、Y116・117グリッド 主軸方位 N-88°-E 形状等 方形。東西2.82m、南北3.46m、壁現高30cmを測る。面積 9.76m² 床面 平坦で全体的によく縮まっている。竈 東壁やや南に検出し、主軸方位N-90°-Eを示す。全長84cm、最大幅64cm、焚口幅64cmを測る。形状は「U」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。壁面の構築材に瓦を使用する。燃焼部はわずかに凹み、緩やかな傾斜を有する。奥壁は急に立ち上がる。床面には灰層が厚く形成され、壁面は被熱により薄く赤化している。貯蔵穴・柱穴等 貯蔵穴が竈右脇、住居跡南壁に接して設置される。形状は梢円、規模は長軸58cm、短軸47cm、深さ12cmを測る。その他ピットを5基検出したが、何れも柱穴とは考え難い。その内P3はいわゆる床下土坑である。形状は不整円形、規模は長軸68cm、短軸60cm、深さ27cmを測る。木炭・灰を主体とする土層を埋土とし、貼床によって塞がれていた。重複 H-2を切る。出土遺物 灰釉陶器は高台壺1点、須恵器は甕1点、高台碗1点、高台壺3点、皿1点、土師器は甕1点、瓦は平瓦4点(この内文字瓦1点)、丸瓦2点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀前半であると推定される。

H-4号住居跡 (Fig. 7・29、PL. 1・6)

位置 X59、Y119グリッド 主軸方位 N-43°-W 形状等 南東壁のみ検出。東西(1.4)m、南北(1.50)m、壁現高9mを測る。面積(1.05)m² 床面 遺存状態悪く、竈の前面のみに硬化面が残存。竈(南東壁)に検出し、主軸方位N-45°-Wを示す。全長74cm、最大幅60cm、焚口幅44cmを測る。形状は「U」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。焚口の左側に自然石、右側に凝灰岩切石を配し袖石をしている。燃焼部は、わずかな傾斜を有する。支脚は瓦を転用し、燃焼部中央に設置される。床面には灰層が形成され、焚口付近が被熱により赤化している。壁面はあまり焼けていない。出土遺物 須恵器羽釜1点、軒平瓦2点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀後半以降であると推定される。なお、本遺構は、バックホーによるVII層(B混土)除去段階で、一次堆積層に近似したB軽石溜まりが検出された箇所である。調査区際で検出した住居跡のVII層から床面までの深さは概ね50cm~60cmの深さのものがほとんどだが、本遺構は、B軽石溜まりから床面までが20~30cm程度であることから、そもそもその遺構の掘り込みが浅い上に、B軽石下時に住居跡が窪地として残存していた状況が窺われた。

H-5号住居跡 (Fig.10・30・31、PL. 2・7)

位置 X59・60、Y119・120グリッド 主軸方位 N-100°-E 形状等 方形。東西3.78m、南北4.86m、壁現高12cm 面積 18.37m² 床面 平坦で、竈前面から住居跡中央にかけて硬化面が確認された。竈 東壁やや南に検出し、主軸方位N-97°-Eを示す。全長84cm、最大幅72cm、焚口幅72cmを測る。形状は「U」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。残存状態が悪く、詳細は不明だが、袖石・壁構築材には自然石が使用されたと思われる。燃焼部は住居跡床面とほぼ水平で奥壁に向けて緩やかに傾斜する。掘り方は灰・焼土・地山土ブロックの混土を埋土とする。床面には灰層が形成され、燃焼部で淡く赤化している。壁面の赤化は認められない。貯蔵穴・ピット 掘り方調査時に竈右脇から遺物が多く出土したことから、貯蔵穴が存在したことが想定された。ピットを2基検出したが、何れも柱穴とは考え難い。P2は、形状は不整梢円形、長軸90cm、短軸70cm、深さ40cmを測る土坑である。このように貯蔵穴以外に住居跡隅に掘削される土坑は、本年度調査の蒼海遺跡群(15・18)検出の住居跡にも類例が認められる。重複 W-2を切る。その他D-2・33、P66・67と重複するが、新旧は不明である。D-33は本遺構に付帯する施設である可能性もある。出土遺物 須恵器は羽釜2点、ロクロ甕1点、高台碗9点、坏2点、器種不明遺物1点、土師器は甕2点の他、平瓦1点、磨石1点を図示した。灰釉小瓶・綠釉椀の小破片も出土した。備考 出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀前半と推定される。

H-6号住居跡 (Fig.11・31、PL. 2・7)

位置 X60・61、Y118グリッド 主軸方位 N-90°-E 形状等 方形だがやや不整形。東西3.08m、南北2.54m、壁現高32cm 面積 7.82m² 床面 竈周辺がやや凹む。全体的に縋まっている。竈 東壁南寄りに検出し、主軸方位N-88°-Eを示す。全長112cm、最大幅70cm、焚口幅46cmを測る。形状は「V」字状。住居壁を大きく掘り込み構築される。竈右側には地山を掘り残した短い袖が付き、焚口は両脇に自然石を配し袖石をしているが、左側は抜取られている。燃焼部は住居跡床面よりやや凹み、奥壁は緩やかに立ち上がる。煙道は燃焼部より一段高くやや傾斜し、19cm伸びたところで立ち上がる。支脚は丸瓦を転用し、燃焼部左側に寄せて設置されていた。掘り方はほとんどないが、袖石・支脚の設置孔が確認された。また竈前面には砂岩の円礫の集中が見られるが、竈の構築材として使用されたものが、その崩壊過程で流入したものと推定される。床面には厚い灰層が形成され、燃焼部・壁面は淡く赤化している。出土遺物 埋土からの遺物の出土は少なく、54・57・58の遺物が床面直上からの出土である。須恵器は蓋2点、高台碗1点、土師器は坏1点、甕1点、その他丸瓦1点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は9世紀中葉であると推定される。

H-7号住居跡 (Fig. 7・32、PL. 2・7)

位置 X61・62、Y119・120グリッド 主軸方位 N-103°-E 形状等 方形だが西壁の一部がわずかに張り出す。東西2.31m、南北3.2m、壁現高8cmを測る。面積 7.39m² 床面 平坦で掘り方は無く、全体的に軟弱である。北壁から西壁にかけて周溝状の凹みを伴う。竈 東壁やや南に検出し、主軸方位N-105°-Eを示す。全長58cm、最大幅64cm、焚口幅64cmを測る。形状は「U」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。壁構築材に瓦を使用。燃焼部は住居跡床面とほぼ水平である。掘り方はほとんどない。床面は薄く灰層が形成され、焚口前には木炭の集中が認められる。壁面の赤化は認められない。重複 1号畠跡を切る。出土遺物 須恵器は羽釜2点、高台坏1点、坏1点、その他丸瓦1点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀代と推定される。

H-8号住居跡 (Fig. 7・32、PL. 1)

位置 X58・59、Y121・122グリッド 主軸方位 N-70°-E 形状等 方形。東西2.26m、南北(0.62)m、壁現高16cmを測る。面積 (0.70)m² 床面 平坦で全体的によく縮まっている。出土遺物 遺物の出土は微量である。土師器坏1点を図示。備考 出土遺物から遺構の年代は概ね7世紀前半であると推定される。遺構はⅦ層下から掘り込まれる。

H-9号住居跡 (Fig. 12、PL. 2)

位置 X60・61、Y120・121グリッド 主軸方位 不明 形状等 不明 壁現高0cm 面積 不明 竈 (東壁)に検出し、主軸方位N-90°-Eを示す。全長[144]cmを測る。重複 W-1に切られる。D-10・11を切る。出土遺物 土師器小片ごく微量。備考 住居跡の残滓である。遺構確認時に形状は失われ、床面も露出した状態であったため、掘り方のみを調査した。D-10・11は本遺構の床下土坑である可能性が想定され、D-11から須恵器坏小破片が出土している。概ね9世紀後半から10世紀前半に比定されると思われ、H-9の年代もこれに近いと考えられる。

H-10号住居跡 (Fig. 13・32・33・34、PL. 3・7)

位置 X72・73、Y114グリッド 主軸方位 N-74°-E 形状等 方形。東西4.00m、南北(3.9)m、壁現高46cmを測る。面積 (15.6)m² 床面 平坦で全体的に縮まっている。周溝が巡るが、南東隅で途切れている。南東隅、住居跡中央北側の部分では、焼土・炭化物・灰の混土を埋め戻して貼床をしている箇所も見受けられた。竈 東壁中央に検出し、主軸方位N-76°-Eを示す。全長116cm、最大幅70cm、焚口幅40cmを測る。形状は「U」字状。住居壁を大きく掘り込んで構築し、短い袖が付く。左袖は暗褐色粘質土の付袖、右袖は地山削り出しの基部に暗褐色粘質土を付け足している。焚口の両側に凝灰岩切石を配し袖石としている。また、袖石が竈の内壁により内側になるように据えられているため、焚口が、竈プランの幅よりも30cmと大幅に狭くなっている。燃焼部は住居跡床面よりもやや凹み、奥壁は急に立ち上っている。支脚は円柱状の砂岩を使用し、燃焼部左側に寄せて設置されていた。掘り方は、焼土・炭化物をよく含む土を埋土にしており、袖石の設置孔が検出された。燃焼部から奥壁にかけて厚く灰層が形成され、壁面は被熱により赤化している。貯蔵穴・柱穴等 ピット11基を検出したが何れも柱穴とは考え難い。また、P1・8・11・7は本遺構に重複するが新旧は不明である。重複 D-13に切られる。出土遺物 須恵器は瓶1点、盤1点、高台坏2点、蓋1点、坏1点、甕5点、器種不明遺物1点、土師器は椀1点、坏3点、皿3点、その他平瓦(文字瓦)1点を図示。備考 出土遺物から遺構の年代は8世紀前半であると推定される。遺構はⅧ層下から掘り込まれる。

H-11号住居跡 (Fig.14・34・35、PL. 3・8)

位置 X72・73、Y114・115グリッド 主軸方位 N-78°-E 形状等 方形。東西2.7m、南北3.62m、壁現高34cm 面積 9.77m² 床面 平坦で、全体的に縮まっている。竈 東壁やや南に検出し、主軸方位N-75°-Eを示す。全長134cm、最大幅66cm、焚口幅66cmを測る。形状は「V」字状。住居壁面を大きく掘り込み、短い袖が付く。両袖とも暗褐色粘質土の付袖で、左袖には自然石を補強材として埋め込んでいた。焚口はやや凹み、燃焼部は住居跡床面とほぼ水平である。煙道は、燃焼部よりもわずかに一段高く、やや傾斜し、26cm伸びたところで立ち上がる。燃焼部から煙道にかけて灰層が厚く形成され、壁面は被熱により赤化している。貯蔵穴・柱穴等ピットが3基検出したが何れも柱穴とは考え難い。またP1は本遺構と重複するが新旧は不明である。重複D-17を切る。出土遺物 竈周辺床面直上に遺物の集中が認められ、竈焚口付近では土器窯ほぼ1個体分が潰れた状態で出土した。須恵器は、瓶11点、盤1点、蓋1点、壺1点、土器窯は、窯3点、壺2点、その他こも石2点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は8世紀前葉から中葉であると推定される。

H-12号住居跡 (Fig.15・35・36・37、PL. 4・8)

位置 X73・74、Y114・115グリッド 主軸方位 N-92°-E 形状等 方形。東西[2.64]cm、南北[3.02]cm、壁現高4cmを測る。面積 [7.97] m² 床面 平坦で、全体的に縮まる。北壁・南壁の一部に周溝を検出。竈 東壁中央に検出され、主軸方位N-96°-Eを示す。全長74cm、最大幅54cm、焚口幅54cmを測る。形状は「U」字状。住居壁面を大きく掘り込み構築され、無袖である。焚口の両脇に瓦が構築材として使用されている。燃焼部は住居跡床面よりもわずかに凹み、奥壁は緩やかに立ち上がる。掘り方に焚口に据えた瓦の設置孔が確認された。床面には厚い灰層が形成され、壁面の赤化は認められない。なお竈前面から貯蔵穴周辺にかけて、木炭・黒色灰の広範な広がりが認められた。貯蔵穴・ピット等 貯蔵穴が竈右脇に設置される。形状は不整梢円形、規模は長軸85cm、短軸63cm、深さ17cmを測る。その他ピット7基を検出したが何れも柱穴とは考え難い。P6・7は本遺構と重複し、P7は本遺構を切り、P6との新旧は不明である。出土遺物 須恵器は、羽釜・高台壺・壺をそれぞれ1点、土器窯は壺1点、その他平瓦5点(この内鏡焼き1点)、丸瓦1点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀前半であると推定される。

H-13号住居跡 (Fig.33、PL. 3)

位置 X71・72、Y119グリッド 主軸方位 N-88°-E 形状等 方形。東西3.76m、南北(1.12)m、壁現高22cmを測る。面積 4.21m² 床面 平坦で、やや軟弱。竈 不明 出土遺物 土器窯小片ごく微量。図示遺物はない。備考 年代の判別しうる遺物の出土が認められないが概ね古墳時代～古代の所産であろう。遺構はVII層下から掘り込まれる。

H-14号住居跡 (Fig.16・37、PL. 3・8)

位置 X69・70、Y113グリッド 主軸方位 N-76°-E 形状等 方形。東西3.52cm、南北(2.4)cm、壁現高24cm 面積 (8.4) m² 床面 平坦で全体的によく縮まっている。比較的の形状のしっかりした周溝が巡る。竈 東壁やや南に検出し、主軸方位N-84°-Eを巡る。全長84cm、最大幅66cm、焚口幅60cmを測る。形状は「U」字状。住居壁面を大きく掘り込み構築され、暗褐色粘質土の短い袖が付く。焚口両脇の袖石及び焚口天井には角柱状の凝灰岩切石が使用されており、焚口天井は燃焼部側に転落した状況で検出された。また竈前面に板状の凝灰岩切石が転落した状態を確認し、これも竈の構築材として使用されたと想起されるが、原位置の特定には及ばなかった。燃焼部は住居跡床面とほぼ水平で、奥壁は急に立ち上がる。掘り方は、壁面を方形に掘り込んでおり、暗褐色粘質土を充填し「U」字状のプランを創出している。また、袖石の設置孔も検出された。燃焼部から奥壁に

かけて灰層が厚く堆積し、床面・壁面は被熱による赤化が認められる。なお、灰層（3層）直上から、完形のかえりを伴う須恵器蓋が逆位で出土した。貯蔵穴・ピット等 ピット5基を検出。P3・4は柱穴としての機能は考え難い。P1・2は南壁付近に並んで検出された。入り口等住居内の何らかの施設に関係するものかもしれない。P5は重複だが新旧は不明である。出土遺物 須恵器は、長頸瓶1点、蓋1点、土師器は壺2点、丸甕1点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は8世紀前半であると推定される。遺構はVII層下から掘り込まれる。

H-15号住居跡 (Fig.17・37、PL. 4)

位置 X70、Y120～121グリッド 主軸方位 N-76°-E 形状等 方形。東西(2.56)m、南北(3.44)m、壁現高18cmを測る。面積(4.40)m² 床面 平坦で、壁際は軟弱、住居跡中央が若干硬化する。竈 不明 出土遺物 須恵器甕等破片2点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は判じ難いが、概ね古墳時代～古代の所産であろう。

H-16号住居跡 (Fig.17、PL. 4)

位置 X64・65、Y114グリッド 主軸方位 N-90°-E 形状等 方形。東西(1.26)m、南北(2.94)m、壁現高6cmを測る。面積 3.70m² 床面 平坦で全体的に締まっている。竈 東壁やや南に検出し、主軸方位N-102°-Eを示す。全長56cm、最大幅66cm、焚口幅66cmを測る。形状は「U」字状。住居壁面を大きく掘り込んで構築され、無袖である。貯蔵穴・ピット等 ピットを3基検出したが、柱穴とは考え難い。重複 D-35に切られる。出土遺物 平瓦1点、丸瓦1点を図示。備考 年代を判別しうる遺物の出土が認められないが、住居の主軸方位、竈の形状から、比較的新しい時期に帰属すると考えられる。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.18・39、PL. 4・8)

位置 X60～62、Y114～121グリッド 主軸方位 N-11°-E 形状 逆台形。長さ30.80m、深さ32cm、上幅76cm、下幅44cmを測る。重複 H-9・W-2・1号畠跡を切る。出土遺物 常滑大甕破片1点を図示した。備考 B混土を埋土の主体とし、VII層中から掘り込まれると想定され、出土遺物・埋土の特徴から中世の所産であると考えられる。W-3と主軸方位が近似し、直線的な走向をとり、W-3と芯心で約14mの間隔をおいて並走する。

W-2号溝跡 (Fig.18、PL. 4)

位置 X58～61、Y118～121グリッド 主軸方位 N-46°-W 形状 「U」字状。長さ16.80m、深さ20cm、上幅84cm、下幅64cmを測る。重複 H-4・5に切られる。出土遺物 埋土から概ね6世紀後半～7世紀前半の時期に比定される模倣壺及び高环脚部の小破片が出土している。備考 混入遺物、重複関係から古墳時代後期より新しく10世紀前半より古いと考えられる。過年度調査の蒼海遺跡群(11) W-5と同一の遺構である。

W-3号溝跡 (Fig.19、PL. 3)

位置 X58、Y114～116グリッド 主軸方位 N-9°-E 形状 逆台形(薬研状)。長さ5.80m、深さ100cm、上幅(92)cm、下幅(12)cmを測る。出土遺物 埋土から瓦・土師器の小破片が微量出土。備考 埋土の特徴からB経石降下以降の所産である。VIa層下から掘り込まれる。なお本遺構は、蒼海遺跡群(4) W-1、蒼海遺跡群(11) W-5と同一の遺構である。過年度の調査で「L」字に屈曲する区画溝様の走向が確認されている。

W—4号溝跡 (Fig.19)

位置 X 70~75、Y 115~116グリッド 主軸方位 N—97°—W 形状 皿状。長さ25.52m、深さ20cm、上幅84cm、下幅56cmを測る。出土遺物 埋土から土師器・須恵器小破片少量出土。備考 遺構の年代は、混入遺物・埋土の特徴から、概ね8世紀以降B降下以前に帰属すると考えられる。残存状況悪く断続的に検出された。また掘り方が安定せず、底面の凹凸が著しい。蒼海遺跡群(18) A区W—5と同一遺構の可能性がある。

W—5号溝跡 (Fig.19)

位置 X 67、Y 118~119グリッド 主軸方位 N—62°—E 形状 皿状。長さ2.68m、深さ12cm、上幅72cm、下幅52cmを測る。出土遺物 土師器・須恵器小破片微量出土。備考 混入遺物・埋土の特徴から、10世紀以降で、B軽石降下より古いと考えられる。

(3) 土坑・井戸・風倒木痕

代表的な遺構を以下に記載した。報文に漏れた遺構に関しては別表 (Tab.5~6) を参照されたい。

D—3号土坑 (Fig.20)

位置 X 61、Y 119グリッド 主軸方位 N—77°—E 形状 楕円形。長軸152cm、短軸100cm、深さ56cmを測る。出土遺物 6世紀代の模倣壺を含む土師器小破片微量出土。備考 出土遺物・埋土の特徴から遺構の年代は古墳時代後期以降で、B軽石降下より古いと考えられる。

D—4号土坑 (Fig.20・38、PL.5)

位置 X 62、Y 118グリッド 主軸方位 N—37°—W 形状 不整方形。長軸232cm、短軸212cm、深さ36cmを測る。重複 P—65と重複するが新旧は不明である。出土遺物 6~7世紀代の土師器小破片少量。備考 出土遺物・埋土の特徴から、遺構の年代は7世紀以降で、B軽石降下より古いと考えられる。

D—6号土坑 (Fig.20)

位置 X 63、Y 120グリッド 主軸方位 N—53°—W 形状 楕円形。長軸(112)cm、短軸82cm、深さ20cmを測る。出土遺物 須恵器片1点、6世紀後半から7世紀前半の高環小破片1点 備考 出土遺物・埋土の特徴から、遺構の年代は6世紀後半以降で、B軽石降下より古いと考えられる。

D—18号土坑 (Fig.21)

位置 X 75、Y 118グリッド 主軸方位 N—5°—E 形状 長楕円。長軸170cm、短軸90cm、深さ11cmを測る。出土遺物 土器片ごく微量。備考 埋土はB混土主体であり、遺構の年代は概ね中世以降であると推定される。本遺構の様に形状が長楕円、主軸方位を南北軸にとり、埋土がB混土であるものにはD—22・36が挙げられる。

D—19号土坑 (Fig.21)

位置 X 74、Y 118グリッド 形状 平面は円形、断面はすり鉢状。長軸108cm、短軸90cm、深さ36cmを測る。備考 埋土にB軽石を含まない。遺構の年代は、B軽石降下よりも古いと考えられる。同様にB軽石を含まない円形土坑にはD—16・28が挙げられる。

D—21号土坑 (Fig.21)

位置 X70、Y117グリッド 主軸方位 N—1°—W 形状 方形。長軸236cm、短軸172cm、深さ10cmを測る。重複 D—36に切られる。備考 埋土はB混土主体であり、遺構の年代は概ね中世以降であると推定される。

D—24号土坑 (Fig.22、PL. 5)

位置 X71、Y119グリッド 主軸方位 N—8°—W 形状 楕円形。長軸134cm、短軸92cm、深さ32cmを測る。出土遺物 7世紀後半の土師器片を少量。土師器坏小破片が床面直上から出土。備考 出土遺物から遺構の年代は7世紀後半であると考えられる。遺構の壁面は被熱により赤化し、床面には木炭・黒色灰の集中が認められた。

D—25号土坑 (Fig.22)

位置 X67、Y113グリッド 形状 方形か。長軸(78)cm、短軸(38)cm、深さ36cmを測る。備考 VIII層下面から掘り込まれることから遺構の年代は古代以前と推定される。

D—32号土坑 (Fig.23)

位置 X66、Y116グリッド 形状 円形。長軸94cm、短軸92cm、深さ26cmを測る。出土遺物 志野皿小破片1点出土。備考 埋土はB混土主体であり、遺構の年代は概ね中世以降であると推定される。本遺構の様に形状が円形、同程度の規模で、埋土がB混土であるものにはD—15・20・27・28・29・30・31が挙げられる。

D—33号土坑 (Fig.10、PL.38)

位置 X59、Y120グリッド 主軸方位 N—3°—E 形状 楕円形。長軸130cm、短軸78cm、深さ62cmを測る。重複 H—5と重複するが新旧は不明。出土遺物 灰釉高台椀1点、須恵器坏1点、土師器甕小破片1点を図示した。備考 出土遺物から遺構の年代は10世紀前半であると推定される。H—5に付帯する施設である可能性もある。

D—34号土坑 (Fig.23、PL.38)

位置 X68、Y115グリッド 形状 不整円形。長軸162cm、短軸128cm、深さ14cmを測る。重複 A—1を切る。出土遺物 濱戸折縁皿、ほうろく底部の小破片等微量。備考 本遺構はD13・26・35と埋土の特徴が近似する。D—13・26は、水田耕作土直下から掘り込まれ、相対的に遺構の年代はかなり新しいと考えられる。

I—1号井戸 (Fig.23、PL. 5)

位置 X63、Y120グリッド 形状 平面は不整円形、断面は漏斗状を呈する。長軸146cm、短軸118cm、深さ(146)cmを測る。出土遺物 濱戸小破片。備考 出土遺物・埋土の特徴から遺構の年代は中世以降に相当すると考えられる。

O—1 (Fig.32・39、PL. 5)

位置 X63・64、Y117グリッド 形状 不整形。長軸(416)cm、短軸334cm、深さ64cmを測る。出土遺物 須恵器の大甕1点、瓶3点、坏3点を図示した。備考 風倒木痕と考えられる。埋土中からは自然石の集石に混じって、若干量の須恵器・瓦片が出土した。また本遺構の北西寄りから馬骨・馬歯も出土した。

(4) 畠跡・道路状遺構

1号畠跡 (Fig.24、PL. 5)

位置 X 60～64、Y 118～121グリッド 残存面積 105.68m² 形状 長辺15.92m、短辺7.76m、小溝の幅12～30cm、深さ 3～8 cm、小溝の間隔38～186cmを測る。重複 W-1、H-7、I-1に切られる。出土遺物 繩文土器片微量。備考 重複関係から10世紀より古いと考えられる。小溝の走向は主軸方位N-30°-W～N-49°-Wを示す一群と、N-48°-E～N-72°-Eを示す一群に大別され、最低2回の歓替えが想定される。

A-1号道路状遺構 (Fig.25、PL. 5)

位置 X 66～70、Y 113～120グリッド 主軸方位 N-22°-W 形状 長さ28.64m、幅1.60～3.16m、深さ 0～12cmを測る。重複 D-34に切られる。出土遺物 瓦片・躰少量 備考 時期を判別しうる遺物の出土が認められないが、中世以降であると考えられる。VII層（B混土）を切り、VIa層中から掘り込まれると考えられる。

VI まとめ

本章では、今回の発掘調査で得られた成果にささやかながら若干の所見を加えることでまとめにかえたいと思う。

(1) 壇穴住居跡

本調査区で検出した住居跡を從来の元總社蒼海遺跡群の時期区分にしたがって分類すると、I期（7世紀前半以前）1軒、II期（7世紀～10世紀初頭）4軒、III期（10世紀以降）8軒となる。また、各期の住居跡の主軸方位は他の遺跡で示される傾向と概ね齟齬しない。ただし、H-4号住居の主軸方位は他の住居跡より大きくずれ、純度の高いB輕石層が埋土に認められることから、本調査区内でも相対的に新しい時期であると想定される。住居跡の密度・重複率は低く、その分布は全時代を通じて調査区中央の空白区域を挟んで東側と西側のブロックに偏在する傾向が指摘できる。周囲の遺跡を概観すると蒼海遺跡群（11）が西側に、蒼海遺跡群（18）が東側に本調査区と隣接し、比較的住居跡が密集する区域があり、南側に隣接する元總社小見III遺跡は本調査区に接する1区周辺は住居跡の密度は薄く、南に向かって増加する傾向が見て取れる。また、調査区北側60mを隔てて元總社小見VII遺跡、南側50m隔てて元總社小見遺跡8区が所在し住居跡の密集が窺われる。この様な周辺遺跡の状況から蒼海遺跡群（16）は各住居群の縁辺部にあたり、その中央に全時期を通じて住居跡の分布の薄い空閑地が形成されていたことが指摘できる。

(2) その他の遺構

特筆される遺構の一つに1号畠跡が挙げられる。畠跡の小溝を被覆する土層の植物珪酸体分析の結果からムギ栽培の可能性が示唆された点は注目される。また、残存状況不良で精査の過程で消失したがH-10号住居跡付近でも畠状の小溝を確認し、こうした遺構がある程度の広がりをもって分布した可能性が消極的ながら看取された。遺構の年代は6世紀～10世紀と曖昧だが、生産域の推移も地域の歴史的景観を構成する一要素であり、集落の動態と合わせて検討を重ねる必要があると思われる。

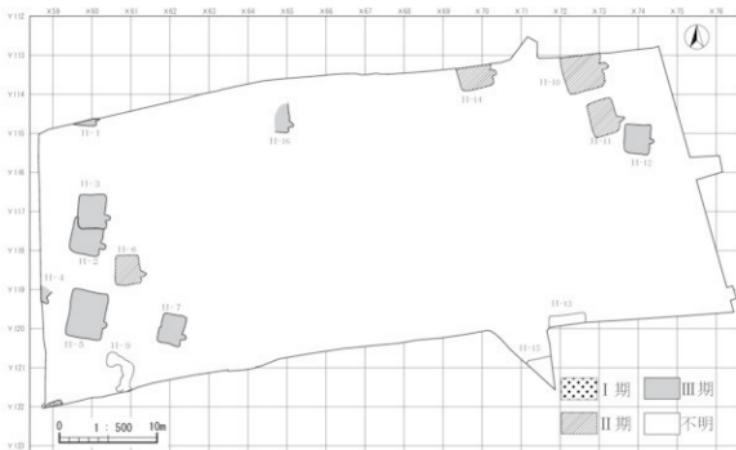


Fig. 6 壇穴住居跡時期別分布図

付編：元総社蒼海遺跡群（16）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

群馬県前橋市元総社町に所在する元総社蒼海遺跡群（16）は、榛名山の南東山麓に形成された扇状地扇端付近、現在の利根川右岸の台地上に立地している。本遺跡周辺は、榛名山を源とする牛池川や染谷川等の小河川の開析に伴う低地が形成されており、これらの低地と台地との比高差は比較的明瞭である。

本遺跡は、牛池川右岸の台地上に立地しており、発掘調査の結果、古墳時代およびそれ以前の住居跡や土坑、小溝群が検出されている。小溝群は、いずれも掘込みが浅い幅約20cm程度の規模を有し、長軸方向を同じくする数条の溝で構成され、一部ではこれら的小溝群が直交する状況が確認されている。本遺跡周辺においても、同様の形態の遺構が検出されており（例えば、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、2003、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、2007など）、発掘調査所見から畠跡とされている。

本報告では、本遺跡から検出された畠跡とされる小溝群（1号畠跡）における栽培植物の検討を目的として、自然科学分析調査を実施する。

1. 試 料

小溝群（1号畠跡）は、調査区南壁付近より検出されており、その一部は調査区外に広がることが確認されている。このことから、試料は、調査区南壁に認められた基本土層と小溝群覆土を対象に採取されている。

本遺跡の基本土層は、発掘調査所見によれば、下位より黒褐色土（Ⅳ層）、縄文時代中期の土器片等が混じる黒色土（Ⅲ層）、As-C及び榛名山系軽石が混じる暗褐色土（Ⅱ層）、As-Cおよび榛名山系軽石が混じる古代の遺構を被覆する暗褐色土（Ⅰ層）、As-B軽石が多量混じる黒褐色土（I層）からなる。上記した小溝群は、Ⅲ層下位より検出されており、Ⅳ層上位との間に、小溝が掘込まれる土層（2層）と小溝覆土（1層）が認められる。2層はAs-Cが混じる黒色土、1層はAs-Cが混じる暗褐色土である。

分析試料は、I層下部～IV層（1.2層を含む）まで厚さ5cm連続で採取された土壌13点（試料番号1～13）、2層が厚く堆積する箇所より同層最上部より厚さ5cm連続で採取された土壌3点（試料番号14～16）である。ここでは、試料の保存状況や分析目的から、イネ科の栽培植物の検討を目的とし、基本土層II～IV層（試料番号4、7、13）、小溝が掘込まれる2層（試料番号12、15）、小溝覆土の1層（試料番号9、11）を対象に植物珪酸体分析を行う。

2. 分析方法

（1）植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2004）の分類に基づいて同定・計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。各分類群の含量は10の位で四捨五入し、100単位として表記する。合

表1 植物珪酸体含量

種類	試料名	1号高跡 (個/g)						
		II層 4	III層 7	9	1層 11	12	2層 15	IV層 13
イネ科葉部短細胞珪酸体								
イネ科イネ属	6,700	2,600	400	—	—	—	—	—
タケ亜科ネザサ節	16,300	10,000	9,300	15,800	8,400	9,600	61,600	—
タケ亜科	8,400	9,000	8,000	6,000	10,200	14,600	29,200	—
ヨシ属	1,100	4,700	3,100	1,600	4,900	4,600	16,600	—
ウシクサ族コブナグサ属	600	500	400	—	—	—	—	—
ウシクサ族ススキ属	7,300	6,300	11,300	13,000	8,900	14,100	27,200	—
イネゴツナギ亜科オオムギ族	1,100	—	1,800	1,000	—	—	—	—
イネゴツナギ亜科	14,600	5,800	3,200	2,200	5,300	5,500	9,900	—
不明キビ型	41,000	42,200	39,800	29,100	27,100	26,900	43,700	—
不明ヒゲシバ型	3,400	1,600	1,800	6,000	5,800	6,800	20,500	—
不明ダンナク型	16,300	12,100	10,200	13,000	6,700	10,900	25,800	—
イネ科葉身機動細胞珪酸体								
イネ族不開	5,300	3,200	—	—	—	—	—	—
タケ亜科ネザサ節	19,100	16,900	5,300	13,000	16,000	13,200	68,300	—
タケ亜科	5,100	5,300	1,800	6,000	4,000	6,400	17,200	—
ヨシ属	4,500	1,600	1,300	2,200	900	2,300	8,000	—
ウシクサ族	8,400	15,300	6,200	10,000	5,800	12,800	16,600	—
不開	21,400	24,800	7,100	19,000	12,400	20,000	25,200	—
合計	イネ科葉部短細胞珪酸体	116,900	94,900	89,400	79,200	77,300	92,900	234,600
	イネ科葉身機動細胞珪酸体	64,100	67,000	21,700	51,100	39,100	54,700	135,200
合計		181,000	161,900	111,100	130,400	116,300	147,600	369,700

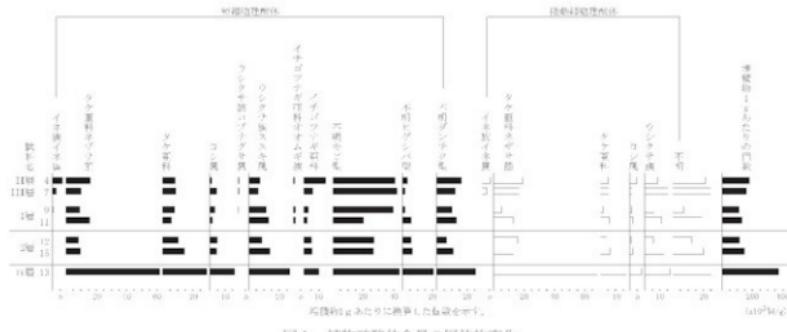


図1 植物珪酸体含量の層位の変化

計は、各分類群の丸めない値を合計した後に100単位として表記している。さらに、各分類群の植物珪酸体含量とその層位の変化から栽培植物や古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位の変化を図示する。

3. 結 果

結果を表1、図1に示す。各試料からはイネ科起源の植物珪酸体が検出される。いずれも保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。ただし、土壤中の作用による極端な溶解は見られないことから、植物珪酸体の消失も考えにくく、植物珪酸体は埋積当時の状態を保っていると考えられる。

IV層（試料番号13）では、ネザサ節を含むタケ亜科の含量が高い値を示し、ヨシ属、スキ属を含むウシクサ族、イネゴツナギ亜科なども認められる。

IV層上位の小溝が掘込まれる黒色土（2層：試料番号12, 15）では、ネザサ節を含むタケ亜科とともにスキ属を含むウシクサ族の含量は高い値を示す。ただし、いずれの試料もIV層と比較してネザサ節を含むタケ亜科の含量は急減する。小溝覆土に相当する暗褐色土（1層：試料番号9, 11）では、検出された分類群やその産状は2層に類似する。また、試料番号9からは栽培植物のイネ属、試料番号9, 11からは栽培種を含む分類群であるオオムギ族の短細胞珪酸体が検出される。

III層の暗褐色土（試料番号7）やII層の暗褐色土（試料番号4）も、下位の1・2層と同様の産状が認められ、ネザサ節を含むタケ亜科やスキ族の含量は高い値を示す。栽培植物のイネ属は、III・II層から検出され、葉部

の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が認められ、ともにII層（試料番号4）で含量が高い。また、II層（試料番号4）からは、オオムギ族の短細胞珪酸体が検出される。

4. 考 察

各試料の植物珪酸体分析の結果、植物珪酸体含量はいずれも10万個/g以上を示し、最下位のIV層では約37万個/gと高い値を示した。IV層では、ネザサ節を含むタケ亜科やスキ属を含むウシクサ族が高い値を示し、IV層上位の試料においても含量は異なるものの、同様の分類群が高い値を示した。これらの傾向から、ネザサ節やスキ属をはじめとして、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などイネ科植物の生育が窺われる。特に、産出の目立ったネザサ節やスキ属には乾いて開けた場所に生育する種類が多いことから、調査区周辺は開けた草地であったと考えられる。また、湿潤な場所に生育するヨシ属も検出されたことから、周辺域には湿潤な場所も存在したと考えられる。

栽培植物や栽培種を含む分類群では、小溝覆土に相当する1層とその上位の堆積物よりイネ属やオオムギ族の植物珪酸体が検出された。1層やII層から検出されたオオムギ族の植物珪酸体含量は1,100~1,800個/gと、極端な増減は認められず、III・IV層や2層ではオオムギ族は全く検出されなかった。このことから、小溝群覆土である1層の上・下位の土層からの混入の可能性は低く、小溝群の埋積過程でオオムギ族の植物珪酸体が混入したと推測される。なお、オオムギ族には、栽培種のオオムギやコムギのほか野生種が含まれ、その形態から栽培種か否かの判別は困難である。

群馬県内では、中筋遺跡（渋川市）や西組遺跡・黒井峯遺跡（旧子持村）などで、古墳時代の畠跡などからオオムギ族の植物珪酸体が検出されている（パリノ・サーヴェイ株式会社、1990・1993；石井、1994）。また、群馬県内における種実分析結果や前橋市周辺における種実分析結果（洞口、2007、パリノ・サーヴェイ未公表資料）等から、当該期にはムギ栽培の可能性やその利用が示唆される。今回検出されたオオムギ族が栽培種に由来するものであれば、小溝群においてムギ栽培が行われていた可能性がある。

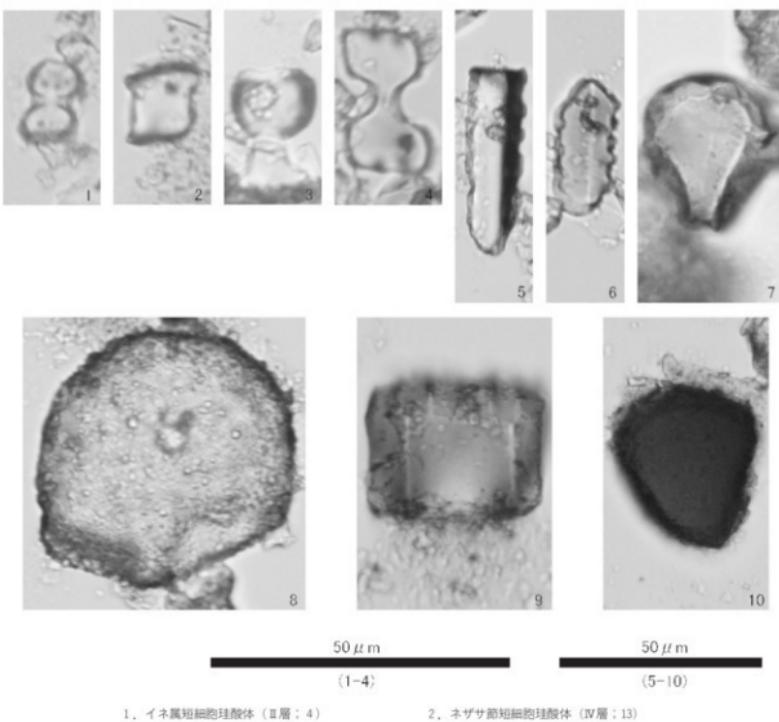
一方、イネ属は、1層（試料番号9）で短細胞珪酸体が400個/g認められたのみであったのに対し、上位のIII層では、短細胞珪酸体は2,600個/g、機動細胞珪酸体は3,200個/g、II層では、短細胞珪酸体は6,700個/g、機動細胞珪酸体は5,600個/gと上位に向かって増加する傾向が認められた。

稻作が行われた水田跡の土壤では、栽培されていたイネ属の植物珪酸体が土壤中に蓄積され、植物珪酸体含量（植物珪酸体密度）が高くなる。水田跡（稻作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料1g当たり5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稻作が行われた可能性が高いと判断している（杉山、2000）。また、本遺跡北東の牛池川の開析によって形成された低地部より検出された水田跡や堆積物を対象とした分析調査結果によれば、As-Cにより上位試料ではイネ属の機動細胞珪酸体含量が9,000~11,400個/gと高い値を示す試料が認められる一方、多数の試料は5,000個/gおよびそれ以下の値を示すことが確認されている（株式会社古環境研究所、2007）。これらの点を考慮すると、II・III層におけるイネ属の産状から稻作の可能性が示唆される。ただし、これらの土層での稻作の可能性については、本遺跡における発掘調査成果や、これらの土層を形成する堆積物の発達過程等についても検討し、評価する必要がある。

引用文献

- 洞口正史、2007、群馬県埋蔵文化財調査事業団種実類調査在遺跡集成、研究紀要25、財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、139-154。
石井克己、1994、軽石噴火で埋まつたムラを掘る、大塚初重監修「日本の古代遺跡を掘る4：黒井峯遺跡『日本のポンペイ』」、読売新聞社、16-122。
古環境研究所、1993、V区における植物珪酸体（プラント・オパール）分析、「財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第156集 元總寺田遺跡 一級河川牛池川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 溝・井戸・土坑・水田の調査遺

- 構・遺物編】、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、217-221。
- 株式会社古環境研究所、2007、植物珪酸体分析、「総社開泉明神北IV遺跡 元總社牛池川遺跡 元總社北川遺跡 元總社小見内V遺跡 一古墳～平安時代の低地、田畠、集落遺跡の調査－ 一级河川牛池川広域基幹河川改修事業（中小）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、287-291、295-300。
- 近藤誠三、2004、植物ケイ酸体研究、ペドロジスト、48、46-64。
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団、2003、元總社蒼海遺跡群 元總社小見V遺跡 元總社小見内VI遺跡 前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、110p。
- パリノ・サーヴェイ株式会社、1990、自然科学分析、「渋川市発掘調査報告書第25集 市内遺跡 1989年度補助事業に伴う調査報告及び試掘記録 第1章 中筋遺跡（第3次）」、群馬県渋川市教育委員会、30-37。
- パリノ・サーヴェイ株式会社、1993、渋川市中筋遺跡（第7次調査）の自然科学分析調査、「渋川市発掘調査報告書 第34集 中筋遺跡 第7次発掘調査報告書」、群馬県渋川市教育委員会、40-60。
- 杉山真二、2000、植物珪酸体（プラント・オ・パール）、辻誠一郎（編著）考古学と自然科学院3 考古学と植物学、同成社、189-213。
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、2007、総社開泉明神北IV遺跡 元總社牛池川遺跡 元總社北川遺跡 元總社小見内V遺跡 一古墳～平安時代の低地、田畠、集落遺跡の調査－ 一级河川牛池川広域基幹河川改修事業（中小）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第407集、306p。



1. イネ属短細胞珪酸体（II層；4）
2. ネガサ節短細胞珪酸体（IV層；13）
3. ヨシ属短細胞珪酸体（IV層；13）
4. ススキ属短細胞珪酸体（IV層；13）
5. オオムギ族短細胞珪酸体（I層；9）
6. オオムギ族短細胞珪酸体（I層；13）
7. イネ属機動細胞珪酸体（I層；4）
8. ネササ節機動細胞珪酸体（IV層；13）
9. ヨシ属機動細胞珪酸体（IV層；13）
10. ウシクサ族機動細胞珪酸体（IV層；13）

図2 植物珪酸体

Tab. 2 住居跡一覧表

遺構名	位 置	規 模			面積(㎡)	主軸方位	竪位置	周溝	主な出土遺物			旧番号
		東西(m)	南北(m)	壁現高(cm)					土師器	須恵器	その他	
H-1	X59・60 Y114	(2.42)	(0.80)	22	(0.96)	N-95°-E	東壁やや南		羽釜・高台坪			
H-2	X59・60 Y117・118	3.18	[3.7]	18	(10.09)	N-102°-E	東壁やや南		羽釜・高台坪・ 环	灰釉陶器		
H-3	X59・60 Y116・117	2.82	3.46	30	9.76	N-88°-E	東壁やや南	甕	甕・高台坪・皿	灰釉陶器・瓦		
H-4	X59 Y119	(1.4)	(1.50)	9	1.05	N-43°-W	(南東壁)		羽釜	軒平瓦		
H-5	X59・60 Y119・120	3.78	4.86	12	18.37	N-100°-E	東壁やや南		高台坪・环	綠釉小磁片		
H-6	X60・61 Y118	2.54	3.08	32	7.82	N-90°-E	東壁南寄り	甕・环	环蓋			
H-7	X61・62 Y119・120	2.31	3.2	8	37.39	N-103°-E	東壁やや南	○	羽釜・高台坪・ 环			
H-8	X58・59 Y121・122	2.26	0.62	16	9.70	N-70°-E	不明	环				D-9
H-9	X60・61 Y120・121	—	—	0	—	—	(東壁)					
H-10	X72・73 Y114	4.00	3.9	46	15.6	N-74°-E	東壁中央	○	环・皿・椀	盤・高台坪・环		
H-11	X72・73 Y114・115	2.7	3.62	34	9.77	N-78°-E	東壁やや南	甕・环	甕・皿・环			
H-12	X73・74 Y114・115	[2.64]	[3.02]	4	[7.97]	N-92°-E	東壁中央	○	环	羽釜・高台坪・ 环	瓦	
H-13	X71・72 Y119	3.76	(1.12)	22	4.21	N-88°-E	不明					
H-14	X60・70 Y113	3.52	(2.4)	24	8.4	N-76°-E	東壁やや南	○	环	甕・环蓋		
H-15	X70 Y120・121	(2.56)	(3.44)	18	4.40	N-76°-E	不明					
H-16	X64・65 Y114	(1.26)	(2.94)	6	3.70	N-90°-E	東壁やや南				瓦	

Tab. 3 竪一覧表

遺構名	規 模 (cm)		主軸方位	構 造 材			道構名	規 模 (cm)		主軸方位	構 造 材		
	長さ	最大幅		袖	壁体	支脚		長さ	最大幅		袖	壁体	支脚
H-1	46	(21)	N-93°-E				H-9	(144)	—	N-90°-E			
H-2	112	62	38	N-105°-E	自然石		H-10	116	70	40	N-76°-E	凝灰岩切石	
H-3	84	64	64	N-90°-E		瓦	H-11	134	66	66	N-25°-E	自然石	砂岩加工有り?
H-4	74	60	44	N-45°-W	自然石・ 凝灰岩切石	瓦	H-12	74	54	54	N-96°-E	瓦	
H-5	84	72	72	N-97°-E	自然石		H-14	84	66	60	N-84°-E	凝灰岩切石	
H-6	112	70	46	N-88°-E	自然石	瓦	H-16	56	66	66	N-102°-E		
H-7	58	64	64	N-105°-E		瓦							

Tab. 4 溝跡計測表

遺構名	位 置	長さ (m)	深さ (cm)	幅(cm)		主軸方位	断面形	時 期	道構名	位 置	長さ (m)	深さ (cm)	主軸方位	断面形	時 期	
				上幅	下幅											
W-1	X68・69 Y114・121	30.80	32	76	44	N-11°-E	逆台形	中世以降	W-4	X70・75 Y115・116	25.32	20	84	56	N-97°-W	皿状
W-2	X58・61 Y118・121	16.30	20	84	64	N-46°-W	JU-J字状	古代以前	W-5	X67 Y118・119	2.68	12	72	52	N-62°-E	皿状
W-3	X58 Y114・116	5.80	100	(92)	(112)	N-9°-E	逆台形	中世以降								

Tab. 5 土坑・井戸・風倒木痕計測表(1)

遺構名	位 置	規模(cm)			主軸方位	形状	年代	目番号	遺構名	位 置	規模(cm)			主軸方位	形状	年代	目番号
		長軸	短軸	深さ							長軸	短軸	深さ				
D-1	X60 Y118	112	62	32		不整橢円	古代		D-11	X60 Y121	(138)	102	22		不整橢円	古代	
D-2	X60 Y119	90	90	22		不整橢円	古代		D-12	X73 Y123	72	(32)	10		(円形)	中世以降	
D-3	X61 Y119	152	100	56	N-77°-E	橢円	古代		D-13	X73 Y113	(296)	104	24	N-3°-E	(方形)	近世以降	
D-4	X62 Y118	232	212	36	N-37°-W	不整方形	古代		D-14	X73 Y113	(86)	(54)	19		(方形)	中世以降	
D-5	X64 Y119	182	100	48		不整椭	古代	H-17	D-15	X76 Y119	98	96	29		円形	中世以降	
D-6	X63 Y120	(112)	82	20	N-53°-W	橢円	古代		D-16	X76 Y119	86	76	24		円形	中世以降	
D-7	X62 Y120	74	54	4		橢円	古代		D-17	X72 Y114	(166)	(46)	6		不整橢円	古代	
D-8	X62 Y120	60	52	24		円形	古代		D-18	X75 Y118	170	90	11	N-5°-E	橢円	中世以降	
D-10	X62 Y121	150	82	26		不整橢円	古代		D-19	X74 Y118	108	90	36		円形		

Tab. 6 土坑・井戸・風倒木痕計測表(2)

遺構名	位 置	規模(cm)			主軸方位	形状	年代	目番号	遺構名	位 置	規模(cm)			主軸方位	形状	年代	目番号
		長軸	短軸	深さ							長軸	短軸	深さ				
D-20	X75 Y118	80	78	6		円形	中世以降		D-21	X67 Y117	81	74	6		円形	中世以降	
D-21	X70 Y117	236	172	10	N-1°-W	方形	中世以降		D-22	X66 Y116	94	92	26		円形	中世以降	
D-22	X70 Y118	276	98	18	N-2°-E	橢円	中世以降		D-23	X59 Y120	130	78	62	N-3°-E	橢円	古代以降	
D-23	X69 Y118	84	72	12		不整円形			D-24	X68 Y115	162	128	14		不整円形	近世以降	
D-24	X71 Y119	134	92	32	N-8°-W	橢円	古代		D-25	X65 Y114	104	58	6	N-2°-E	不整橢円	近世以降	
D-25	X67 Y112	(78)	38	36		(方形)	古代		D-26	X70 Y117	220	92	5	N-1°-W	橢円	中世以降	
D-26	X70 Y120	(164)	50	16		(円形)	近世以降		D-27	X67 Y116	74	66	6		不整円形	古代	
D-27	X69 Y119	91	84	10		円形	中世以降		D-28	X73 Y114	54	50	40				
D-28	X68 Y119	74	74	6		円形		I-1	X63 Y120	146	118	(146)		半不整橢円 前輪半状	中世以降	D-5	
D-29	X68 Y118	93	87	6		円形	中世以降	O-1	X63*64 Y117	(416)	334	64		不整形	古代	H-8	
D-30	X67 Y117	80	74	7		円形	中世以降										

Tab. 7 1号墓跡計測表

遺構名	位 置	残存面積	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	小溝の幅(m)	深さ(m)	小溝の深さ(m)	時期	備 考				
										前輪	後輪	前輪	後輪	
1号墓跡	X69~64 Y118~121	166.68	15.92	7.76	12~30	2~8	28~186	古代以前						

Tab. 8 道路状遺構計測表

遺構名	位 置	長さ(m)	深さ(cm)	幅(cm)	掘込(cm)	主軸方位	時期		備 考
A-1	X69~70 Y113~120	28.64	0~12	160~316	N-22°-W	中世以降			

Tab. 9 出土土器観察表(1)

番号	棚位	種類	①口径	②高さ	③底径	④加工	⑤底面	⑥底面存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
1	H-1 床底	羽茎 葉巻	①(17.6)②(10.9)③-	-	△砂利底2cm灰白色砂利底	-	-	-	輪郭痕残す。外内面クロナザ。	邊縁焼成。
2	H-1 窓	高台杯 甌	① 11.8 ② 4.9 ③ 6.4	-	△砂粒・角閃・石英2cm灰白色砂利底	-	-	-	外内面クロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
3	H-1 窓	高台杯 甌	①(12.6)②(2.9)③-	-	△白英・片岩・石英2cm灰白色砂利底	1/3	-	-	外内面クロナザ。	無化焰焼成。
4	H-2 埋土	羽茎 葉巻	①(19.4)②(25.7)③(7.1)	-	△砂粒・石英・白鈍2cm灰白色砂利底	3/4	-	-	外縁：口縁～側部上半ロクロナザ。側部下半ハラケイリ。内面ロクロナザ。砂利底第二次焼成か。	邊縁焼成。
5	H-2 埋土	高台杯 甌	①(17.2)② 6.4 ③(8.1)	-	△砂粒2cm灰白色砂利底	3/5	-	-	外縁：口縁～側部上半ロクロナザ。体部下半から底部は回転糸切り後、高台付け。内面垂れねじりの痕跡有。	邊縁焼成。H-5出土焼片と通焼間合せ。
6	H-2 埋土	高台杯 甌	①(12.4)② 4.5 ③(6.2)	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	2/5	-	-	外縁：口縁～側部上半ロクロナザ。側部下半～底部ハラケイリ。高台付け。内面ロクロナザ。施釉は剥げ掛け。	邊縁焼成。
7	H-2 埋土	高台杯 甌	①(14.3)② 5.8 ③(8.2)	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	1/3	-	-	外縁：口縁～側部上半ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	無化焰焼成。
8	H-2 窓	高台杯 甌	①(12.4)② 5.6 ③(6.1)	-	△砂粒2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内面クロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
9	H-2 窓	高台杯 甌	①(12.9)② 5.2 ③ 7.1	-	△砂粒2cm灰白色砂利底	3/4	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
10	H-2 窓	高台杯 甌	①(11.5)② 4.5 ③ 6.2	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	無化焰焼成。
11	H-2 窓	高台杯 カマツ	①(11.2)② 4.9 ③ 5.5	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	3/4	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
12	H-2 床底	环 葉巻	①(12.0)② 3.9 ③ 6.0	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	2/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	無化焰焼成。
13	H-2 埋土	环 葉巻	①(11.6)② 3.3 ③ 5.5	-	△砂粒2cm灰白色砂利底	1/3	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
14	H-2 埋土	环 葉巻	①(12.2)② 3.4 ③ 5.8	-	△砂粒2cm灰白色砂利底	3/4	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	無化焰焼成。
15	H-2 埋土	環 葉巻	①(12.1)② 2.8 ③ 5.6	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
16	H-2 カマツ	環 葉巻	①(12.1)② 2.8 ③ 5.6	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
17	H-2 埋土	環 葉巻	① - ② - ③ -	-	△砂粒2cm灰白色砂利底	-	-	-	外縁：口縁～側部上半ロクロナザ。側部平行タテキ後ナダ。内面：口縁部ロクロナザ。側部内凹心内アクリ。	邊縁焼成。
18	H-3 窓穴	環 葉巻	①(37.4)②(11.1)③-	-	△砂粒・白英・黄鉄・石英2cm灰白色砂利底	-	-	-	外内ロクロナザ。	無化焰焼成。
19	H-3 埋土	環 葉巻	①(18.8)②(10.8)③-	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	-	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
20	H-3 床底	高台杯 甌	①(15.6)② 5.2 ③ 7.5	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	-	-	-	外縁：口縁～側部上半ロクロナザ。底部：回転糸切り後ナダ。内面：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。施釉は剥げ掛け。	邊縁焼成。
21	H-3 埋土	高台杯 甌	①(14.1)② 5.4 ③ 7.2	-	△砂粒・黒鉄2cm灰白色砂利底	3/4	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
22	H-3 埋土	高台杯 甌	①(14.7)② 5.2 ③ 6.8	-	△砂粒・片岩・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
23	H-3 床底	高台杯 甌	①(14.5)② 5.4 ③ 6.9	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	1/3	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
24	H-3 埋土	高台杯 甌	① - ② (3.6)③ (6.7)	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。内面はミガキ、灰斑有。	無化焰焼成。
25	H-3 窓穴	环 葉巻	①(13.8)② 5.6 ③ 6.1	-	△白英・片岩・白鈍2cm灰白色砂利底	3/4	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
26	H-3 埋土	羽茎 葉巻	①(21.7)②(15.2)③-	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	4/4	-	-	外縁部外底：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。内面：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。	無化焰焼成。砂利底第二次焼成か。
27	H-5 埋土	羽茎 葉巻	① - ② (7.0)③ (7.7)	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外縁部外底：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。	無化焰焼成。
28	H-5 埋土	羽茎 葉巻	① - ② (3.7)③ (5.6)	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外縁部外底：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。	無化焰焼成。
29	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(11.7)② (4.8)③-	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外内ロクロナザ。	無化焰焼成。
30	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(17.2)② (4.7)③-	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外内ロクロナザ。	無化焰焼成。
31	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	① - ② (7.4)③ (7.7)	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外縁部外底：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。内面：口縁部ロクロナザ。	無化焰焼成。
32	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(19.8)② (7.8)③-	-	△砂粒・碧玉・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外縁部外底：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。	無化焰焼成。
33	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	① - ② (3.7)③ (5.6)	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外縁部外底：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。	無化焰焼成。
34	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(12.8)② 4.5 ③ 6.6	-	△白英・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	無化焰焼成。
35	H-5 羽茎 葉巻	P-2 羽茎 葉巻	①(12.7)② 4.7 ③ 6.2	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
36	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	① - ② (7.0)③ (17.4)	-	△白英・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外内ロクロナザ。	邊縁焼成。
37	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(13.2)② 4.2 ③ 5.2	-	△砂粒・碧玉・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外縁部外底：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。	無化焰焼成。
38	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	① - ② (3.7)③ (5.6)	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外縁部外底：口縁部ロクロナザ。側部ハラケイリ。	無化焰焼成。
39	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(11.7)② (4.8)③-	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外内ロクロナザ。	無化焰焼成。
40	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	① - ② (7.0)③ (17.4)	-	△白英・白鈍2cm灰白色砂利底	-	-	-	外内ロクロナザ。	邊縁焼成。
41	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(13.0)② 4.7 ③ 6.6	-	△白粒2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
42	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(12.8)② 4.5 ③ 6.6	-	△白英・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	無化焰焼成。
43	H-5 羽茎 葉巻	P-2 羽茎 葉巻	①(12.7)② 4.7 ③ 6.2	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
44	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(13.2)② 4.2 ③ 5.2	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
45	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(11.9)② 4.8 ③ 6.5	-	△白英・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	邊縁焼成。
46	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(13.1)② 5.0 ③ (6.2)	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	2	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後。	邊縁焼成。
47	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(14.4)② 5.1 ③ (6.8)	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後、高台付け。	無化焰焼成。
48	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(13.1)② 4.6 ③ 6.4	-	△砂粒・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後。	邊縁焼成。
49	H-5 羽茎 葉巻	羽茎 葉巻	①(13.0)② 4.7 ③ 6.3	-	△白英・白鈍2cm灰白色砂利底	4/5	-	-	外内ロクロナザ。底部：回転糸切り後。	邊縁焼成。

Tab.10 出土土器觀察表 (2)

番号	棚位	種類	①口径 ② 高さ ③ 直径	④土色成形色跡・遺存度	器形の特徴・形態・調整技法	備考
50	H-5 床底 窓	杯	①(11.5)② 3.8 ③ 5.6 内面 直角	⑤内粒・砂粒・石粉・小飾⑥直 径1/3	外面部ロクロナダ。底部：回転式切削。	遺光焼成。内 窓タール状形跡。
51	H-5 床底 窓	杯	①(12.0)② 3.6 ③ 5.9	④内粒・玻璃⑤直明赤陶ヘ・根 白1/2	外面部ロクロナダ。底部：回転式切削。	無化焼成。
54	H-6 床底 窓	盃	①(16.5)② 3.7 ③ —	③内粒・根鉢・石粉・小飾④直 径1/4(ほぼ完形)	外面部：ロクロナダ。天井部回転ヘ・ケツリ後。瓶み付舟。ヘラケツリの下。遺光焼成。 地に直角切り。内面：ロクロナダ。	
55	H-6 埋土 窓	盃	①(18.6)② (2.4)③ —	③黒粒直良④灰白色④ 2/3	外面部：ロクロナダ。天井部回転ヘ・ケツリ後。内面：ロクロナダ。	遺光焼成。
56	H-6 高台横 埋土 窓	盃	① (2) (1.8)② (9.4)	③内粒直良④灰白色④破片	外面部ロクロナダ。底部：回転式切削後。高台付舟。	遺光焼成。
57	H-6 床底 土罐	杯	①(11.6)② 3.9 ③ —	④角凹2直良④明赤陶④ 3/4	器形歪む。外面部：口縁部ココナダ。脚部ヨビナダ・スピオサエ。底部ヘラ ケツリ。内面：ロクロナダ。	
58	H-6 床底 土罐	盃	① — ② — ③ —	④直粒・灰白・白粉・黒粒直良 ④明赤陶直良	脚部上位に大鋸歯。脚部中位に直合板。 脚部上位に立柱跡。口縁部直立時耳に立柱がある。脚部中位に直合板。 外面部：ロクロナダ。脚部ヨビコナダ。脚部ヘラケツリ。内面：ロクロナダ。脚部ケ ツリ。	
60	H-7 羽屋 床底 窓	盃	①(18.4)②(18.6)③ —	③砂粒・白粉直良④灰黄～に 似色直角	外面部：口縫・脚部上半ロクロナダ。脚部下半ヘ・ケツリ。内面ロクロナダ。	遺光焼成。
61	H-7 羽屋 床底 窓	盃	①(21.2)② (9.8)③ —	③青母・砂粒直良④暗赤色4破片	外面部ロクロナダ。	遺光焼成。
62	H-7 高台杯 床底 窓	盃	① — ② (3.4)③ 6.0 3	④内粒・直良②直3明赤陶④ 1/ 3	外面部：ロクロナダ。底部：回転式切削後。高台付舟。	無化焼成。
63	H-7 床底 窓	杯	①(13.3)② 3.4 ③ (7.7)	③黒粒直良④灰白色④ 2/5	外面部ロクロナダ。底部：回転式切削。	遺光焼成。
65	H-8 埋土 窓	盃	①(11.5)② (3.0)③ —	④直底直良④直色直角破片	外面部：ロクロナダ。底部ヘラケツリ。内面：ココナダ。	
66	H-10 陶 窓	盃	① — (4.2)②(19.7)	④白粉・砂粒直良④灰白色破片	外面部：脚部ロクロナダ。脚部下端一括回転ヘ・ケツリ後。高台付舟。内 面：ロクロナダ。	遺光焼成。
67	H-10 糊 埋土 窓	盃	①(25.6)② (5.6)③ —	④内粒直良④灰白色直角破片	外面部：口縫・脚部上半ロクロナダ。脚部下半回転ヘ・ケツリ。内面：ロ クロナダ。	遺光焼成。
68	H-10 糊 埋土 窓	盃	①(15.4)② 2.2 ③ (13.2)	④内粒直良④灰白色④ 1/3	外面部：口縫・脚部ロクロナダ。脚部下端～底部回転ヘ・ケツリ。内面：ロ クロナダ。	遺光焼成。
69	H-10 糊 埋土 窓	盃	①(14.6)② 3.6 ③ (10.8)	④白粉直良④灰～赤褐色④ 1/ 2	外面部：口縫・脚部ロクロナダ。脚部下端～底部回転ヘ・ケツリ後。高台 付舟。内面：ロクロナダ。	遺光焼成。
70	H-10 糊 床底 窓	盃	①(16.5)② 4.0 ③ (13.6) 破片	④内粒・砂粒直良④灰白色 直角	外面部：口縫・脚部ロクロナダ。脚部下端～底部回転ヘ・ケツリ後。高台 付舟。内面：ロクロナダ。	遺光焼成。
71	H-10 糊 埋土 窓	盃	① — (2) (1.6)③ —	④内粒直良④灰青～灰褐色④ 1/ 5	外面部：ロクロナダ。天井部回転ヘ・ケツリ後。瓶み付舟。内面：ロクロナ ダ。	遺光焼成。
72	H-10 糊 埋土 窓	盃	①(12.1)② 3.5 ③ (8.1)	④内粒・白粉直良④灰～赤褐色④ 1/ 2	外面部：口縫・脚部ロクロナダ。脚部下端～底部回転ヘ・ケツリ。内面：ロ クロナダ。	遺光焼成。
73	H-10 糊 床底 窓	盃	①(11.8)② 3.6 ③ (8.2)	④内粒直良④灰褐色④ 1/3	外面部：口縫・脚部ロクロナダ。脚部下端～底部回転ヘ・ケツリ。内面：ロ クロナダ。	遺光焼成。
74	H-10 糊 埋土 窓	盃	① — ② — ③ —	④内粒直良④灰白～灰褐色直角破片	外面部ロクロナダ。	遺光焼成。
75	H-10 糊 埋土 窓	盃	① — ② — ③ —	④内粒直良④直白～灰褐色④ 1/ 5	外面部：平行タキオナダ。内面：同心円アテ具輪。ナデ消し。	遺光焼成。
76	H-10 糊 埋土 窓	盃	① — ② — ③ —	④内粒直良④灰白～灰褐色直角破片	外面部：平行タキオナダ。内面：同心円アテ具輪。ナデ消し。	遺光焼成。
77	H-10 糊 埋土 窓	盃	① — ② — ③ —	④内粒直良④灰褐色直角破片	外面部：平行タキオナダ。内面：アテ具輪。	遺光焼成。
78	H-10 糊 埋土 窓	盃	① — ② — ③ —	④内粒直良④青灰色直角破片	外面部：平行タキオナダ。内面：同心円アテ具輪。	遺光焼成。
79	H-10 糊 埋土 土罐	盃	①(12.9)② (4.3)③ —	④内粒・直良④直明赤陶④ 破片	外面部：ロクロナダ。脚部ヘラケツリ。内面：ロクロナダ。	
80	H-10 床底 土罐	盃	①(12.9)② 3.7 ③ (6.2)	④直底・片唇・砂粒直良④明赤 陶直角(ほぼ完形)	外面部：ロクロナダ。底部ヘラケツリ。内面：ロ縫～底部上半ヨコナダ。 底部半ナダ。	
81	H-10 床底 土罐	盃	①(12.6)② 3.6 ③ —	④内粒・白粉直良④明赤陶④ 4/5	外面部：ロクロナダ。底部ヘラケツリ。内面：ロ縫～底部上半ヨコナダ。 底部半ナダ。	
82	H-10 糊 埋土 土罐	盃	①(12.8)② 3.4 ③ —	④角凹・白粉直良④直色④ 1/4	外面部：ロクロナダ。底部ヘラケツリ。内面：ロ縫～底部上半ヨコナダ。 底部半ナダ。	
83	H-10 床底 土罐	盃	①(15.2)② 3.5 ③ —	④直底・直向舟・白粉直良④ 直角破片	外面部：ロクロナダ。底部ヘラケツリ。内面：ロ縫～底部上半ヨコナダ。 底部半ナダ。	
85	H-11 糊 カツア 土罐	盃	①(23.6)② 30.6 ③ 6.2	④直底・白粉・黑粒直良④明赤 陶直角(ほぼ完形)	外面部外斜。脚部中心に接合板。内面：ロクロナダ。脚部～底部ヘラ ケツリ。内面：ロクロナダ。	
86	H-11 糊 床底 窓	盃	①(22.8)② (29.0)③ —	④直底・直向舟・白粉・黑粒直良 ④直角破片	外面部外斜。内面：ロクロナダ。脚部～底部ヘラケツリ。内面：ロクロナ ダ。	遺光焼成。
87	H-11 糊 カツア 土罐	盃	① — (2)(19.1)③ —	④直底・白粉・黑粒直良④直色④ 1/5	外面部：ロクロナダ。底部ヘラケツリ。内面：ヘラナダ。	
88	H-11 糊 埋土 窓	盃	① — (2)(13.3)③ (13.7)	④小腰・白粉・黑粒直良④直白 直角破片	外面部：ロ縫～脚部上半ロクロナダ。脚部下半回転ヘ・ケツリ後高台付舟。	遺光焼成。
89	H-11 糊 埋土 窓	盃	① — (2) (1.2)③ (9.5)	④白粉・黑粒直良④直色④ 1/4	外面部：回転式切削。内面：ロクロナダ。	遺光焼成。
90	H-11 糊 埋土 窓	盃	① — (2) (1.5)③ —	④内粒・直縫・直底直良④直色④ 1/4	外面部：回転式切削。内面：ロクロナダ。	遺光焼成。
91	H-11 糊 床底 窓	盃	①(12.6)② 3.5 ③ (8.4)	④内粒直良④直色④ 1/3	外面部：ロ縫～脚部ロクロナダ。脚部下端～底部回転ヘ・ケツリ。内面：ロ クロナダ。	遺光焼成。微傾 傾斜
92	H-11 糊 埋土 土罐	盃	①(12.4)② 3.8 ③ —	④直底・黑粒直良④直色④ 1/2	外面部：ロクロナダ。底部ヘラケツリ。内面：ロ縫～底部上半ヨコナダ。 底部半ナダ。	
93	H-11 糊 埋土 土罐	盃	① (12.4)② 3.2 ③ —	④角凹・白粉直良④明赤陶直角 4/5	外面部：ロクロナダ。底部ヘラケツリ。内面：ロ縫～底部上半ヨコナダ。 底部半ナダ。	
96	H-12 糊 カツア 土罐	盃	①(23.6)② (21.8)③ —	④直底・白粉直良④直色④ 1/ 5	外面部：ロクロナダ。	無化焼成。傾斜 後二次焼成。

Tab.11 出土土器観察表 (3)

番号	棚位	種類	①口径	②腹高	③底径	④土器⑤成形色調⑥保存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
97	H-12 床底	高台杯 頭部器	①(13.9)②(5.0)③(6.3)	白釉・肉厚底④灰褐色⑤4/1	外内ロクロナ。底部に軋糸切り後、高台黏付。	露光焼成。		
98	H-12 床底	杯 頭部器	①12.4 ② 4.1 ③ 5.8	④口縁・脚部・石突⑤灰褐色	外内ロクロナ。底部に軋糸切り。	露光焼成。		
99	H-12 床底	杯 土脚器	①(12.8)② 3.7 ③ [6.7] ④口縁・脚部・底部真黄⑤灰褐色⑥1/3	白釉・肉厚底④灰褐色⑤4/1	外縁：口縫跡ヨコナ。脚部ユビナ。スピオサム。脚部下端～底部ヘラケナ。内面：口縁～脚部ヨコナ。底部ヘラケナ。	露光焼成。高台は人为的に打ち欠いたもの。		
106	H-14 埋土	長脚瓶 頭部器	① - ②(11.0)③ -	④白釉・黒轮廓真黄⑤灰白色⑥1/4	脚部に一筋の沈線。側面列点文。外腹：肩～脚部上半ヨコナ。脚部下半は回転ヘラケナ。底部カズリ。内面：口縫跡ヨコナ。	露光焼成。高台は人为的に打ち欠いたもの。		
107	H-14 カツド	盖 頭部器	①19.1 ② 3.4 ③ -	④白釉・砂粉真黄⑤灰白色⑥完形	外縁：口縫跡ヨコナ。天井部輪転ヘラケナ。縫み貼付及び外周に手縫ひヘラケナ。内面：口縫跡ヨコナ。	露光焼成。		
108	H-14 床底	杯 土脚器	①(13.8)② 3.8 ③ -	④角窓・石突・白轮廓真黄⑤修復 ③～明治褐色⑥2/3	外縁：口縫跡ヨコナ。底部ヘラケナ。内面：口縫跡ヨコナ。	露光焼成。		
109	H-14 床底	杯 土脚器	①(11.9)② 3.5 ③ -	④白釉・青唇・底脚・黒轮廓真黄⑤灰褐色⑥2/3	外縁：口縫跡ヨコナ。底部ヘラケナ。内面：口縫跡ヨコナ。	露光焼成。		
110	H-14 床底	火鉢か 土脚器	① - ② - ③ -	④底脚・白釉・黒轮廓真黄⑤修復 ④褐色	外縁：ヘラケナ。内面：ヘラナ。			
111	H-15 埋土	甕 頭部器	① - ② - ③ -	④新・白釉・真黄⑤灰褐色⑥明治褐色⑦灰褐色	外縁：口縫跡ヨコナ。平行タクナ。内面：口縫跡ヨコナ。側面アラカ。ナナ被されず剥離。	露光焼成。		
112	H-15 埋土	盤か 土脚器	① - ② - ③ -	④口縁・黒轮廓真黄⑤灰褐色⑥灰褐色	外縁：回転ヘラケナ。内面：ヨコナ。内面：ヨコナ。	露光焼成。		
113	D-2 埋土	甕 頭部器	① - ② - ③ -	④白釉・砂粉真黄⑤灰褐色⑥灰褐色	外縁：平行タクナ。内面：同心円アラカ。	露光焼成。		
116	D-4 埋土	甕 頭部器	① - ② - ③ -	④小窓・白轮廓真黄⑤灰褐色⑥灰褐色	外縁：平行タクナ。内面：同心円アラカ。	露光焼成。		
118	D-24 床底	杯 土脚器	①(10.6)② 2.4 ③ -	④内窓・青真黄⑤褐色毛破片 ④褐色	外縁：口縫跡ヨコナ。底部ヘラケナ。内面：口縫～底部上半ヨコナ。底部半ナ。			
119	D-32 高台埋 土脚器	杯 頭部器	①(15.5)② 5.4 ③ 8.2	④口縁・毛破片⑤灰・黄色・褐色 ④褐色	外縁：口縫跡ヨコナ。底部ヘラケナ。内面：口縫～底部上半ヨコナ。施釉は崩毛ナ。	露光焼成。		
120	D-32 埋土	杯 頭部器	①(12.5)② 3.4 ③ 6.3	④口縁・脚部・内窓・白轮廓真黄 ④褐色⑤2/3	外縁：口縫跡ヨコナ。脚部ヘラケナ。内面：口縫跡ヨコナ。底部カズリ。	露光焼成。		
121	D-32 埋土	甕 土脚器	① - ② - ③ -	④口縁・角窓真黄⑤明治褐色⑥灰褐色 ④褐色	外縁：口縫跡ヨコナ。脚部ヘラケナ。内面：口縫跡ヨコナ。脚部横ナ。			
122	D-34 頭部器か 土脚器	甕 頭部器	① - ② (2.1)③[10.6]	④白轮廓真黄⑤灰白色⑥灰褐色 ④褐色	外縁：回転ヘラケナ。高台は削り出し。内面：ロクロナ。	露光焼成。中世。		
123	W-1 埋土	大甕 頭部器	① - ② - ③ -	④白釉・砂粉真黄⑤灰褐色 ④褐色	内面輪積痕残す。外面：柄により干物附。内面：スピオサム・ユビナ。自然釉。			
124	P-69	甕 頭部器	①[21.7]② (8.0)③ -	④黑轮廓真黄⑤灰白色⑥灰褐色	外内ロクロナ。内面輪積痕ロクロナの下地に指圧圧痕。	露光焼成。		
125	P-65 埋土	甕 土脚器	①(11.8)② 5.0 ③ -	④底脚・黑轮廓真黄⑤灰褐色⑥1/3	外縁：口縫跡ヨコナ。底部ヘラケナ。内面：口縫～底部上半ヨコナ。			
126	P-142 埋土	甕 頭部器	① - ② - ③ -	④黑轮廓真黄⑤灰白色⑥灰褐色	外縁：格子目タクナ。内面：同心円アラカ。	露光焼成。		
127	P-150 埋土	甕 土脚器	①(13.2)② (5.2)③ [5.6]	④口縁・白轮廓真黄⑤灰褐色⑥明治黃 ④褐色⑤1/3	外縁：口縫跡ヨコナ。脚部ユビナ。脚部下端～底部ヘラケナ。内面：ヨコナ。			
128	O-1 埋土	甕 頭部器	①(44.8)② 13.1 ③ -	④口縁⑤灰⑥明治褐色	外縁：3条の状況。脚部で仰脚な接合部側。外縁：ヨコナ。横位ナ。内面：ヨクロナ。楕位ナ。	露光焼成。自然釉。		
129	O-1 埋土	長脚瓶 頭部器	① - ② (10.4)③ -	④口縁・白轮廓真黄⑤灰褐色⑥灰褐色	脚部に接合部。外縁ヨコナ。内面脚部に指圧圧痕。	露光焼成。自然釉。		
130	O-1 埋土	甕 頭部器	① - ② - ③ -	④白釉・白轮廓真黄⑤灰褐色⑥灰褐色	外縁：回転ヘラケナ。高台粘付内面：ヨコナ。	露光焼成。自然釉。		
131	O-1 埋土	甕か 土脚器	① - ② (3.7)③(13.2)	④白釉・白轮廓真黄⑤灰白色⑥灰褐色 ④褐色	脚部1条の沈線。外縁ヨコナ。	露光焼成。自然釉。		
132	O-1 埋土	甕 頭部器	①(12.2)② 3.7 ③ [7.4]	④角窓・白釉・片窓真黄⑤灰～灰褐色⑥2/3	外縁：口縫～脚部ヨコナ。底部ホリ切後。底部外周～脚部下端手持ちヘラケナ。内面：ヨクロナ。	露光焼成。		
133	O-1 埋土	甕 頭部器	①(11.7)② 3.6 ③ [8.5]	④白釉・白轮廓真黄⑤灰褐色⑥1/4	外縁：口縫～脚部ヨコナ。脚部下端～底部回転ヘラケナ。内面：ヨクロナ。	露光焼成。		

Tab.12 出土瓦観察表

番号	層位	器種	最大長	最大幅	①胎土或成形色調②遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考	
26	H-3 電	平瓦	(24.8)	(19.1)	2.1 ①砂粒・白粉②良③擦・明 赤褐色④破片	凹面：布目擦り消し。凸面：格子目叩き。ナデ。端部：面取り1回。	焼化焰焼成。難型構築材。復付器。	
27	H-3 電	平瓦	(26.3)	(13.3)	1.5 ①砂粒・白粉②良③灰褐色④破片	凹面：布目。ナデ。凸面：繩叩き後、ナデ。側部：面取り2回。	還元焰焼成。難型構築材。	
28	H-3 電	丸瓦	(14.8)	(11.4)	1.5 ①鉄筋・砂粒②良③灰色④破片	凹面：糸切り板。布目。凸面：繩叩き後ナデ。側部：面取り1回。端部：面取り2回。	焼化焰焼成。難型構築材。復付器。	
29	H-3 電	平瓦	(11.2)	(10.7)	2.6 ①小砂粒・白色②褐色③灰褐色④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。側部：面取り2回。端部：面取り1回。	還元焰焼成。凸面に黒錆び文字。倒。	
30	H-3 電	平瓦	(18.7)	(19.5)	1.6 ①白粉②良③にい・黄褐色④破片	凹面：布目。藏付ナデ。凸面：繩叩き後。ナデ・ヘラケズリ。	焼化焰焼成。破碎後に2次焼成か。	
33	H-4 電	軒平瓦	(12.2)	(10.7)	5.0 ④破片	①小砂粒・砂粒・白粉②良③白色④破片 瓦当面：鯉型草花。凹面：糸切り板。布目。凸面：ナデ。側部：面取り2回。側部：面取り4回。	還元焰焼成。難型。	
34	H-4 電	軒平瓦	(6.7)	(13.5)	5.1 ④破片	①砂粒・白粉②良③灰褐色④破片	瓦当面：鯉型草花。凹面：糸切り板。布目。凸面：ナデ。側部：面取り4回。	
52	H-5 電	平瓦	(26.8)	(20.4)	2.2 ④破片	①砂粒・小砂・白粉②良③褐色④破片	凹面：布目。淡いナデ。凸面：ナデ。側部：面取り2回。端部：面取り1回。	還元焰焼成。
59	H-6 電	丸瓦	(22.2)	(9.1)	2.6 ④破片	①小砂・砂粒・白粉②良③褐色④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。側部：面取り2回。端部：面取り1回。	焼化焰焼成。支承瓦。復付器。
64	H-7 電	丸瓦	(11.8)	(14.1)	2.0 ④破片	①砂粒・白粉②良③赤褐色④破片	凹面：糸切り板。布目。ナデ。凸面：ナデ。側部：面取り1回。端部：面取り1回。	焼化焰焼成。難型構築材。復付器。
84	H-10 埋土	平瓦	(5.2)	(7.4)	1.9 ④破片	①砂粒・白粉②良③灰褐色④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。側部：面取り2回。	還元焰焼成。凸面に黒錆び文字。
100	H-12 電	平瓦	(25.3)	(16.5)	7.5 ④破片	①砂粒・白粉②良③灰褐色④破片	凹面：布目。凸面：藏付ナデ。側部：面取り1回。端部：面取り2回。	還元焰焼成。難付器。
101	H-12 P2	平瓦	(24.4)	(12.2)	2.3 ④破片	①小砂・白粉②良③相・明赤褐色④破片	凹面：糸切り板。布目。凸面：藏付ナデ。側部：面取り3回。端部：面取り2回。	焼化焰焼成。難付器。
102	H-12 的窓穴	平瓦	(18.4)	(16.0)	1.4 ④破片	①砂粒・砂粒②良③灰褐色④破片	凹面：布目。凸面：糸切り板。ナデ。側部：面取り1回。端部：面取り1回。	還元焰焼成。難付器。
103	H-12 的窓穴	平瓦	(16.2)	7.7	1.9 ④破片	①砂粒・白粉②良③灰褐色④破片	凹面：糸切り板。布目。凸面：糸切り板。ナデ。側部：面取り2回。端部：面取り1回。	還元焰焼成。
104	H-12 埋土	平瓦	(13.5)	(13.2)	1.8 ④破片	①白粉・小砂・砂粒②良③灰褐色④破片	凹面：布目。ナデ。側部：面取り3回。端部：面取り2回。	焼化焰焼成。凸面に黒錆び有り。
105	H-12 電	丸瓦	(18.7) (7.9)	(4.0)	1.5 ④破片	①鉄筋・白粉②良③明赤褐色 赤褐色④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。側部：面取り。	焼化焰焼成。難型構築材。復付器。
113	H-16 電	平瓦	(10.4)	(11.1)	2.5 ④破片	①砂粒・砂粒②良③灰褐色④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。側部：面取り1回。	還元焰焼成。
114	H-16 電	丸瓦	(17.4)	(10.3)	1.9 ④破片	①白粉・白粉②良③灰褐色④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。側部：面取り2回。端部：面取り1回。	還元焰焼成。
117	D-5 埋土	丸瓦	(29.1)	(9.3)	1.1 ④破片	①砂粒・白粉②良③灰褐色④破片	玉縁式。凹面：布目。凸面：繩叩き。横位ナデ。側部：面取り9.1回。	還元焰焼成。

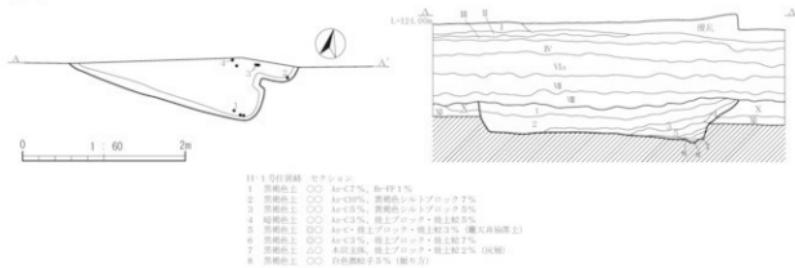
Tab.13 出土石器・石製品観察表

番号	層位	器種	最大長	最大幅	重量(g)	石材	遺存度	備考
4	H-1 埋土	こも石	(11.5)		7.7	4.2	553	安山岩 欠損(不明) 全体的に被熱。
31	H-3 埋土	こも石	14.5		6.6	4.0	660	安山岩 完形
53	H-5 P2	磨石	14.1		8.5	3.2	623	安山岩 完形 無数の縦条痕。
94	H-11 床直	こも石	12.8		5.8	3.1	364	安山岩 完形
95	H-11 床直	こも石	13.6		6.1	4.3	543	安山岩 完形

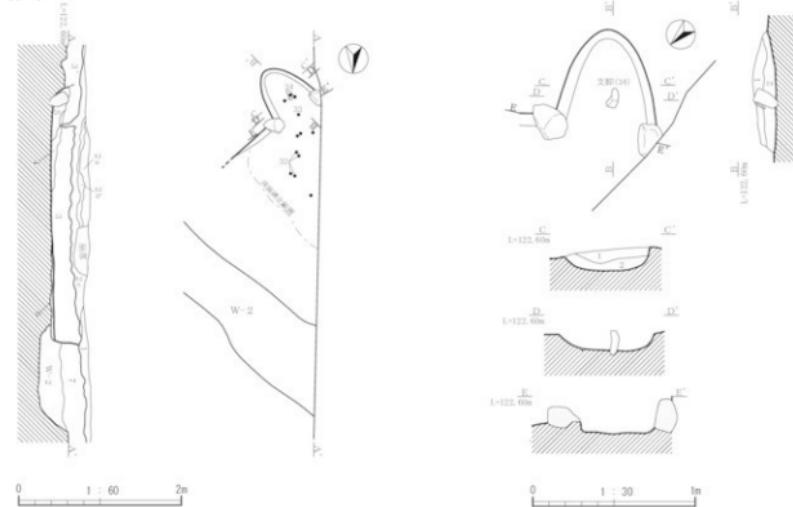
引用参考文献

- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団・山武考古学研究所「元絶社小見遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団・山武考古学研究所「元絶社小見Ⅲ遺跡 元絶社草作V遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元絶社小見IV遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元絶社小見内Ⅵ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2004年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元絶社小見内IX遺跡 総社開闢光明神北V遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元絶社蒼海遺跡群（4）」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元絶社蒼海遺跡群（5）」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年

H-1



H-4



H-8



Fig. 7 H-1・4・8号住居跡

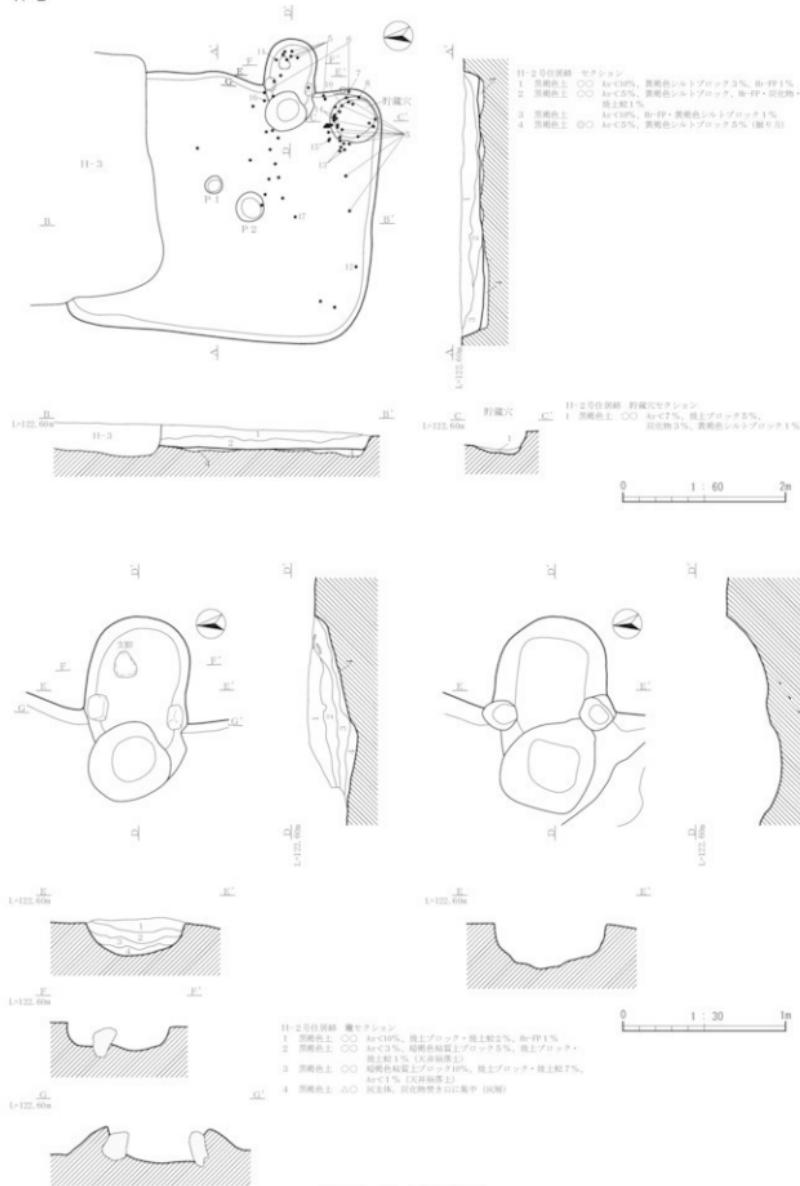


Fig. 8 H-2号住居跡

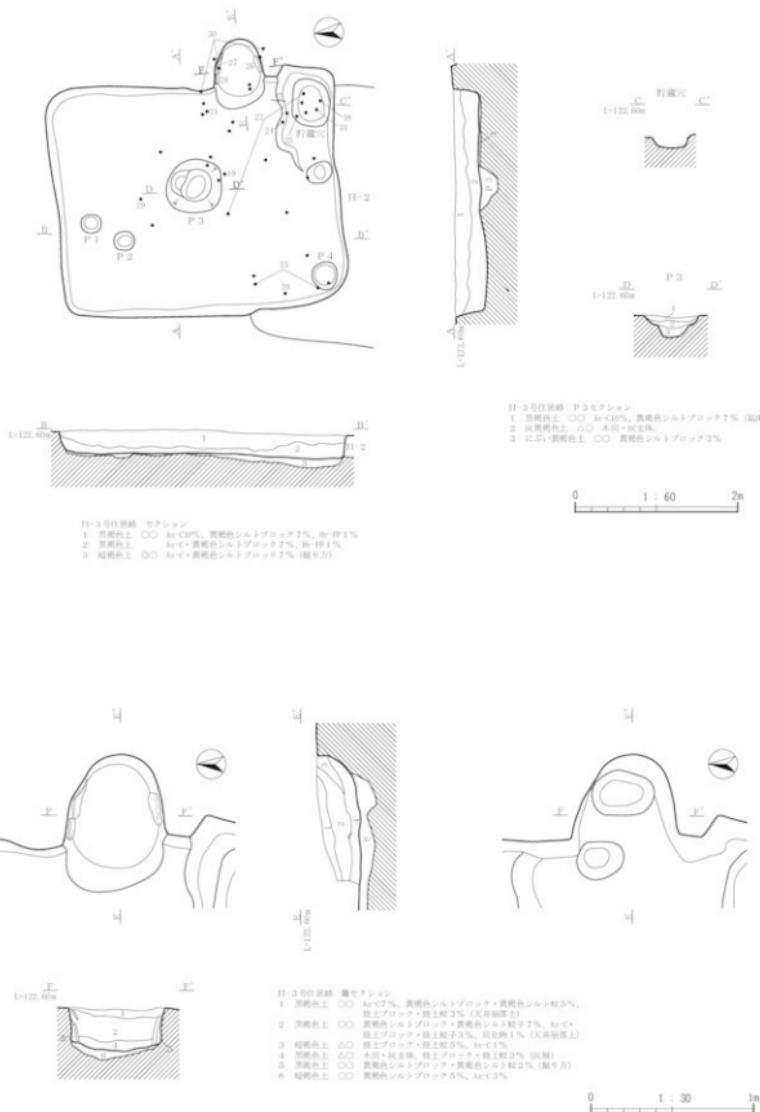


Fig. 9 H—3号住居跡

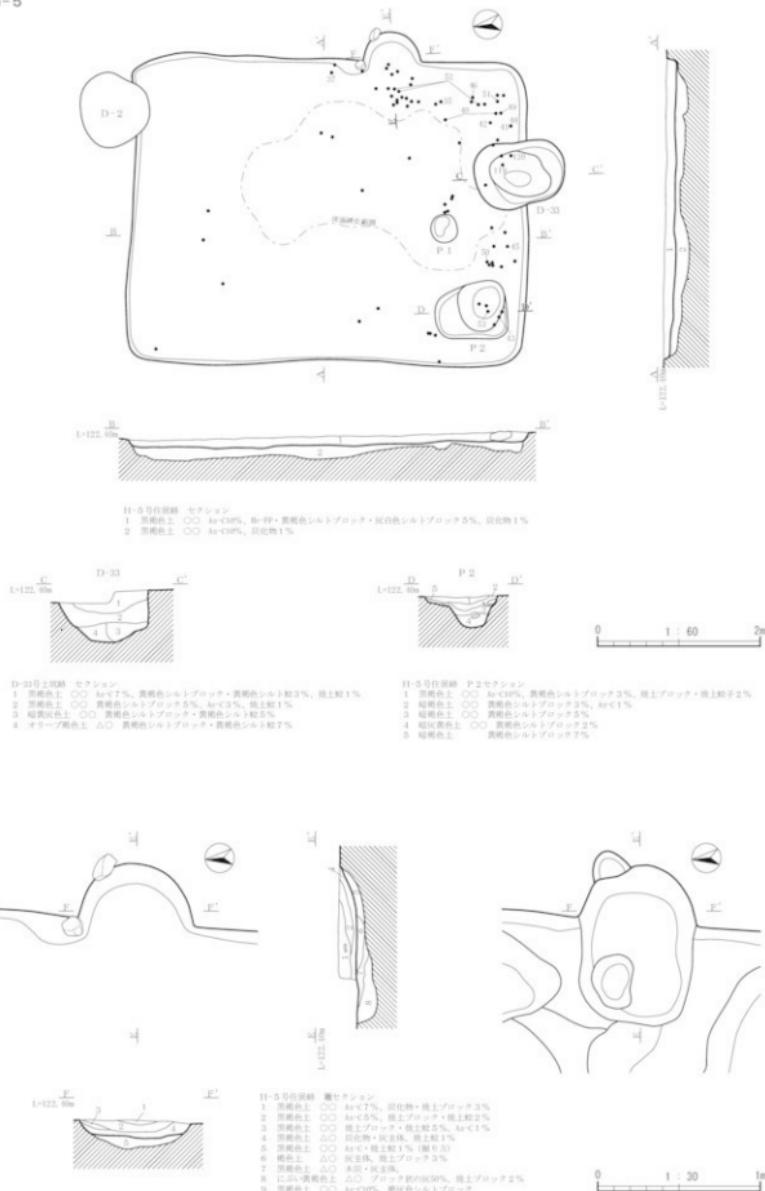


Fig.10 H-5号住居跡・D-33号土坑

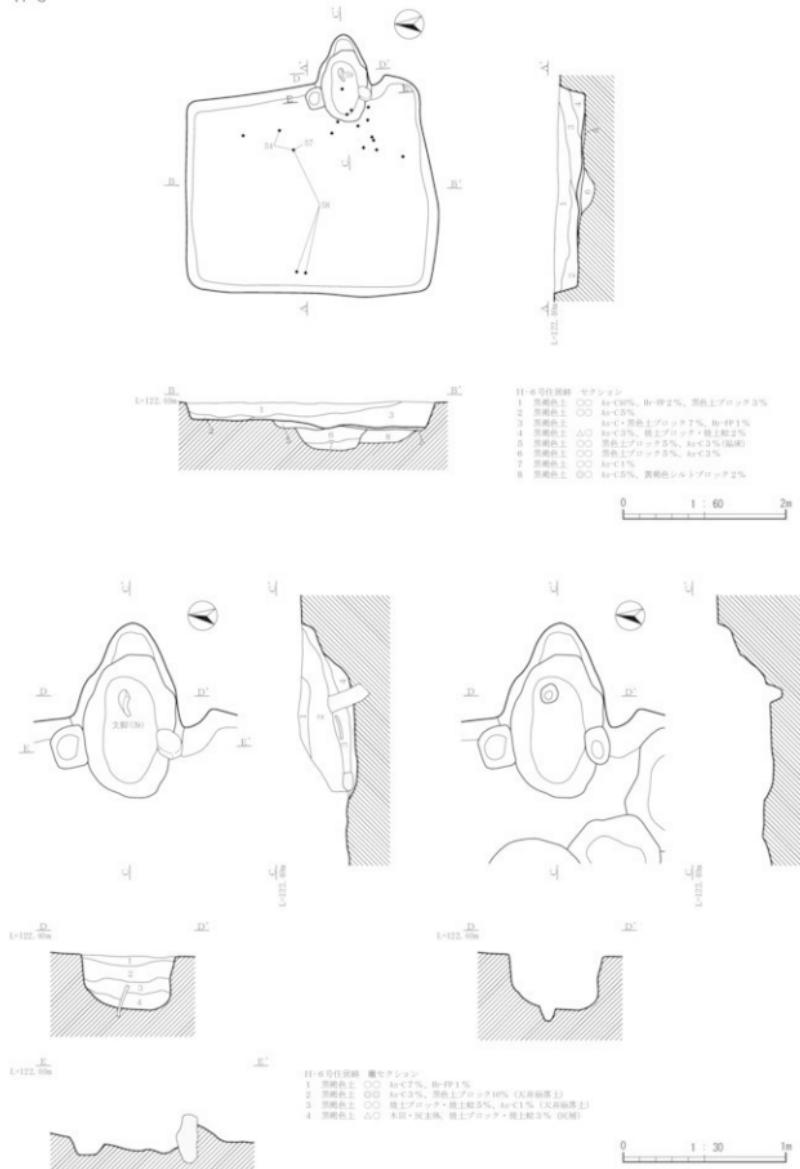


Fig.11 H-6号住居跡

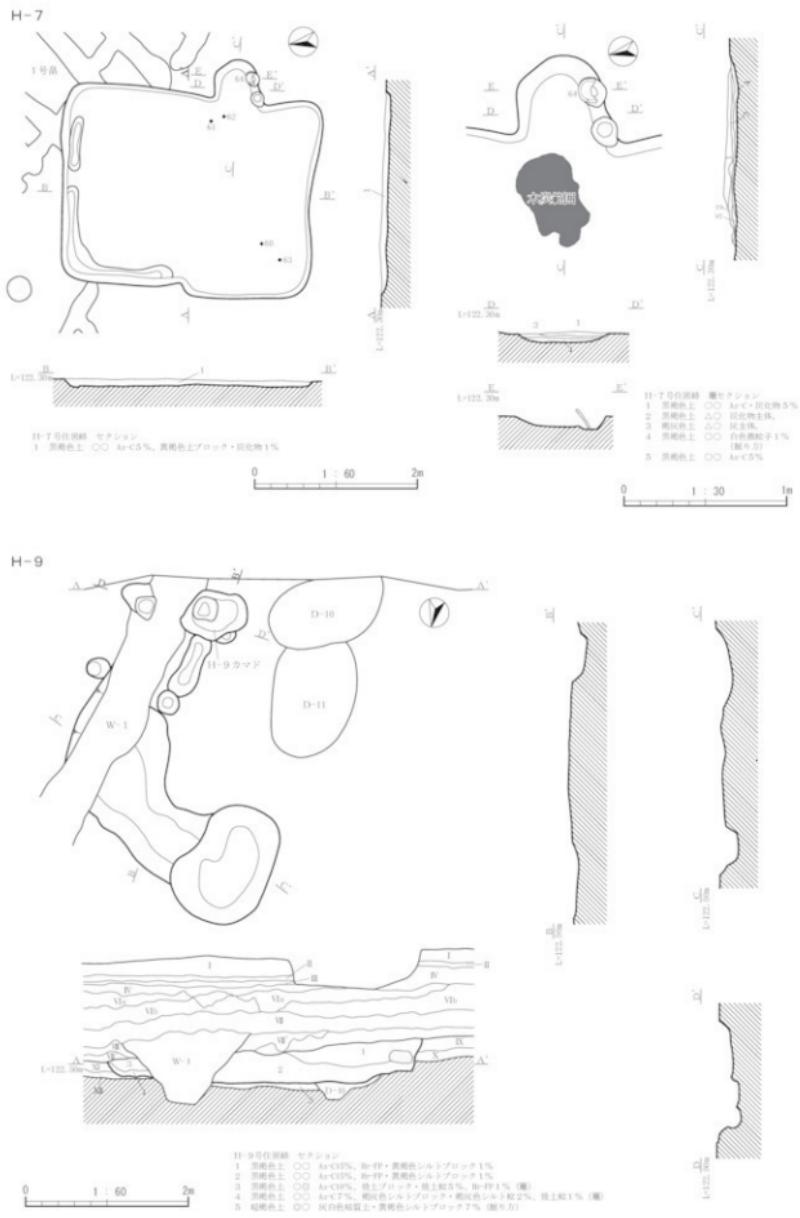


Fig.12 H-7・9号住居跡

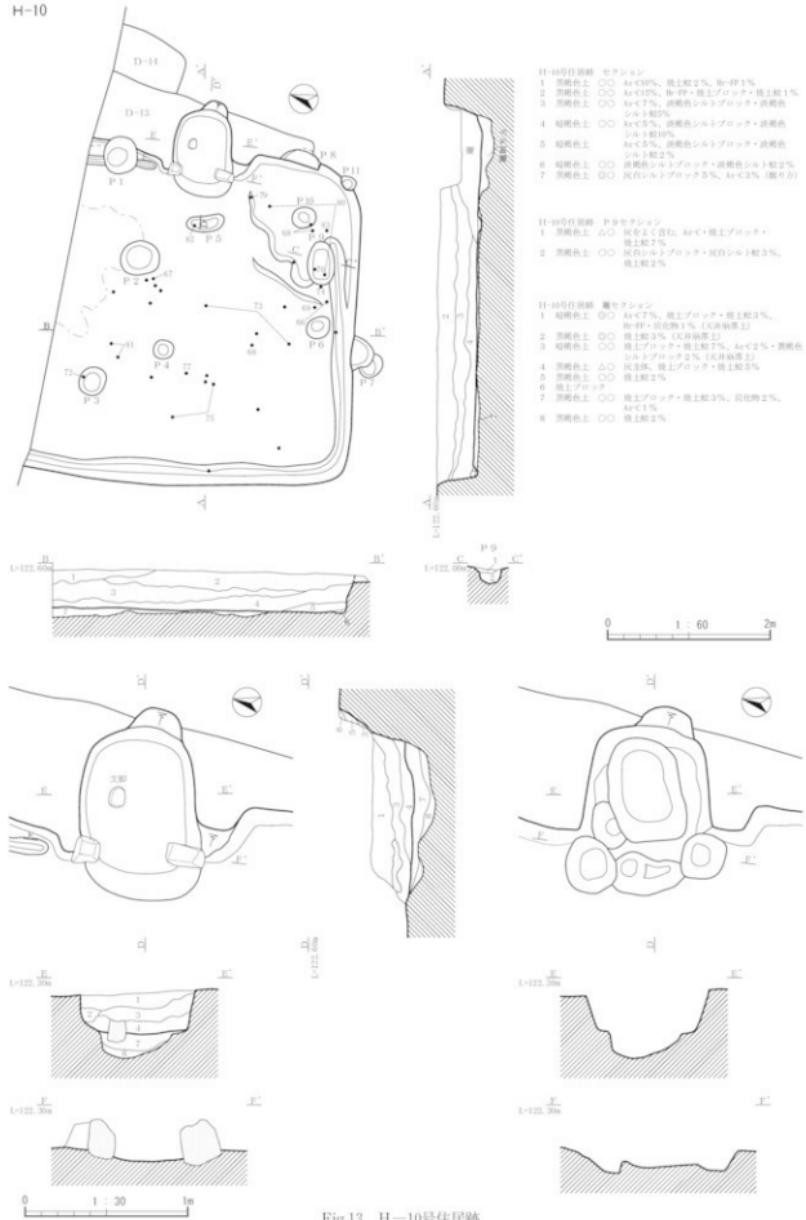


Fig.13 H-10号住居跡

H-11

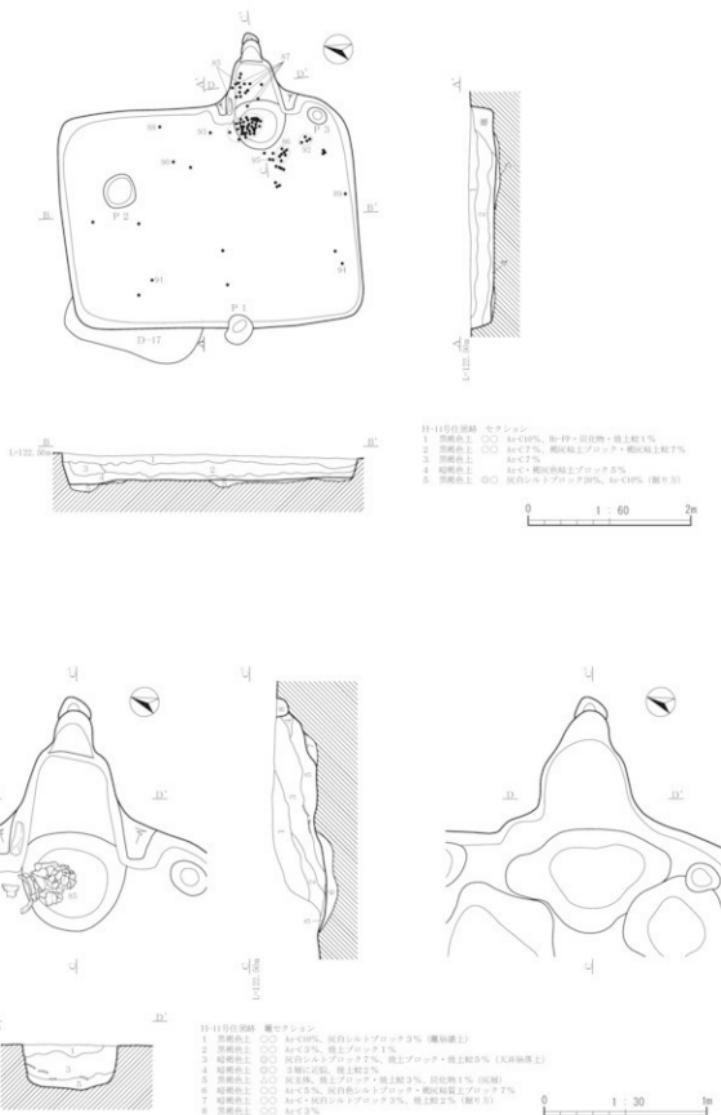


Fig.14 H-11号住居跡

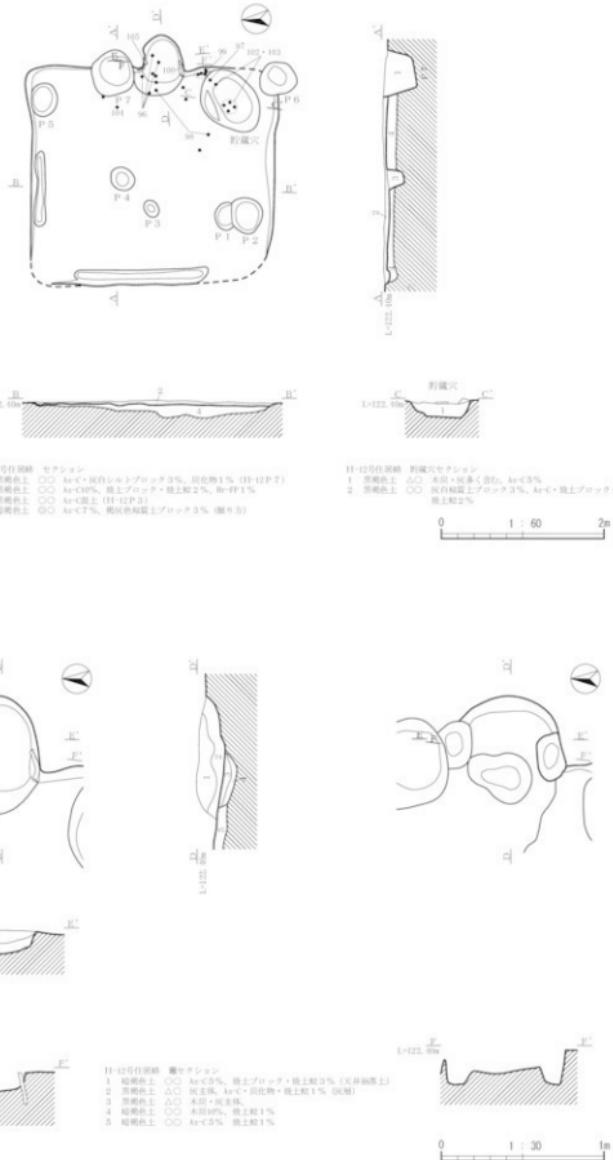


Fig.15 H-12号住居跡

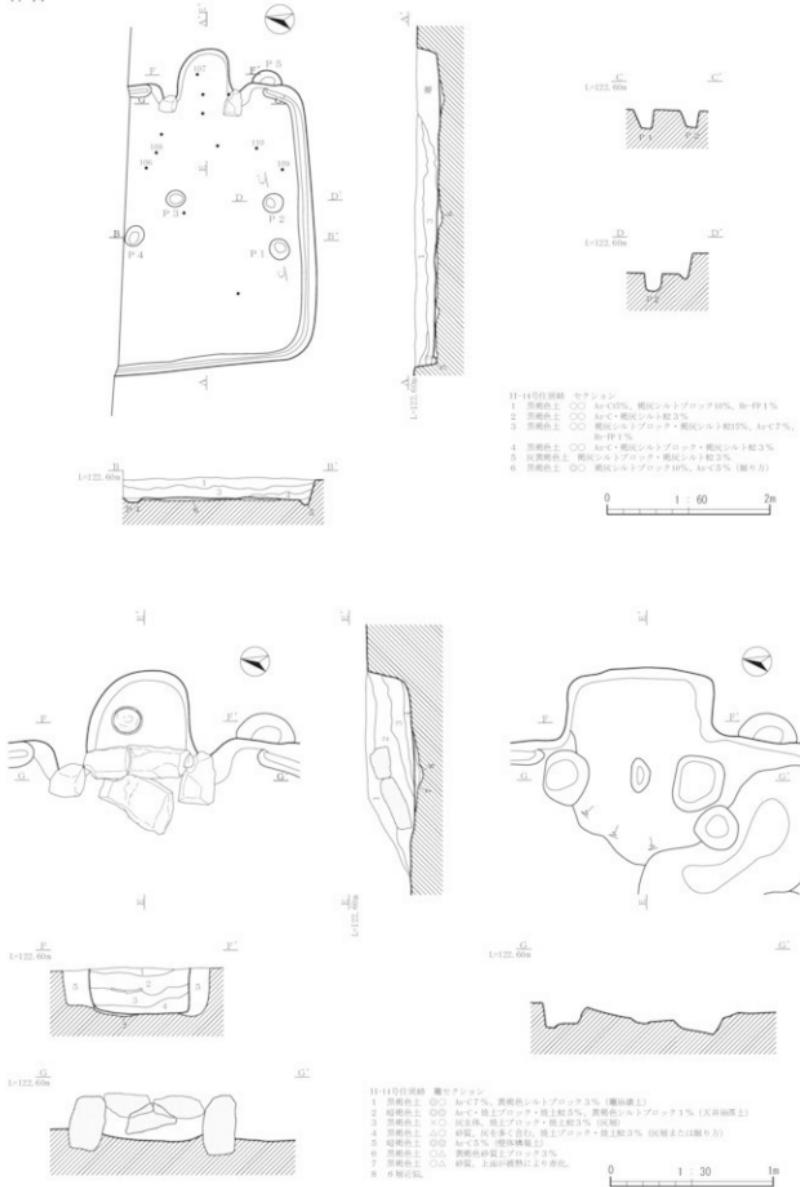
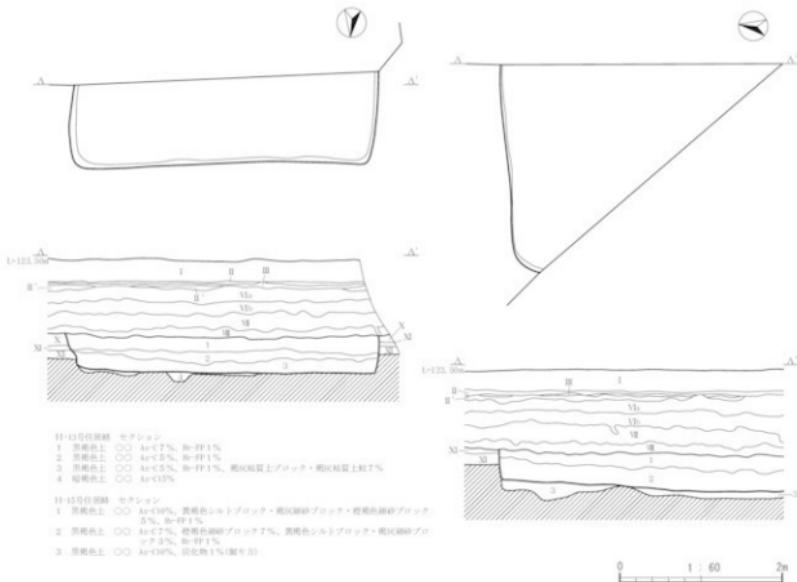


Fig.16 H-14号住居跡

H-13

H-15



H-16

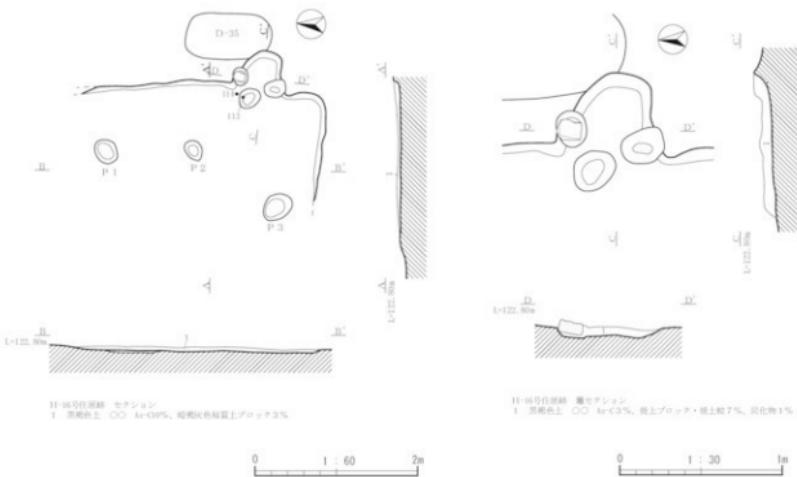
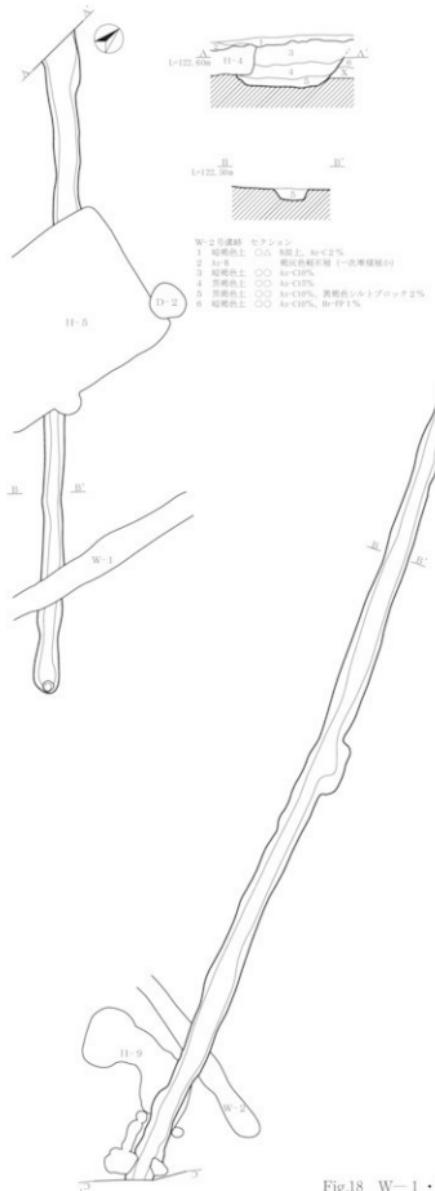


Fig.17 H-13・15・16号住居跡

W-2



W-1

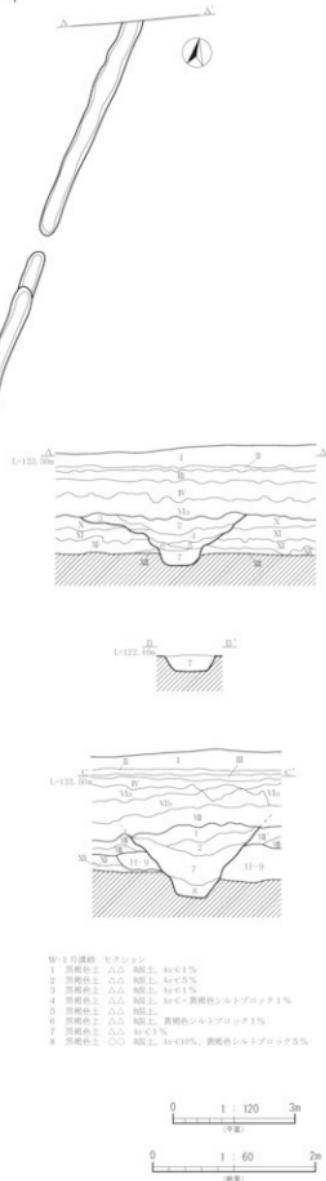
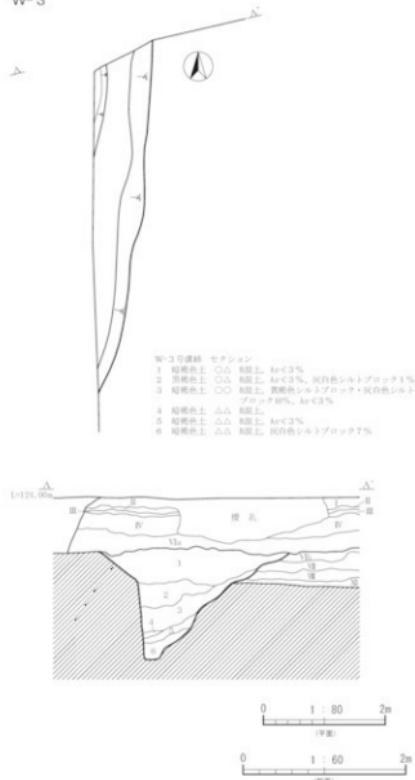
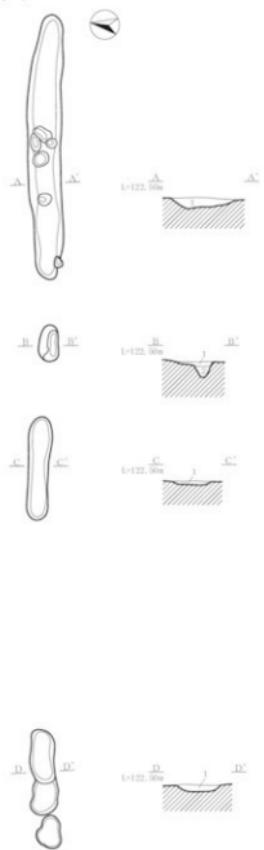


Fig.18 W-1・2号溝跡

W-3



W-4



W-5



Fig.19 W-3 ~ 5号断面

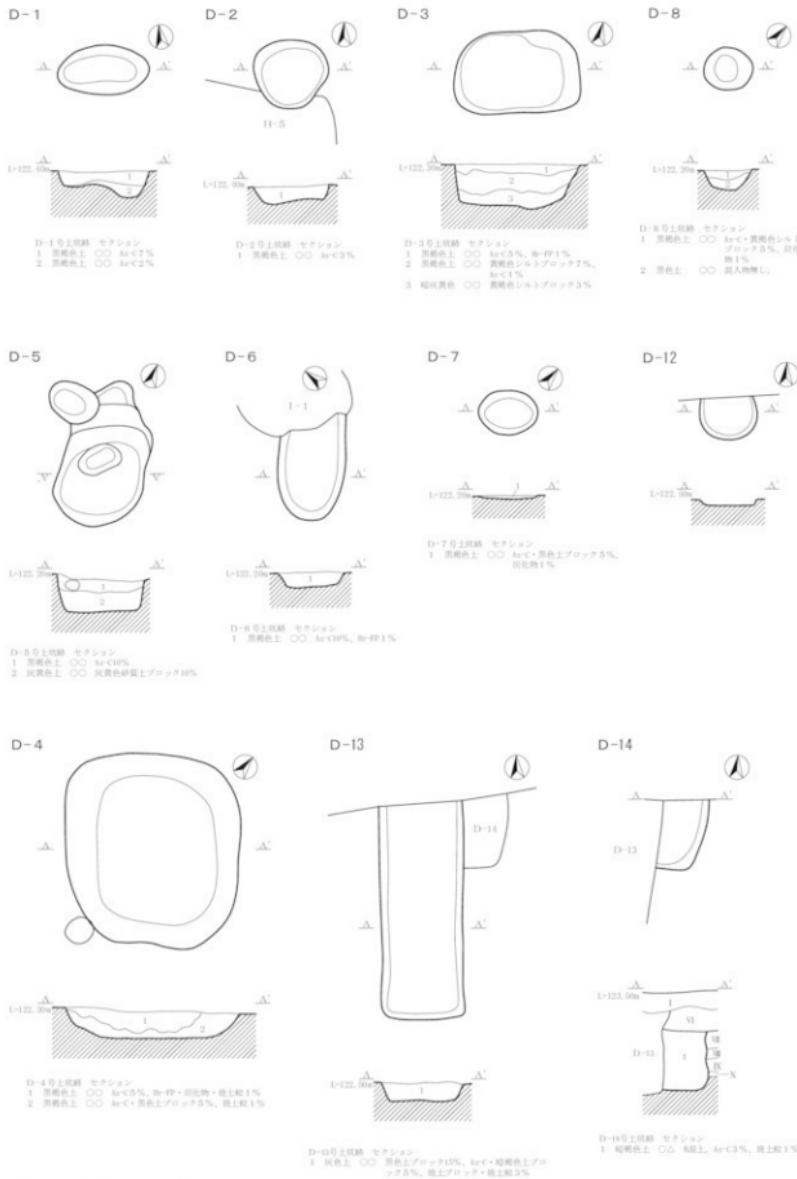


Fig.20 土坑(1)

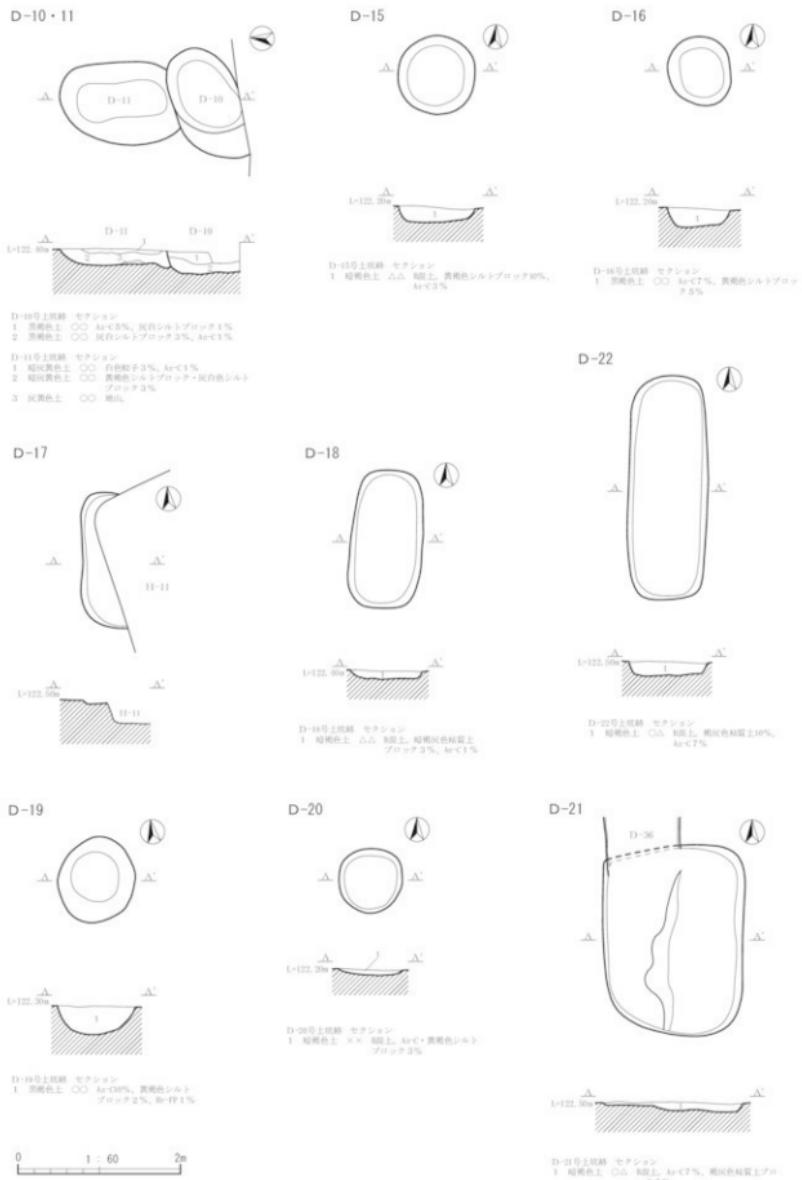


Fig.21 土坑 (2)

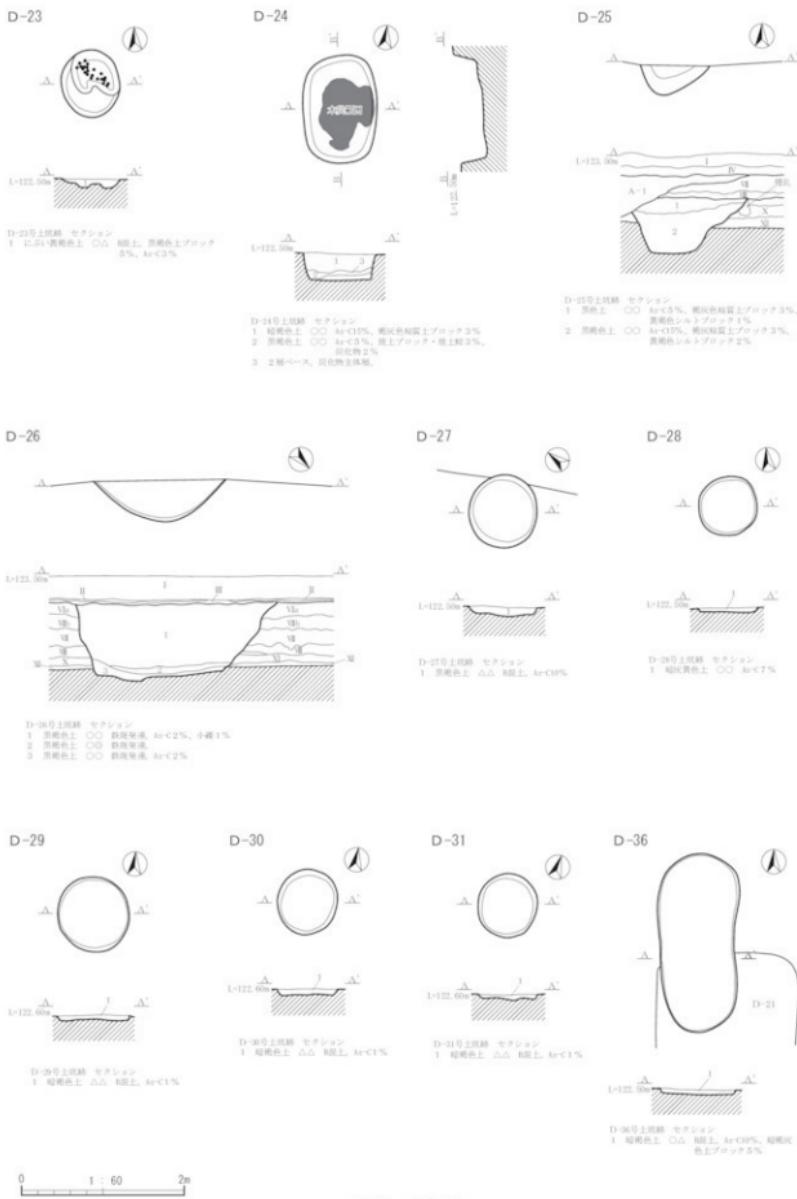
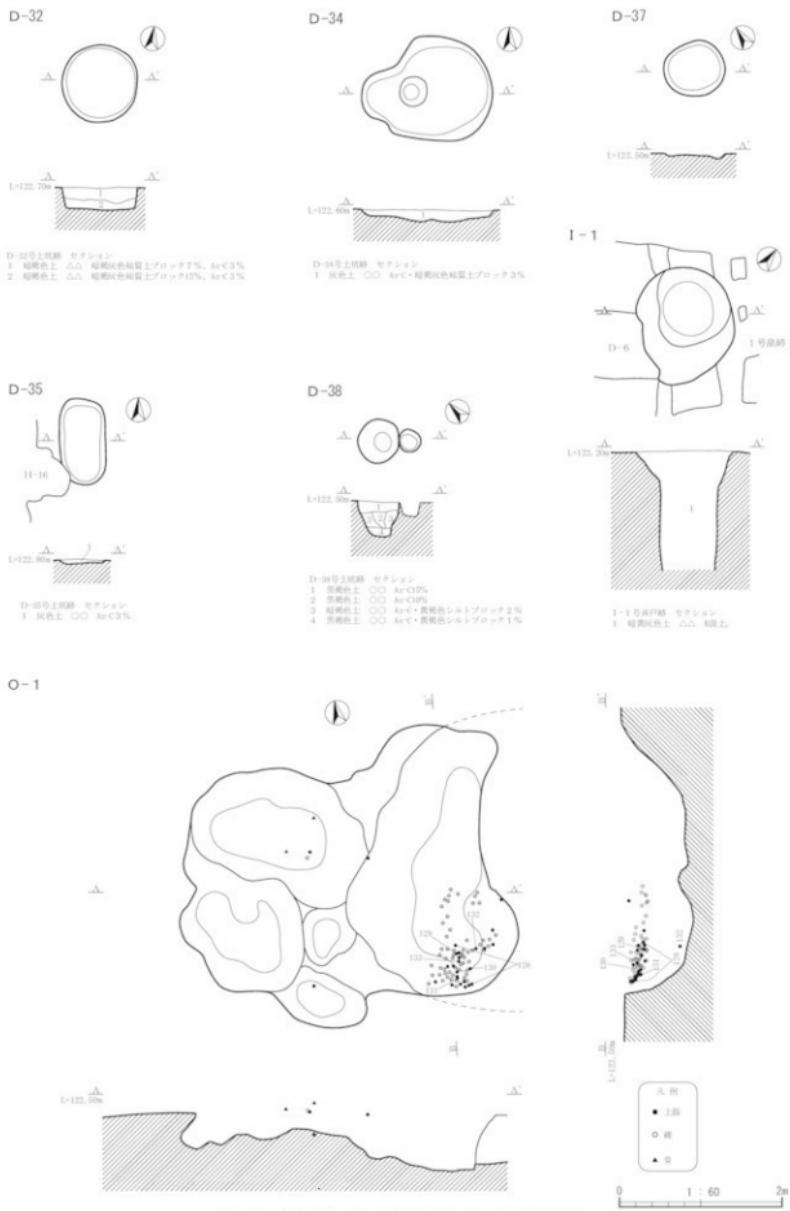


Fig.22 土坑 (3)



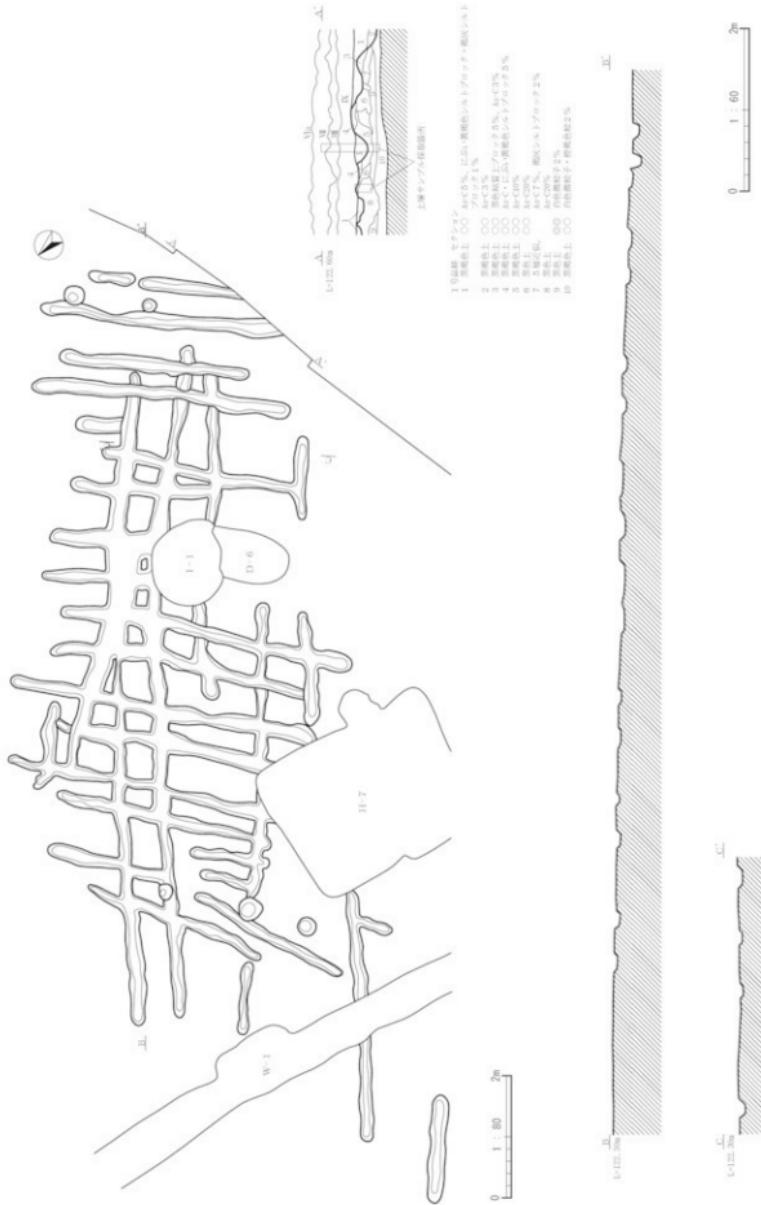
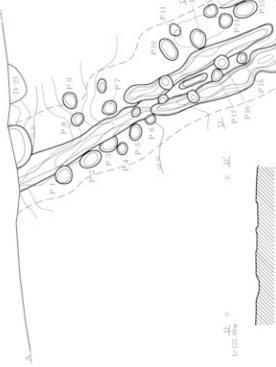


Fig.24 1号菌群

A—1



A—1号道路剖面
1 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
2 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
3 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
4 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
5 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
6 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
7 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
8 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
9 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
10 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
11 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
12 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
13 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
14 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
15 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
16 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
17 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
18 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
19 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
20 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
21 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
22 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
23 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
24 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%
25 地下水位, ○○ 地下水位, M=3.7%, 高程3.1%

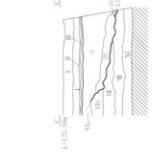
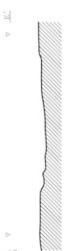
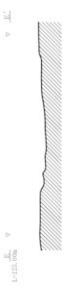


Fig.25 A—1号道路剖面

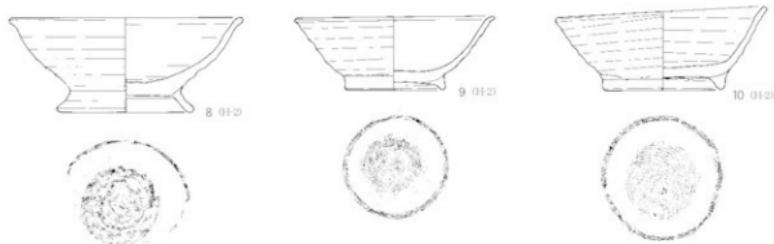
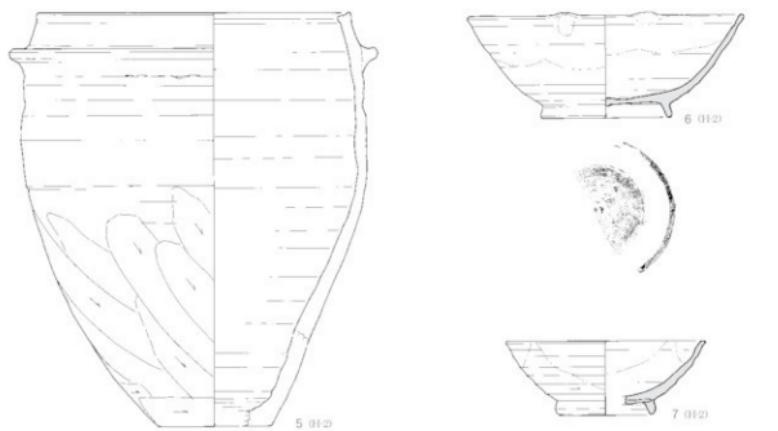
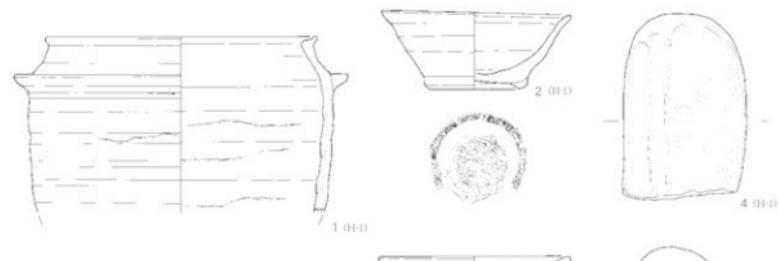
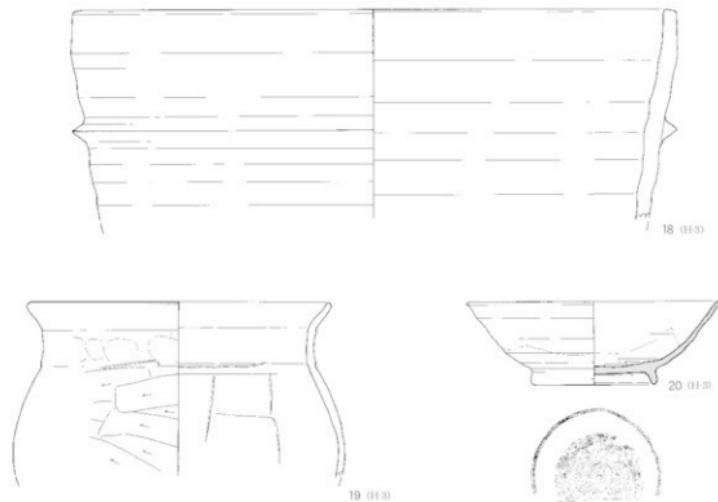
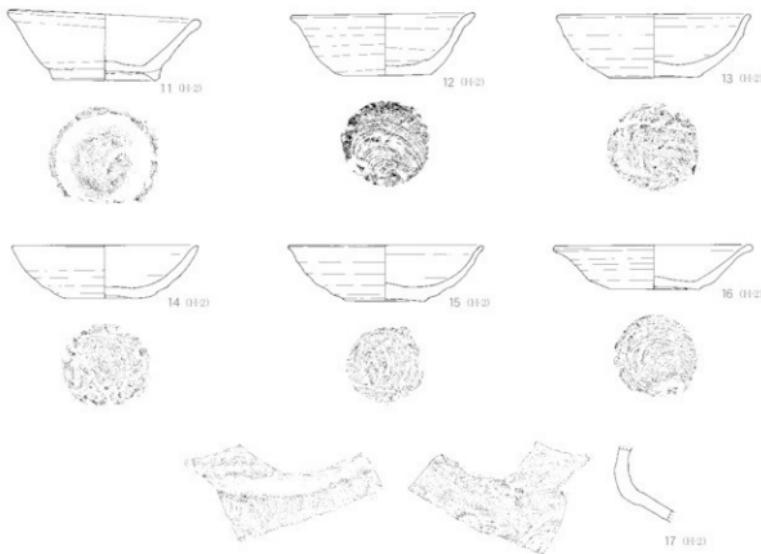


Fig.26 H—I • 2号住居跡出土遺物





0 1 / 3 10cm

Fig.27 H—2 • 3号住居跡出土遺物

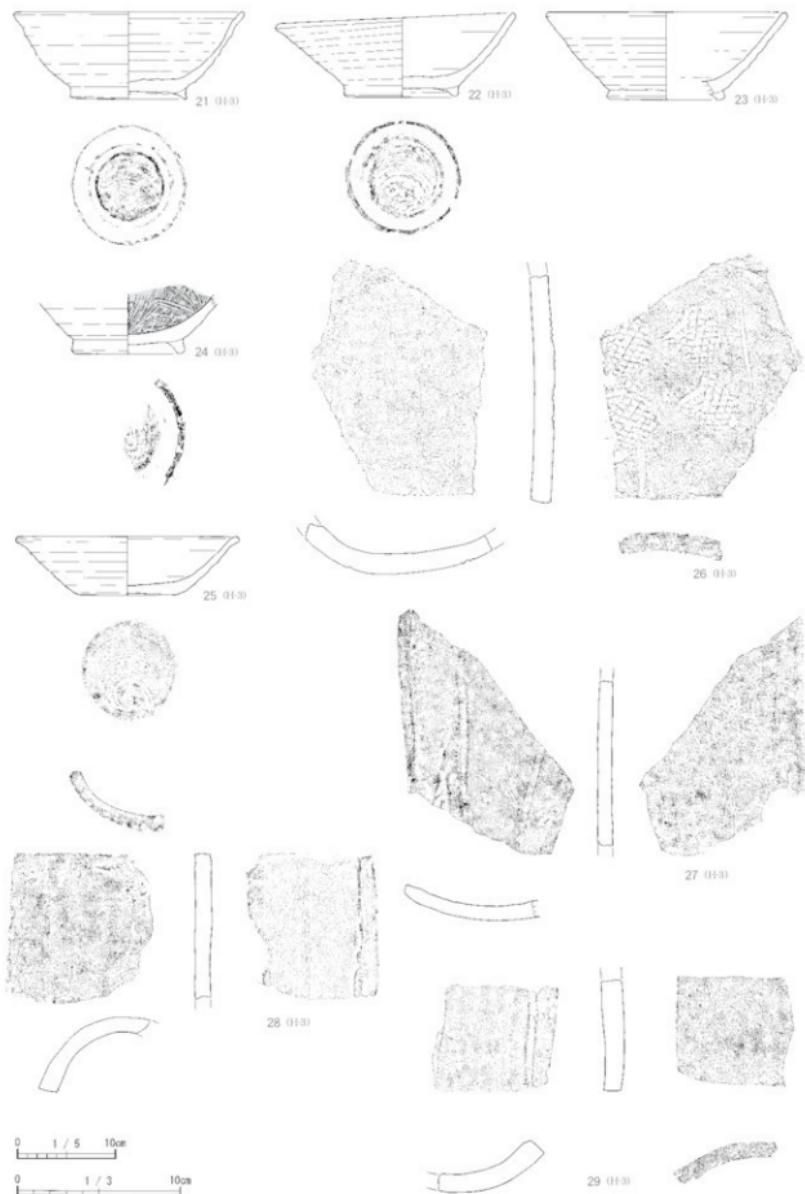


Fig.28 H—3号住居跡出土遺物

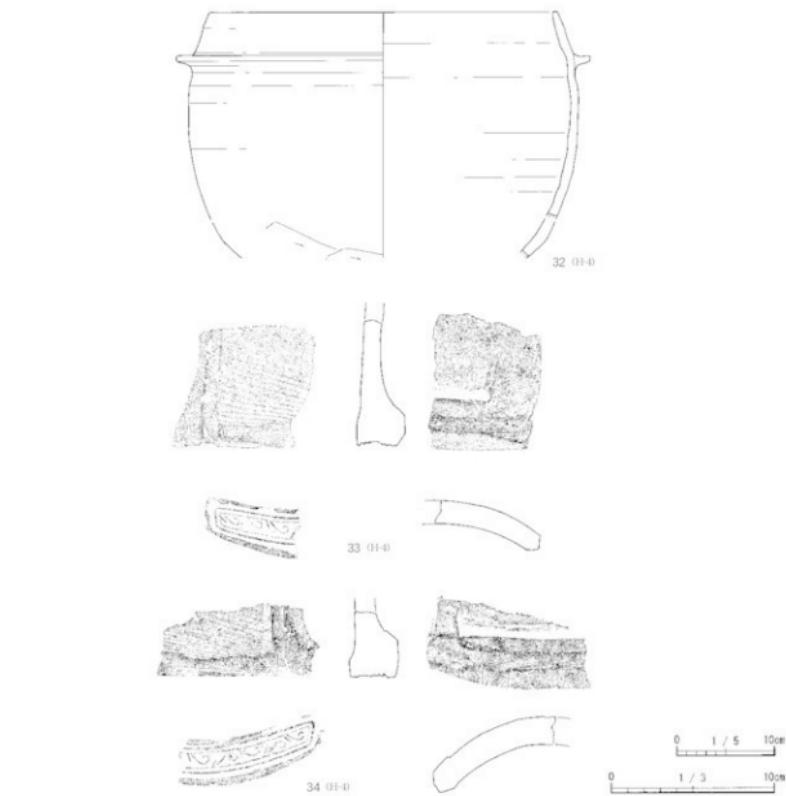
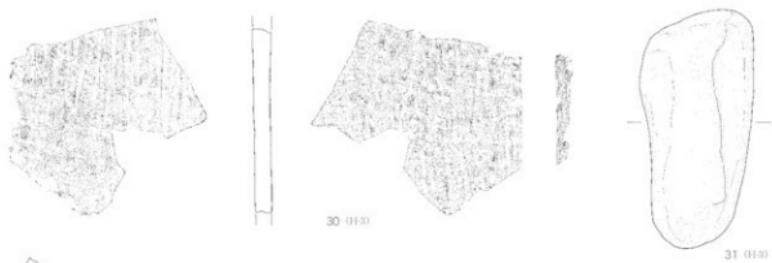


Fig.29 H—3 • 4号住居跡出土遺物

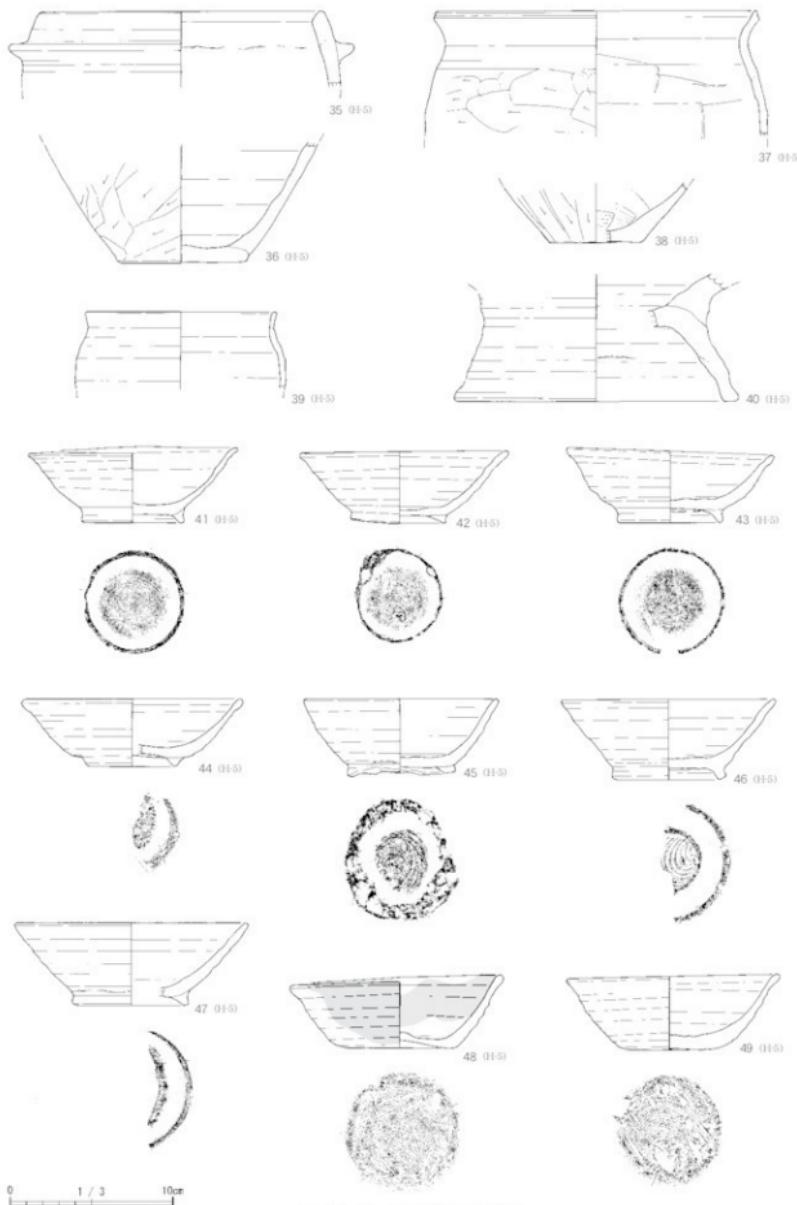


Fig.30 H—5号住居跡出土遺物

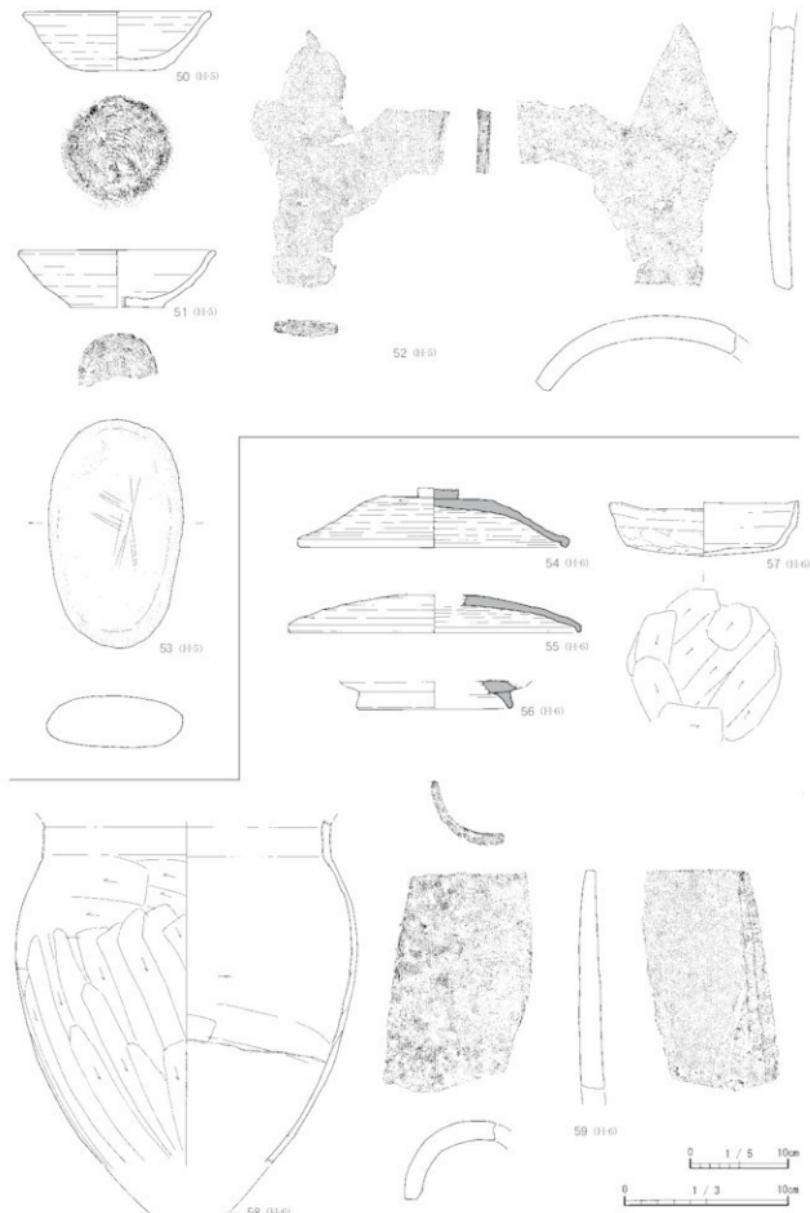
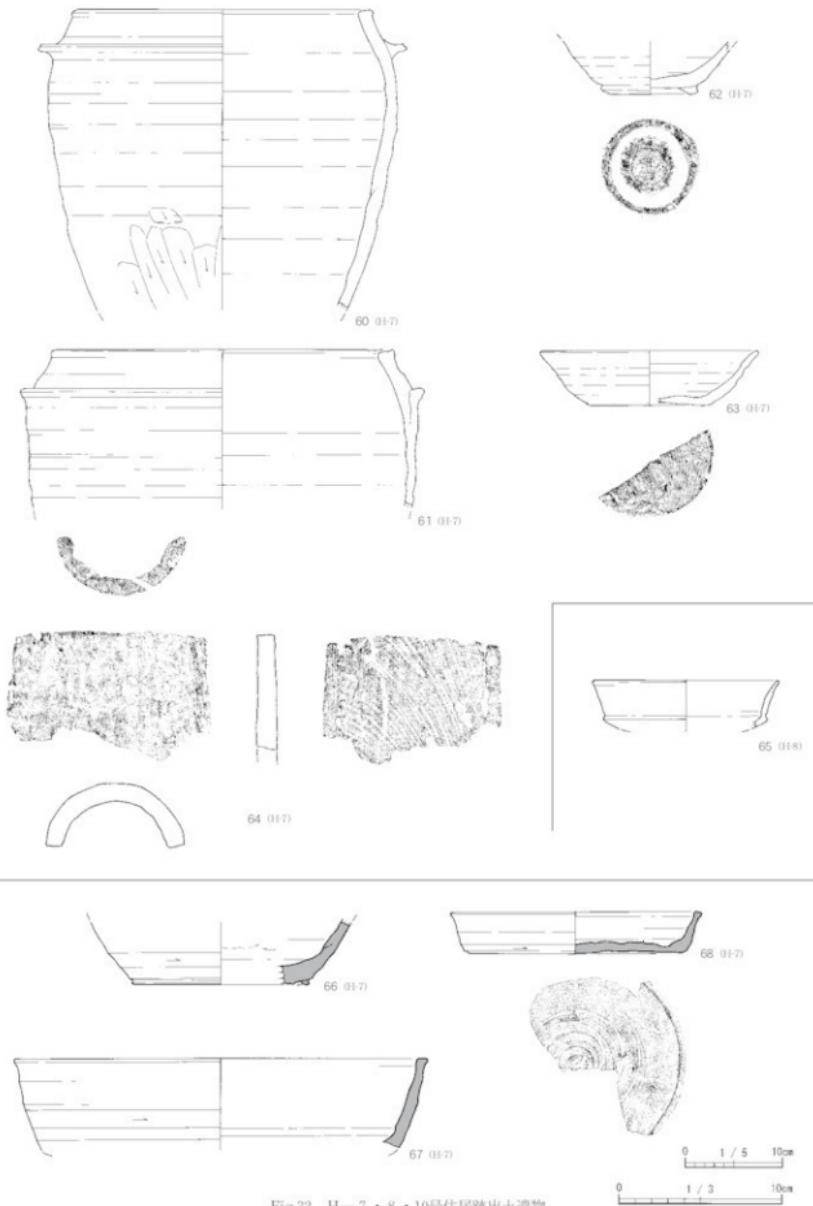


Fig.31 H-5 • 6号住居跡出土遺物



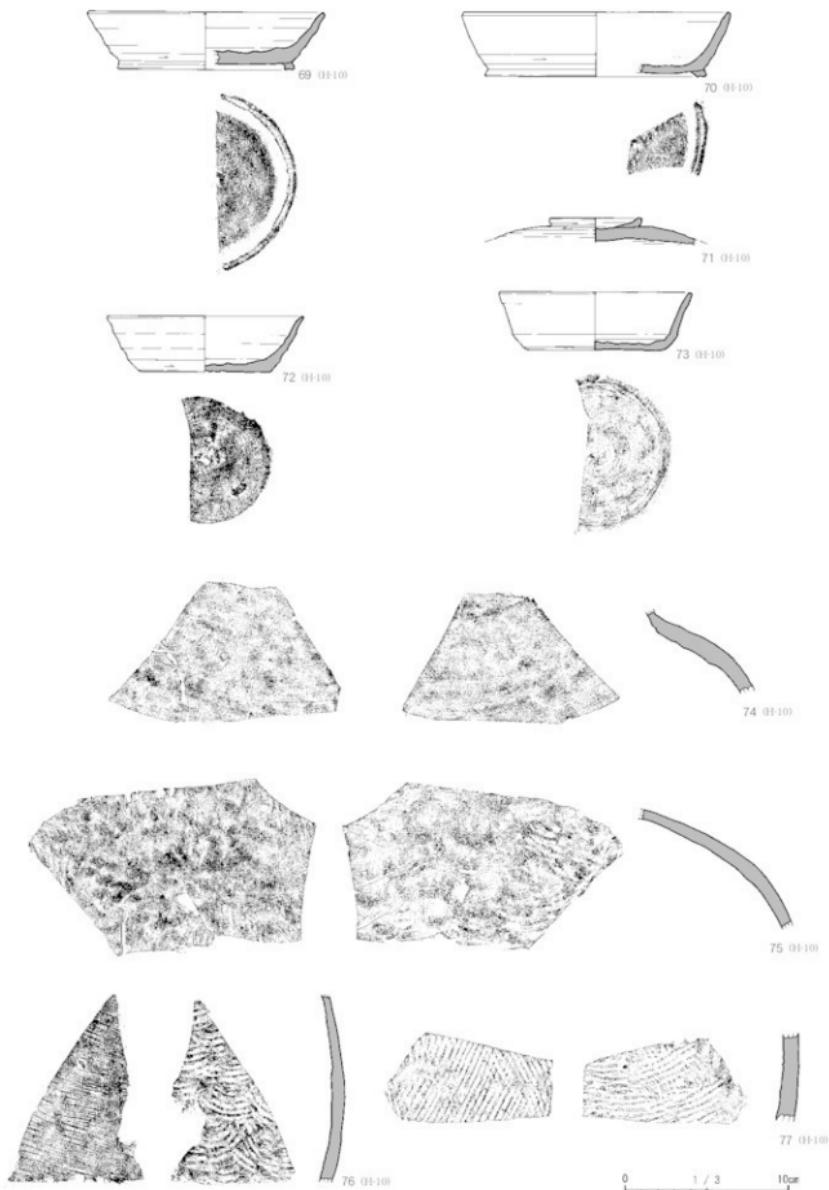


Fig.33 H-10号住居跡出土遺物

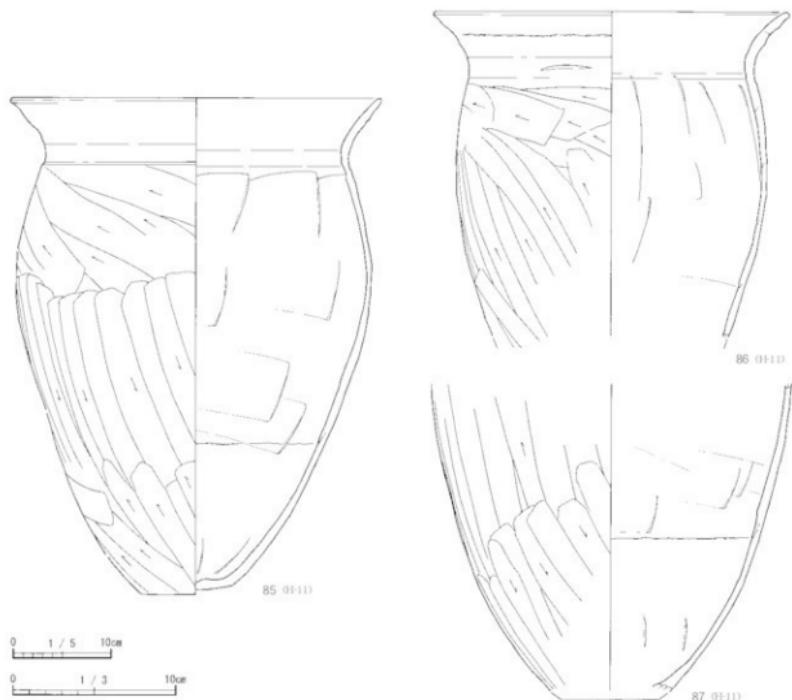
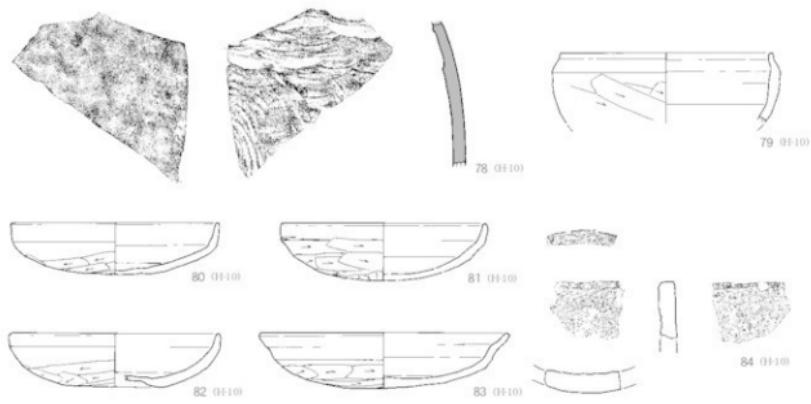


Fig.34 H-10 • 11号住居跡出土遺物

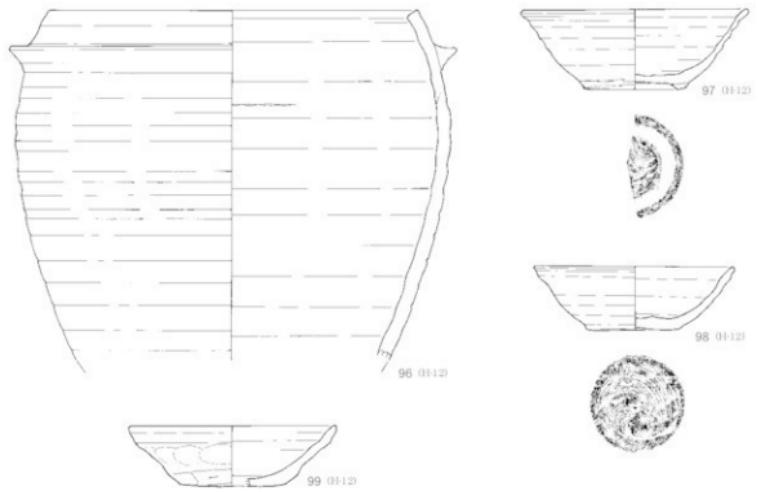
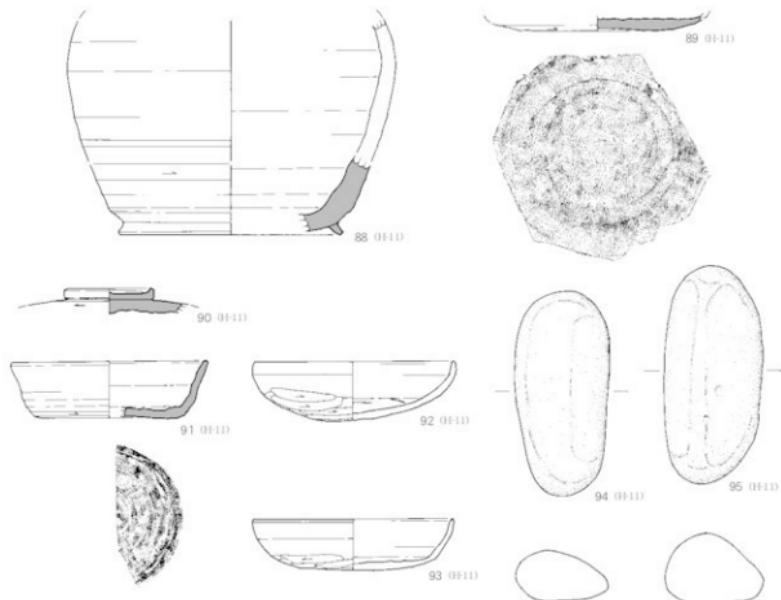


Fig.35 H-11 • 12号住居跡出土遺物

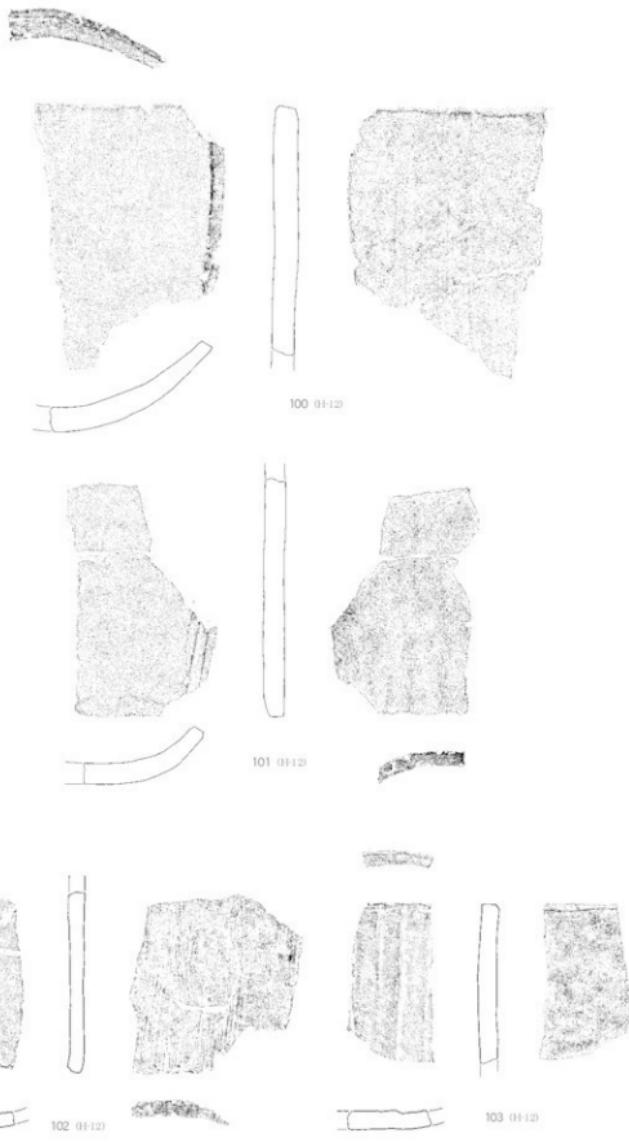


Fig.36 H—12号住居跡出土遺物

0 1 / 5 10cm

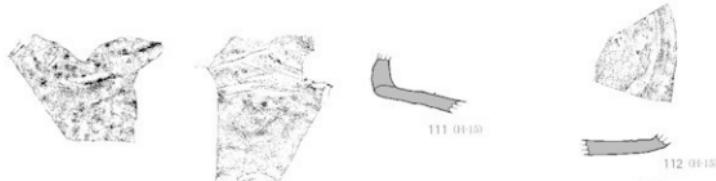
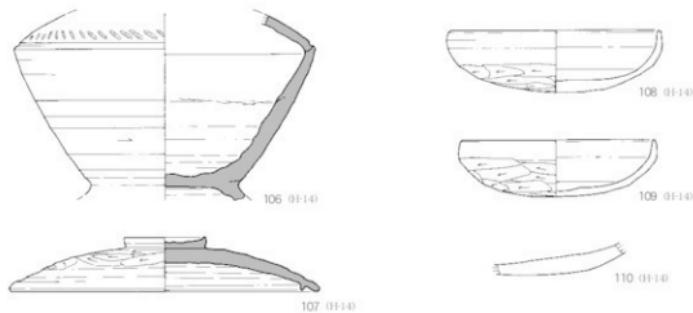


Fig.37 H-12 • 14 • 15 • 16号住居跡出土遺物

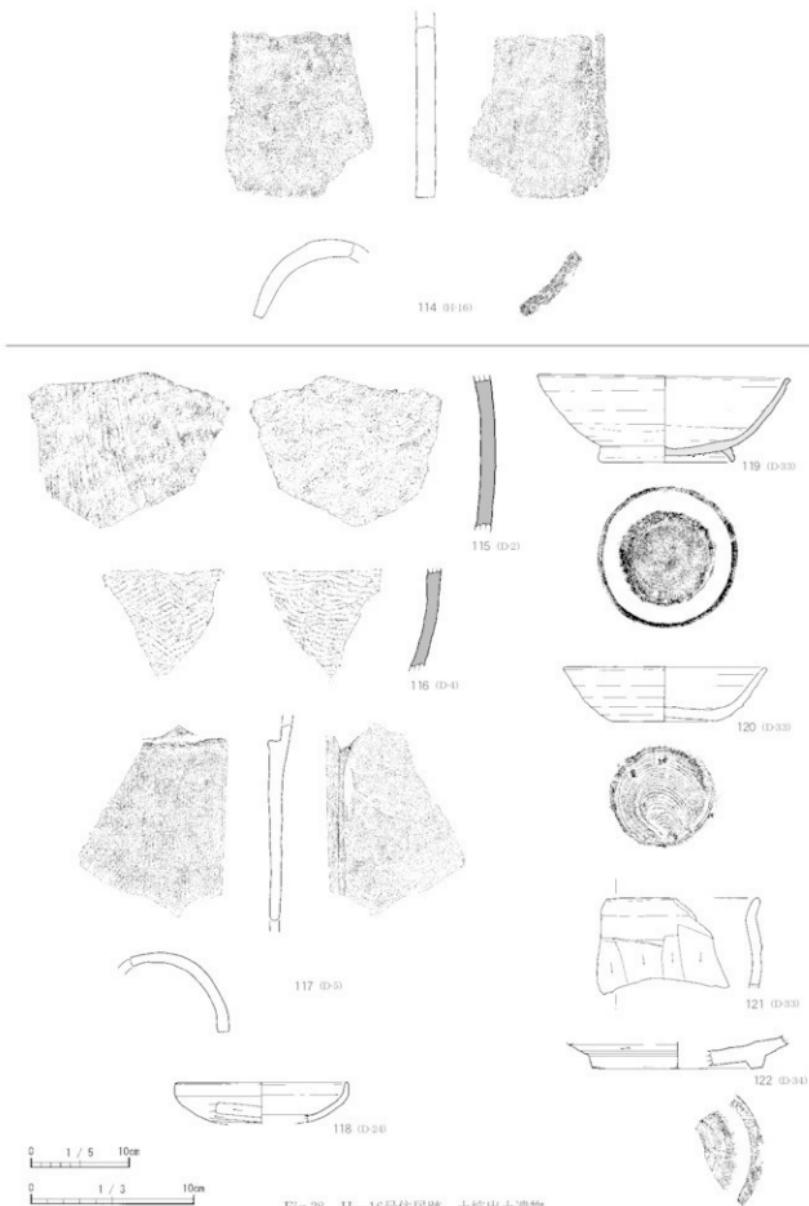


Fig.38 H-16号居住跡、土坑出土物

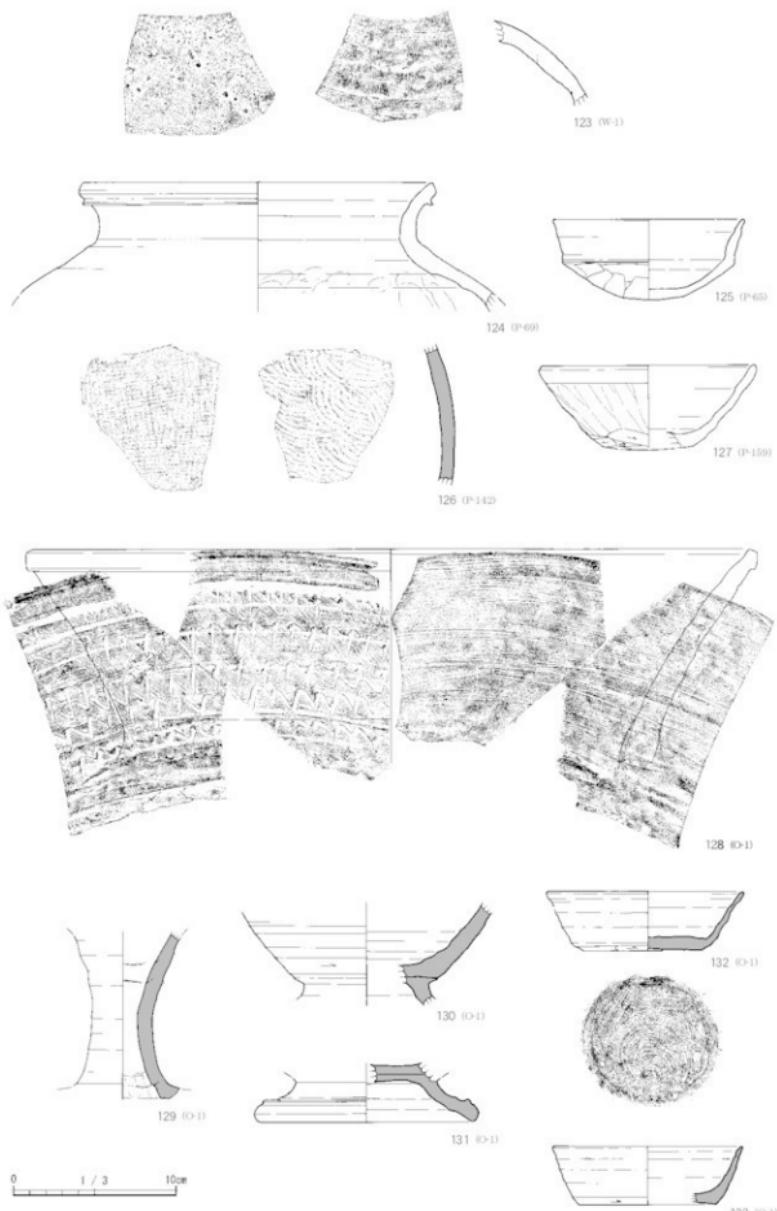


Fig.39 溝跡、ピット、O-1号風倒木痕出土遺物

図 版



元總社舊海遺跡群 (16) 調査区全景 (北東から)



H-1号住居跡全景 (西から)



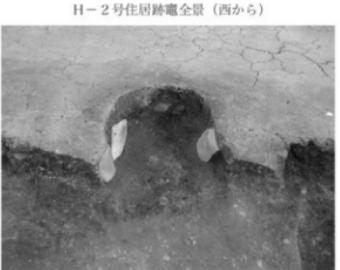
H-2号住居跡全景 (西から)



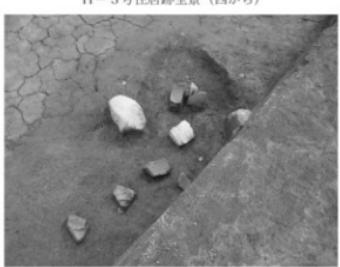
H-2号住居跡全景 (西から)



H-3号住居跡全景 (西から)



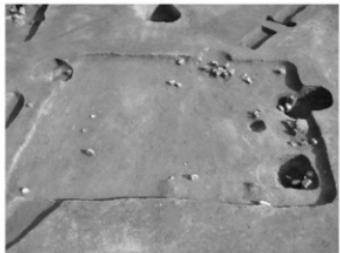
H-3号住居跡全景 (西から)



H-4号住居跡全景 (北西から)



H-8号住居跡全景 (西から)



H-5号住居跡全景（西から）



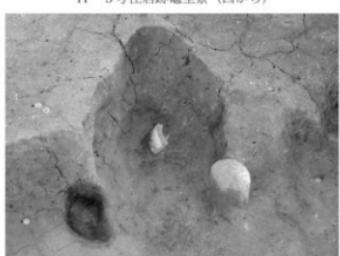
H-5号住居跡遺物出土状態（西から）



H-5号住居跡遺物出土状態（西から）



H-6号住居跡全景（西から）



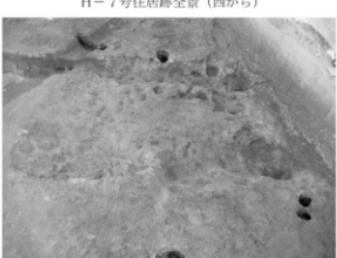
H-6号住居跡遺物出土状態（西から）



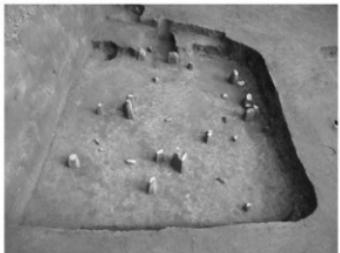
H-7号住居跡全景（西から）



H-7号住居跡遺物出土状態（西から）



H-9号住居跡全景（西から）



H-10号住居跡全景（西から）



H-10号住居跡遺全貌（西から）



H-11号住居跡全景（西から）



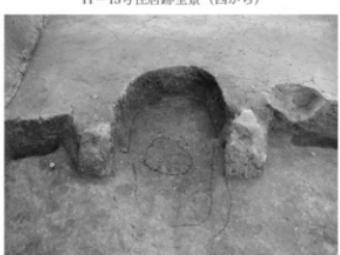
H-11号住居跡全貌（西から）



H-13号住居跡全景（西から）



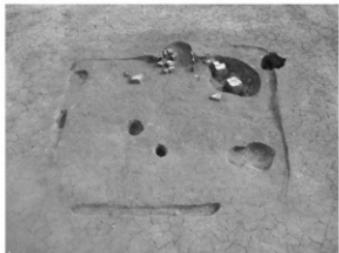
H-14号住居跡全景（西から）



H-10号住居跡遺全貌（西から）



H-14号住居跡遺物出土状況（南から）



H-12号住居跡全景（西から）



H-12号住居跡全景（西から）



H-15号住居跡全景（西から）



H-16号住居跡全景（西から）



H-16号住居跡全景（西から）



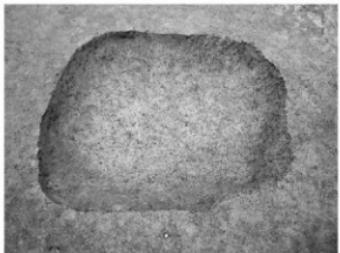
W-1号溝跡全景（北から）



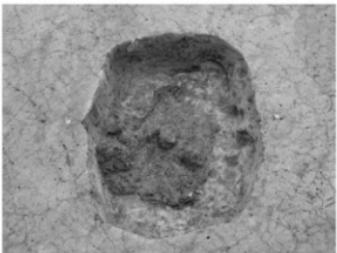
W-2号溝跡全景（北西から）



W-3号溝跡全景（南から）



D-4号土坑全景（南西から）



D-24号土坑全景（北から）



I-1号井戸跡全景（北から）



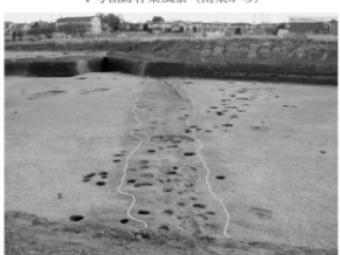
O-1号楓倒木痕全景（東から）



I号畠跡作業風景（南東から）



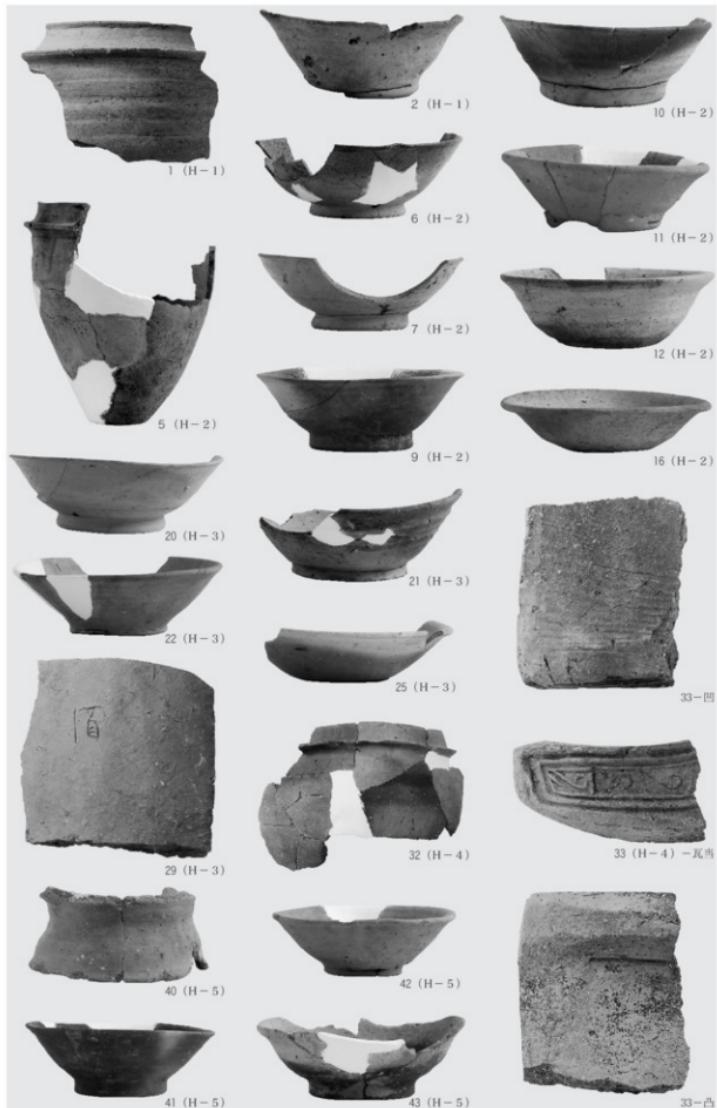
I号畠跡土層断面A A'（北から）

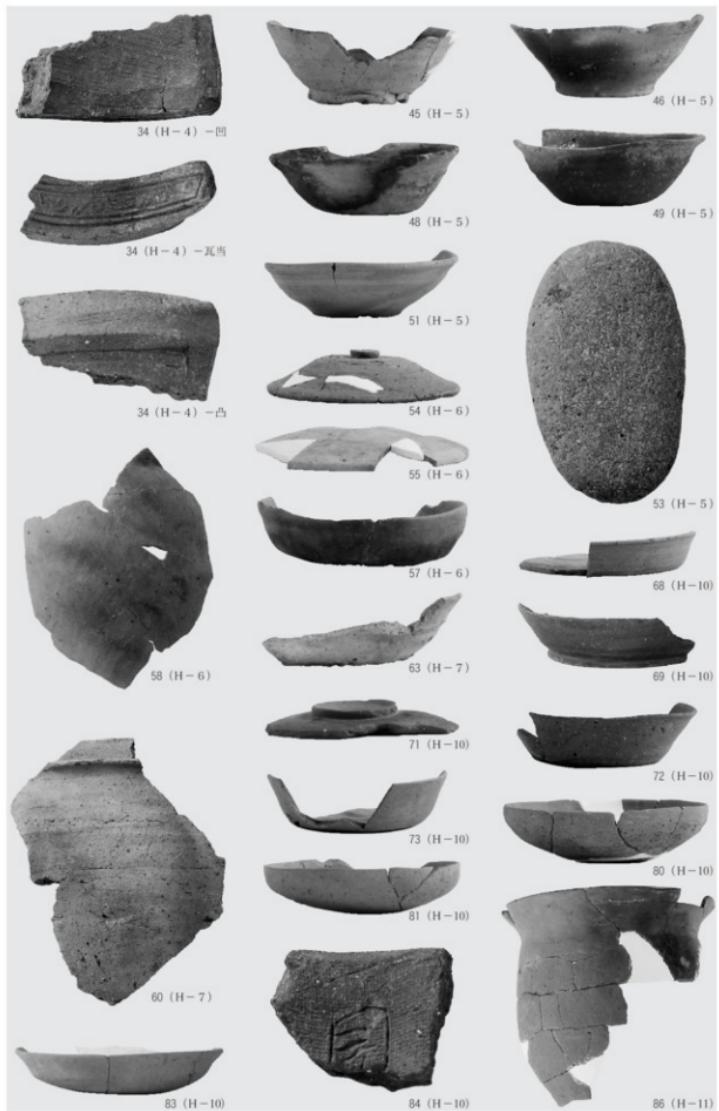


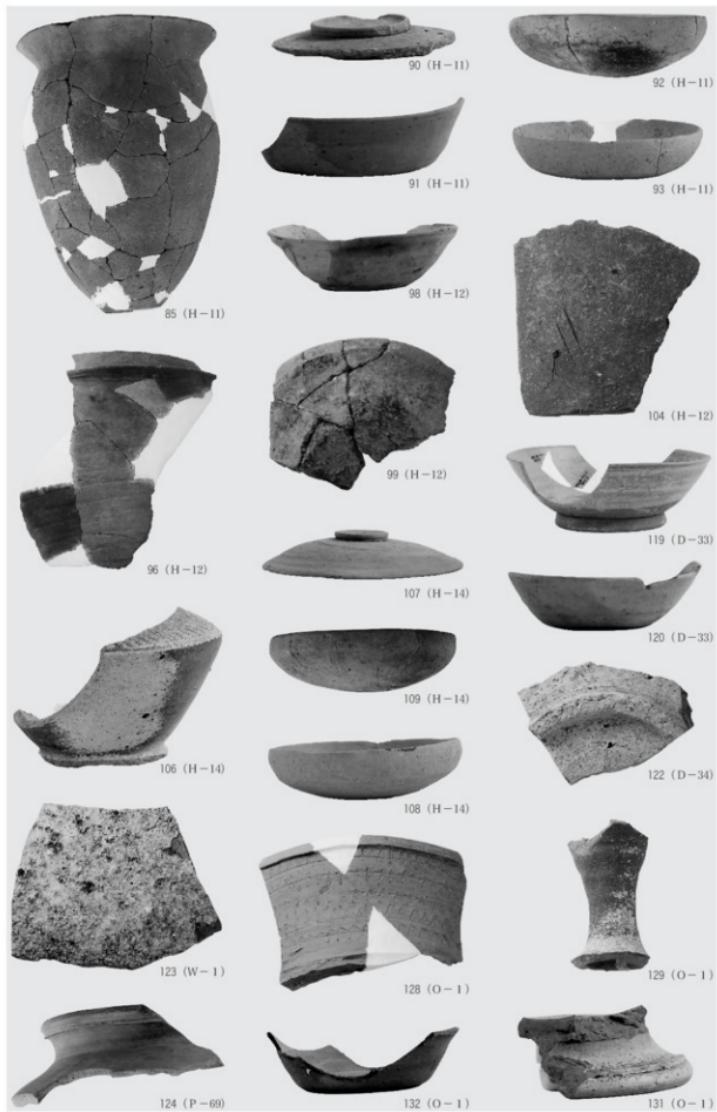
A-1号道路状遺構全景（北から）



A-1号道路状遺構土層断面B B'（北から）







報告書抄録

フリガナ	モツウジャオミイセキグン16						
書名	元総社蒼海遺跡群(16)						
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名							
編著者名	梅沢克典・櫻井和哉・パリノサーヴェイ株式会社						
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団・技研測量設計株式会社						
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団						
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2						
発行年月日	西暦2008年2月28日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 °°°	東経 °°°	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
元総社 蒼海遺跡群(16)	群馬県 前橋市 元総社町 1718,1719番	10201 -16	19A130 36°23'22" 139°01'51"		20070921 20080118	1,794m ²	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
元総社蒼海遺跡 群(16)	集落跡 その他	奈良・平安 中世 近世	堅穴住居跡 溝 井戸 土坑 ビット 風呉木痕 畠跡 道路状遺構	16軒 5条 1基 36基 260基 1基 1箇所 1条	縄文土器、土師器、須恵器、 灰釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、 中世・近世陶磁器 他		なし

元総社蒼海遺跡群(16)

2008年2月21日 印刷
2008年2月28日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三保町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷所 朝日印刷工業株式会社